

陸前高田市文化財調査報告 第31集

# 中沢遺跡発掘調査報告書

防災集団移転促進事業泊地区関連遺跡発掘調査

2017年

岩手県陸前高田市教育委員会

# 中沢遺跡発掘調査報告書

防災集団移転促進事業泊地区関連遺跡発掘調査



1号住居跡出土華燭土器

## 序

岩手県陸前高田市は、四季折々の豊かな自然の恩恵を海、川、そして北上山系の山々から享受することにより発展してまいりました。それは縄文時代の昔から現在まで変わることなく続いております。このような営みのもと先人が積み重ねてきた歴史や文化は、国指定史跡の中沢浜貝塚を始めとする貝塚遺跡、墨書土器・刻書土器が出土する古代遺跡、そして中世に築造された城館跡などの市内に点在する約270か所の「周知の埋蔵文化財包蔵地」として大地に刻まれております。このような歴史文化遺産を保存し後世に伝え活用していくことは、現在を生きる私たちの責務です。

一方、豊かな地域づくりや市勢発展のために実施する公共事業や社会資本整備が必要であることも事実です。しかし一度破壊された遺跡は二度と元には戻りません。陸前高田市教育委員会では、開発事業および東日本大震災後の様々な復興事業と貴重な遺跡の保護の両立を図るため関係機関と事前の協議を行い消滅する遺跡については発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は、防災集団移転促進事業の広田町泊地区における宅地造成事業に伴い実施した中沢遺跡の発掘調査成果を収録したものです。今回の調査では、縄文時代の集落とそこを造成して作られた中世と思われる未報告の城館跡が確認されました。

本書が、地域の方々をはじめとした学術研究、教育活動に広く活用され、ひいては文化財保護思想の普及啓発、郷土愛の醸成に役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および報告書刊行にあたり、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に深く御礼申し上げます。

平成29年3月

陸前高田市教育委員会

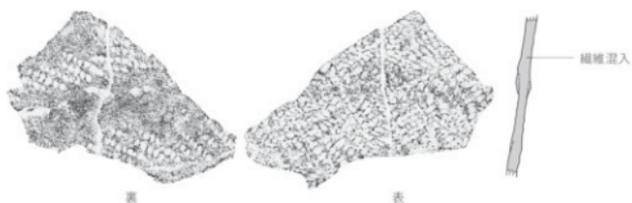
教育長 山田市雄

## 例 言

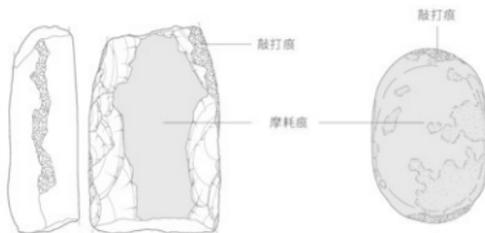
- 1 本報告書は、岩手県陸前高田市広田町字中沢7-7・8-1他に所在する中沢遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、防災集団移転促進事業（泊地区）に伴う事前の発掘調査である。調査は岩手県教育委員会の指導を受け、陸前高田市復興対策局と陸前高田市教育委員会との協議を経て、陸前高田市教育委員会が実施した。
- 3 岩手県遺跡登録台帳番号・市町村遺跡番号と調査時の遺跡略号は以下の通りである。  
岩手県遺跡登録台帳番号 NF88-1278 市町村遺跡番号 237 遺跡略号 NZ13
- 4 調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。  
調査期間 平成25年12月5日～12月26日 平成26年1月7日～3月31日  
調査面積 1637.47㎡  
調査担当者 葛西 智義（深川市教育委員会より派遣） 安井 宣也（奈良市教育委員会より派遣）  
阿部 泰之・今井 宏隆（福岡市より派遣）  
遠藤 勝博・後藤 円（陸前高田市教育委員会生涯学習課発掘調査員）
- 5 室内整理期間と整理担当者は以下の通りである。  
室内整理期間 平成28年5月1日～12月28日 平成29年1月4日～3月31日  
整理担当者 佐藤 典邦（陸前高田市教育委員会生涯学習課学芸員）
- 6 本報告書の遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は動物遺存体を除いて佐藤が撮影した。発掘調査後の記録整理は各調査担当者が行い、遺構・遺物図の補足・修正、遺物実測図・拓本の追加、石器器種分類の訂正は佐藤が行った。
- 7 本書の執筆分担当は以下の通りである。編集はIllustratorCs6 PhotoshopCs6 を使用して佐藤が行った。  
I～IV・VI 佐藤 典邦  
V 動物遺存体 山田凜太郎（京都大学大学院人間・環境学研究所）  
山崎 健（奈良文化財研究所）
- 8 分析鑑定及び委託業務は次の方々依頼した（敬称略）。  
石質鑑定 白玉 豊（大船渡市立博物館）  
基準点・水準測量…（有）さくら設計 ラジコンヘリ航空写真撮影…（株）タックエンジニアリング  
石器（一部を除く）・石製品・土器（SK9・SI1注口土器のトレース）の図化…（株）ラング
- 9 現地調査時のSX1はSI1に、SX2はSU1に変更している。なお、遺物注記は現地調査時の遺構記号により、現地調査時に水洗作業と並行して行っている。
- 10 現地調査・報告書作成にあたり、次の機関と方々から指導助言・協力をいただいた。  
岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課 大船渡市立博物館 熊谷常正（陸前高田市文化財調査委員）  
八木光則（陸前高田市文化財調査委員）
- 11 本遺跡の発掘調査記録及び出土遺物は陸前高田市教育委員会において保管している。

## 凡 例

- 1 挿図に使用した方位北は座標北を基準としている。
- 2 遺構断面図のレベルは海拔標高を示す。
- 3 検出遺構の表示については次の略号を使用し、種別ごとに番号を付した。  
SA: 棚列 SB: 掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SI: 竪穴住居跡 SK: 土 坑 SP: 柱穴・ピット SU: 遺物集積
- 4 土色については「新版標準土色帖」(小山・竹原 1997) を使用した。
- 5 縄文土器のうち、繊維混入と表・裏面に施文のある個体は下図のように表示している。



- 6 石器のうち、摩耗・敲打痕のある部分は下図のように表示している。その他の調整・使用痕については本文中において説明している。



- 7 遺構・遺物計測値は特別に記述のない限り、現存値を表記している。単位は表中に示した。
- 8 本文中の縄文土器分類・遺構時期の記載については、下記のように表記した。  
1類 縄文早期沈線文土器 2類 縄文早期表裏縄文施文土器 3類 縄文中期大木9式土器  
4類 縄文後期門前様式土器 5類 縄文後期貝島・宮戸1b式土器 6類 縄文後期宝ヶ塚式土器  
土器器形は、a 深鉢 b 鉢 c 浅鉢 d 台付鉢 e 華鬘形 f 注口 g 壺 とした。
- 9 基本土層については調査時の記録はないが、SU1の北側土層を基準とする。上層から表土・旧耕作土、以下、褐色粘土・明黄褐色砂質粘土(地li)、風化花崗岩(地li)である。

# 中沢遺跡発掘調査報告書

序  
例言  
凡例

## 本文目次

I	調査に至る経過	1
1	調査の経緯	1
2	調査体制	3
3	現地調査の経緯	3
II	遺跡の位置と環境	5
1	遺跡の位置と地理的環境	5
2	歴史的環境と周辺の遺跡	5
III	調査と整理の方法	11
1	調査区の設定	11
2	調査方法	11
3	資料整理	11
IV	調査の成果	15
1	竪穴住居跡	15
2	土坑	15
3	溝	19
4	掘立柱建物跡・櫛列・ピット	29
5	遺物包含層	33
V	動物遺存体	60
VI	総括	67

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第 1 図	中沢遺跡の位置 (1/25000)	2	第 25 図	SK10・11・12 出土縄文土器・石皿 (1/2・1/3)	4 1
第 2 図	地形分類図 (1/50000)	6	第 26 図	SK12 出土石皿 (1/3)	4 2
第 3 図	旧地形図 (1/2500)	7	第 27 図	SK12 出土石皿・砥石 (1/3)	4 3
第 4 図	周辺の遺跡 (1/25000)	8	第 28 図	SK12 出土大形磨石 (1/3)	4 4
第 5 図	中沢遺跡調査範囲 (1/1000)	1 2	第 29 図	SK14・15・18・20 出土縄文土器・石器 ・土製品 (1/2・1/3)	4 5
第 6 図	1区遺構配置図 (1/200)	1 3	第 30 図	SK21・22・24 出土縄文土器・磨石 土製品 (1/2・1/3)	4 6
第 7 図	2区遺構配置図 (1/300)	1 4	第 31 図	SK24・26・SD1 出土縄文土器・土製品 (1/2・1/3)	4 7
第 8 図	SI 1 平面・セクション図 (1/60)	1 6	第 32 図	SD1 出土縄文土器・土製品 (1/2・1/3)	4 8
第 9 図	SK1・2・3 平面・セクション図 (1/40)	2 0	第 33 図	SD1 出土石器・土製品 (4/5・1/2)	4 9
第 10 図	SK4・5・6・7・8 平面 ・セクション図 (1/40)	2 1	第 34 図	SD1 出土縄文土器・石器 (1/2・1/3)	5 0
第 11 図	SK9・10・11・12・13 平面・セクション図 (1/40)	2 2	第 35 図	SU1 出土縄文土器 (1/3)	5 1
第 12 図	SK14・15・16・17・18・ 19・20 平面・セクション図 (1/40)	2 3	第 36 図	SU1 出土縄文土器 (1/3)	5 2
第 13 図	SK21・22・23・24・25・26 平面・セクション図 (1/40)	2 4	第 37 図	SU1 出土石器・土製品 (4/5・1/2)	5 3
第 14 図	SD1 平面・セクション図 (1/80・1/200)	2 7	第 38 図	SU1 出土石器 (1/2・1/3)	5 4
第 15 図	SB1・SA4 平面 ・エレベーション図 (1/80)	3 0	第 39 図	SP70・79 出土石器 (4/5・1/2・1/3)	5 5
第 16 図	SA1・2・3 平面 エレベーション図 (1/80)	3 1	第 40 図	表土出土縄文土器・石器・土製品 片口鉢 (4/5・1/2・1/3)	5 6
第 17 図	SU1 平面・セクション図 (1/80・1/200)	3 3	第 41 図	メッシュ別貝類組成 (MNI)	6 1
第 18 図	SI 1 出土縄文土器 (1/3)	3 4	第 42 図	メッシュ別魚類組成 (NISP)	6 2
第 19 図	SI 1 出土縄文土器 (1/3)	3 5			
第 20 図	SI 1 出土縄文土器 (1/3)	3 6			
第 21 図	SI 1 出土縄文土器 (1/3)	3 7			
第 22 図	SI 1 出土石器・土製品 (4/5・1/2・1/3)	3 8			
第 23 図	SK1・3・5・9 出土縄文土器・土製品 (1/2・1/3)	3 9			
第 24 図	SK9 出土縄文土器・石器・石製品 ・骨角器 (1/1・1/2・1/3)	4 0			

## 表 目 次

第1表	中沢遺跡周辺の遺跡	9	第9表	石器観察表	58
第2表	1号住居跡土層注記	16	第10表	縄文土器観察表	59
第3表	土坑観察表	19	第11表	中沢遺跡動物遺存体一覧	64
第4表	土坑土層注記	25	第12表	メッシュ別サンプル重量(質量)	65
第5表	1号溝土層注記	28	第13表	メッシュ別同定結果(魚類以外)	65
第6表	ピット観察表	32	第14表	魚類同定結果	66
第7表	遺物包含層土層注記	33	第15表	出土遺物集計表	69
第8表	土製品観察表	57			

## 図 版 目 次

原色図版	1号住居跡出土華燭土器	図版21	表土出土の縄文土器・土製品・石器・中世片口鉢
図版1	(1) 中沢遺跡と中沢浜貝塚(北より) (2) 中沢遺跡全景(西より)	図版22	SK9動物遺存体
図版2	1. SK1遺物出土状況・2. SK1遺物出土状況・3. SK1土層・4. SK1全層・5. SK1土層・6. SK4土層・7. SK5全層・8. SK6土層		
図版3	1. SK7土層・2. SK8土層・3. SK9土層・4. SK9貝層・5. SK9全層・6. SK10全層・7. SK12土層・8. SK12全層		
図版4	1. SK13全層・2. SK14全層・3. SK15全層・4. SK1617全層・5. SK20全層・6. SK21全層・7. SK22全層・8. SK23全層		
図版5	1. SK24遺物・2. SK25全層・3. SD1西段土層・4. SD1東段土層・5. SD1全層(西より)		
図版6	(1) SB1北西部(西より) (2) SU1土層断面(南より)		
図版7	SI1出土縄文土器		
図版8	SI1出土縄文土器		
図版9	(1) SI1出土石器・土製品 (2) SK9出土縄文土器		
図版10	SK9出土縄文土器・石器・釣針		
図版11	SK12出土石皿・磨石・砥石		
図版12	SK14・SK20・SK21出土縄文土器・土製品・土偶		
図版13	SK24出土縄文土器		
図版14	SD1出土縄文土器		
図版15	(1) SD1出土縄文土器(表) (2) SD1出土縄文土器(裏)		
図版16	(1) SD1出土縄文土器 (2) SD1出土土製品		
図版17	SD1出土石器・腕輪形土製品		
図版18	(1) SU1出土縄文土器(表) (2) SU1出土縄文土器(裏)		
図版19	(1) SU1出土縄文土器(表) (2) SU1出土縄文土器(裏)		
図版20	(1) SU1出土石器 (2) SU1出土石器		

## I 調査に至る経過

### 1 調査の経緯

中沢遺跡は震災復興関連開発事業計画の実施個所に位置している。平成 24 年 8 月 21 日付教生第 713 号「平成 24 年度以降の震災復興関連開発事業計画に係る埋蔵文化財の取扱い協議について（通知）」により、岩手県農林水産部魚港漁村課と上記の内容についての協議を行い、災害復旧事業の予定地内に中沢遺跡が所在する事を農林水産部漁業漁村課に回答した旨、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長から陸前高田市教育委員会教育長あて通知があった。

その後、平成 24 年 11 月 12 日付陸高復興第 78 号により防災集団移転促進事業の予定地に広田町が含まれるため、埋蔵文化財の分布調査依頼が陸前高田市長から陸前高田市教育委員会教育長にあった。これを受けて平成 24 年 12 月 10 日～11 日の期間、分布調査が実施された。結果、中沢遺跡の事業予定地全体が遺跡の主体部と想定されるため文化財保護法第 94 条による手続きが必要との回答を平成 24 年 12 月 17 日付陸高教生第 350 号で陸前高田市教育委員会教育長から陸前高田市長に行った。

平成 25 年 7 月 8 日付陸高復興第 145 号により陸前高田市長から岩手県教育委員会教育長あて文化財保護法第 94 条第 1 項による埋蔵文化財発掘の届出があり、これを受けて平成 25 年 7 月 12 日付教生第 4-86 号により岩手県教育委員会教育長から陸前高田市長あて試掘調査を実施するよう勧告があった。続いて平成 25 年 8 月 5 日付陸高復興第 192 号により中沢遺跡の事業予定地内の試掘調査依頼が陸前高田市長から陸前高田市教育委員会教育長にあった。調査対象面積は 4675 m<sup>2</sup>である。

また、試掘調査予定地は急傾斜地崩壊危険区域に該当するため、平成 25 年 8 月 20 日付で急傾斜地崩壊危険区域内行為許可申請書が陸前高田市教育委員会教育長から沿岸広域振興局長に提出された。

試掘調査は平成 25 年 11 月 21 日陸前高田市教育委員会生涯学習課の発掘調査員 2 名によって実施された。22 本のトレンチを掘削し、竪穴住居跡・土坑を検出した。

続いて平成 25 年 12 月 5 日から本発掘調査を開始した（陸高教生 710 号 岩手県教育委員会教育長あて発掘調査の着手報告）。



第1図 中沢道跡の位置

0 1000 m  
 (1/25000)

## 2 調査体制

調査主体	陸前高田市教育委員会
教 育 長	山田市雄
総 括	大久保裕明 (教育次長兼生涯学習課長)
事務局	伊藤真基 (同課生涯学習課長補佐)
	吉田幸喜 (同課生涯学習係長)
	桐木 亮 (同課主任主事・京都市教育委員会より派遣)
	曳地隆元 (同課学芸員)
調 査 員	葛西智義 (同課主査・深川市教育委員会より派遣)
	安井宣也 (同課主任・奈良市教育委員会より派遣)
	阿部泰之 (同課主任主事・福岡市より派遣 平成24年4月～平成24年9月)
	今井博隆 (同課主事・福岡市より派遣 平成24年10月～平成25年3月)
	遠藤勝博 (同課発掘調査員)
	後藤 円 (同課発掘調査員)
作業員	荒木コギク、荒木美智代、梅木良子、及川亜紗美、及川恵美子、大和田武喜、菅野貴恵、菅野トシエ、菅野弘利、菅野由美子、熊谷望、後藤美知香、金野由紀夫、佐々木栄子、佐々木聡、佐々木のり子、佐々木美佳、佐々木道子、佐藤キヨ子、佐藤美代子、菅原とみ子、鈴木貞子、高橋景奈、高橋由美、戸羽さおり、戸羽由美、三嶋登喜子、村上菜穂子、村上紀子、村上由美子、山谷富助、横澤桐子、渡部アヤ子

## 3 現地調査の経緯

平成25年(2013年)

12月5日：調査開始。1区フラスコ状土坑再検出。

12月5日～19日：重機による掘り作業。

12月9日：1区検出作業。2基のフラスコ状土坑確認。

12月19日：1区2基のフラスコ状土坑の清掃と検出状況撮影。

12月24日：1区土坑2基精査。2区検出作業。

12月25日：1区土坑の注記・記録と全掘作業。

12月26日：1区土坑の完掘と記録作業。西地区、溝の検出作業。北側の谷地形から遺物出土。

#### 平成26年(2014年)

1月7日～9日：2区溝(SD1)と北端落込みの掘り下げ。

1月10日～22日：2区溝(SD1)掘下げ作業。

1月24日：基準点測量実施。2区遺構検出作業と北側落込み状部分の平面図作成。

1月27日～30日：遺構検出作業と2区平面図作成。

2月3日～4日：遺構掘下げと遺構土層断面記録。

2月5日～26日：天候不良により、現場休止。

2月27日～3月14日：遺構掘下げと遺構土層断面記録。

3月17日～20日：遺構掘削と写真・図面記録。

3月24日：調査区清掃

3月24日：空撮実施。

3月26日～3月30日：遺構掘削と図面作成。

3月31日：調査終了。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境

中沢遺跡は、広田半島先端に位置する小起伏山地の大森山(標高147.2m)の西1kmの地点にある。遺跡は小起伏山地の周囲に広がる丘陵部に立地している。半島全体は白亜紀花崗岩を基盤としているため、遺跡の地山は風化花崗岩・花崗岩である。

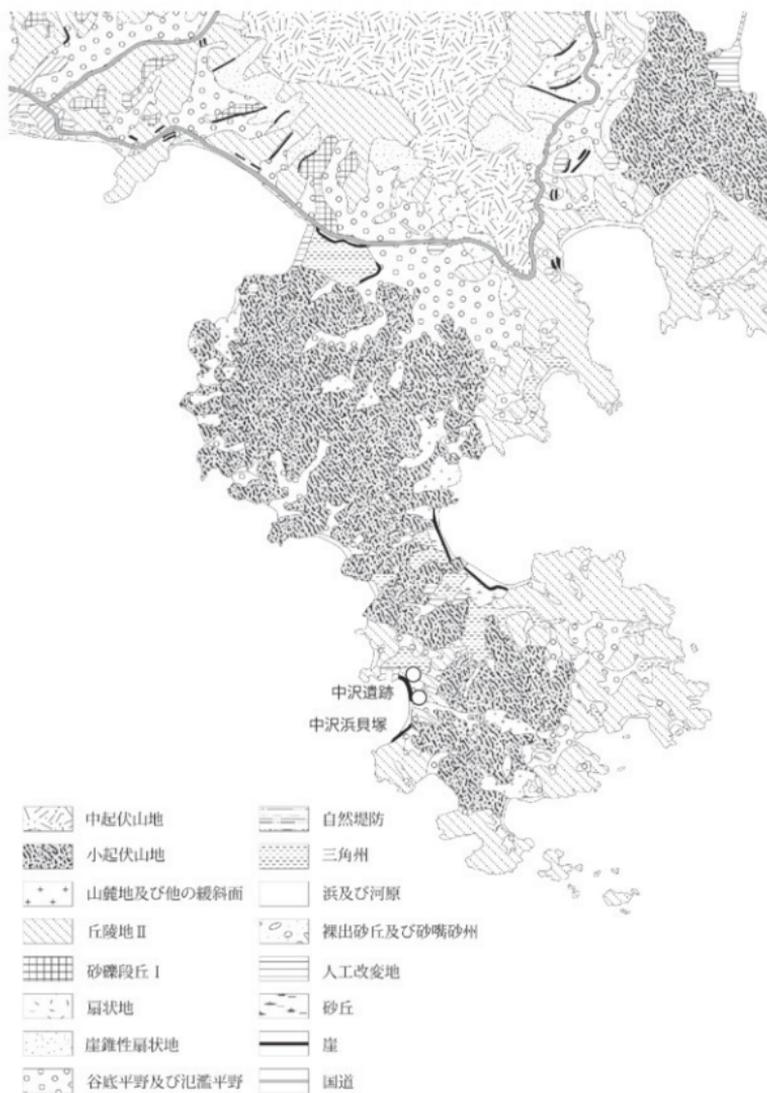
1950年代から70年に作成された旧地形図(第3図)は、広田漁港が整備される以前の遺跡周辺の地形を示している。250m南に所在する国史跡中沢浜貝塚とともに、西側の丘陵裾部は砂浜の海岸線である。この旧地形図には遺跡の立地する丘陵頂部の標高が24mと表記されているが、防災集団移転促進事業のために作成された地形図では22.44mであった(第5図)。70年代以降、丘陵頂部の削平が進行したことがわかる。一方、標高5・10mの等高線は、隣接する中沢浜貝塚の所在する丘陵裾部を巡っているが、標高15mの等高線は分離している。中沢遺跡の立地する丘陵が周囲から独立した丘陵のような景観を見せている理由のひとつである。

丘陵の北側は急傾斜地崩壊危険区域にあたり、失われた斜面部のため丘陵全体が東西方向に細長い形状を呈している。北側斜面の崩落は早くから始まっていたと思われる。崩落によってできた窪地あるいは小規模な谷頭の部分が埋没してゆく過程で、縄文早期後葉を主体とする遺物包含層の形成がある(第7図SU1)。また、旧地形図にみられるように汀線に近接しているため、縄文海進の時期には波蝕による崩壊が進行したと考えられる。周囲の丘陵から分離したような現在の地形は海進時の浸食による要因が大きいように思われる。

### 2 歴史的環境と周辺の遺跡

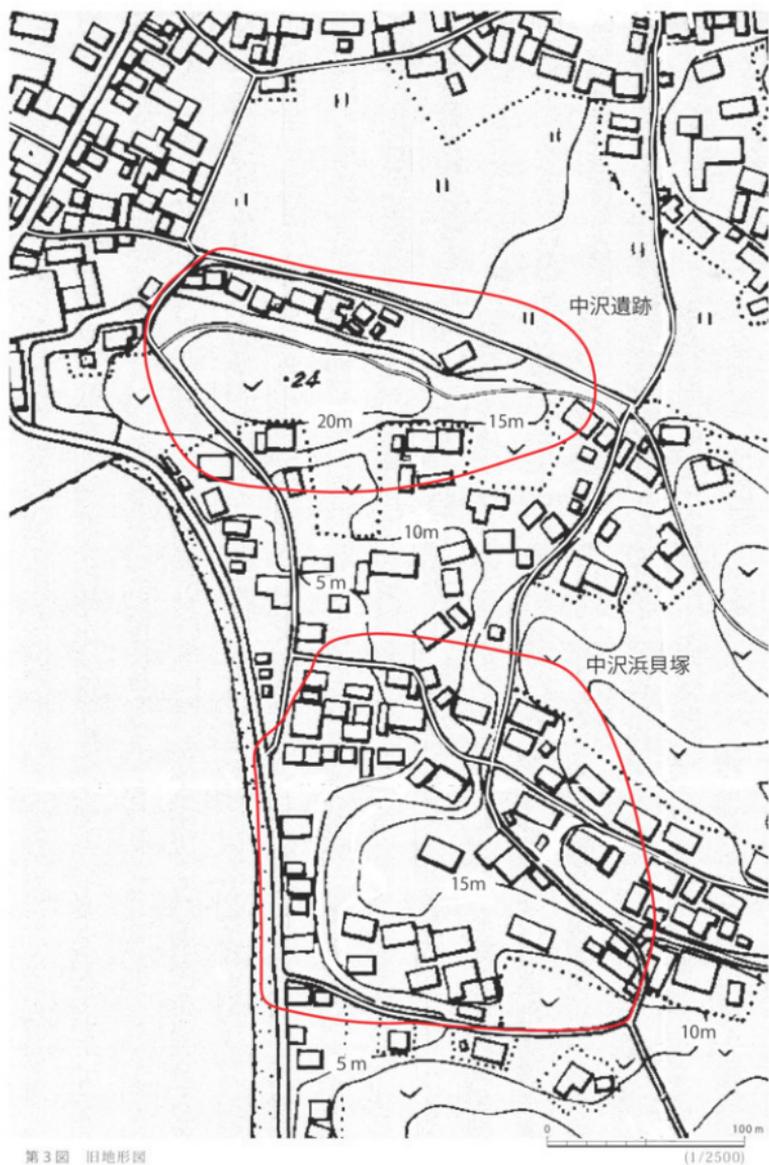
広田半島に所在する遺跡は丘陵地・山麓地および緩斜面に多く分布している。縄文時代の遺跡が多いが、数少ない弥生・奈良・平安時代の遺跡が位置する場合は、狭隘な三角州や谷底平野に隣接している(第4図・第1表)。

貝塚は、中沢遺跡周辺に国史跡中沢浜・久保・金室・岩倉・袖野1の存在が知られている。また、広田半島北西部には瀬沢・大陽台貝塚が所在している。詳細は不明だが、中沢浜貝塚の南西200mの丘陵部にも貝塚の存在が知られている(岩手県遺跡台帳検索システム、平成27年版)。中沢浜貝塚は



第2図 地形分類図

0 2000m  
(1/50000)



第3図 旧地形図



縄文時代早期から弥生時代の遺跡として登録されているが、発掘調査で確認されている貝層の時期は前期から晩期である（佐藤正彦 1994）。

中沢遺跡は「岩手の貝塚」（岩手県教育委員会 1998）には中沢貝塚として登録されている。自然遺物としてアワビの記載がある。今回の調査ではフラスコ状土坑から貝層が検出されているが、他に廃棄された貝層の痕跡はなかった。北側斜面の崩落が著しいから、かつての貝層自体が消滅した可能性がある。

弥生時代の資料は主に土器である。中沢浜貝塚では、弥生時代前期・中期の良好な土器が出土している。小田野哲憲氏編年案のIa・Ib期の土器群が主体をしめるが、後期IV期の出土例も数例知られている（小田野哲憲 1987）。中沢浜貝塚・中沢遺跡の北に隣接して広がっている泊の集落一帯は、小規模な三角州である。稲作が可能な環境があったように考えられる。また、半島北東部の長洞遺跡では、石切場出土と言われている壺形土器が知られている（細谷英男 1994 小田野分類のII期）。弥生時代前期・中期の土器が多数出土した米崎町川内遺跡（佐藤正彦他 2003）と同様に広田半島にも弥生時代の比較的大きな遺跡が存在している。

また、今回の調査では中世の遺構・遺物も検出されている。広田半島には小館・高館・八幡館などの城館が多いが、調査区南斜面から検出された幅3mの溝を堀跡と判断すれば、中沢遺跡が城館として使われていた時期があったと考えられる。

第1表 中沢遺跡周辺の遺跡

番号	遺跡名称	所在地	遺跡の概要
1	中沢	広田町字中沢	散布地 縄文土器（中期）
2	中沢浜貝塚	広田町字中沢	貝塚 縄文土器（早期～晩期）、弥生土器、石鏝、石斧、骨角器、骨類（魚、獣類） 昭和9年1月22日国史跡
3	詳細不明	広田町字中沢	貝塚 貝層
4	小館	広田町字泊	城館跡 郭
5	泊	広田町字泊	散布地 縄文土器（後期） 半壊
6	高館	広田町字久保	城館跡 空堀、主郭、腰郭
7	赤沼	広田町字越田・後花貝	散布地 縄文土器（後期） 壊滅
8	内田	広田町字中沢	散布地 縄文土器
9	八幡館	広田町字泊	城館跡 郭、平場
10	久保1	広田町字久保	散布地 縄文土器
11	久保貝塚	広田町字久保	貝塚 縄文土器（後・晩期） 壊滅
12	金室	広田町字集	貝塚 縄文土器（前期・晩期）
13	集	広田町字集	散布地 縄文土器（前期）

14	東館	広田町字集	城館跡 空堀
15	根崎	広田町字根坪	散布地 縄文土器
16	赤坂角地	広田町字赤坂角地	散布地 縄文 土器片
17	岩倉	広田町字岩倉	貝塚 縄文土器（後期）、貝層
18	黒崎	広田町字黒崎	集落跡 縄文・奈良・平安 縄文土器（後期）、土師器
19	大祝Ⅱ	広田町字大祝	散布地 縄文 土器片
20	大祝Ⅰ	広田町字大祝	散布地 縄文土器（後期）
21	蒲田Ⅱ	広田町字蒲田	散布地 縄文 土器片
22	蒲田Ⅰ	広田町字平畑	散布地 縄文土器
23	胡畑	広田町字山田	散布地 縄文土器（中期）
24	平館	広田町字平畑	城館跡 空堀、腰郭、主郭
25	花館	広田町字大久保	城館跡 郭
26	平畑	広田町字平畑	散布地 縄文土器
27	小屋敷	広田町字小屋敷	散布地 縄文・奈良・平安 縄文土器、土師器、土師質土器、陶器
28	袖野Ⅰ	広田町字袖野	散布地 縄文（前期～晩期）・奈良・平安 土師器、フレーク、石鏃、石匙
29	袖野Ⅱ	広田町字袖野	散布地 チップ
30	長根洞Ⅰ	広田町字長根洞	散布地 縄文
31	小ヶ口	小友町字小ヶ口	散布地 奈良・平安 須恵器
32	長根洞Ⅱ	広田町字長根洞	散布地 チップ、縄文土器
33	小長洞	広田町字小長洞	散布地 縄文・弥生・奈良・平安 縄文土器（晩期）、弥生土器 土師器
34	長洞	広田町字長洞	散布地 縄文・弥生 縄文・弥生土器
35	矢館	広田町字長洞	城館跡 腰郭
36	蛇ヶ崎城(谷地館)	小友町谷地館	城館跡 空堀、腰郭、平場、主郭、二の郭
37	腰廻Ⅲ	小友町字腰廻	散布地 奈良・平安 土師器
38	腰廻Ⅳ	小友町字腰廻	散布地 縄文
39	腰廻Ⅴ	小友町字腰廻	散布地 縄文土器

### III 調査と整理の方法

#### 1 調査区の設定

調査区は試掘調査結果に基づき、丘陵東側約 190 m を 1 区、丘陵西側約 1450 m を 2 区とした（第 5 図）。グリッドは平面直角座標第 X 系（世界測地系）に合わせて設定した。4 級基準点測量・3 級水準測量を行い、2 区は 5 × 5 m のメッシュで調査区全体を区割りした。この区割りには X = -115470、Y = 74465 を起点として北から南へ A から H のアルファベット、西から東へ 1 から 12 までの数字を付している。各グリッドは北西交点を基準として A 1 ・ B 1 と呼称した。1 区については区割りを行わず、調査区中央に X = -115500、Y = 74580 の基準杭を設置した。

#### 2 調査方法

試掘調査において遺構検出までの深さと層序は確認できていたので、表土は重機を使用して掘削した。検出した遺構は 2 分法・4 分法を原則として掘り下げ・精査を行ったが、ビットについては埋土の色調などの特徴を分類注記して完掘したものがある。

遺構は SI ・ SK といった記号で表記し、出土遺物は層別に取り上げをおこなっている。平面図は簡易的な遺方測量、セクション図は絶対標高を基準とし、1/20 縮尺で作成している。遺物出土状況図の作成は行っていないが、出土状況写真をもってこれに代えている。

写真撮影は 35mm デジタル一眼レフカメラと 35mm フィルム一眼レフカメラ（モノクロ・カラーリバーサル）、コンパクトデジタルカメラによる撮影を行った。調査区全景撮影は株式会社タックエンジニアリングに委託してラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

#### 3 資料整理

野外調査で作成した遺構図の修正作業を行い、トレース及び版組は Illustrator CS6 を使用した。調査時撮影写真は Photoshop CS6 を使用して版組作成を行った。土層注記は調査時の記載を一部変更した部分がある。



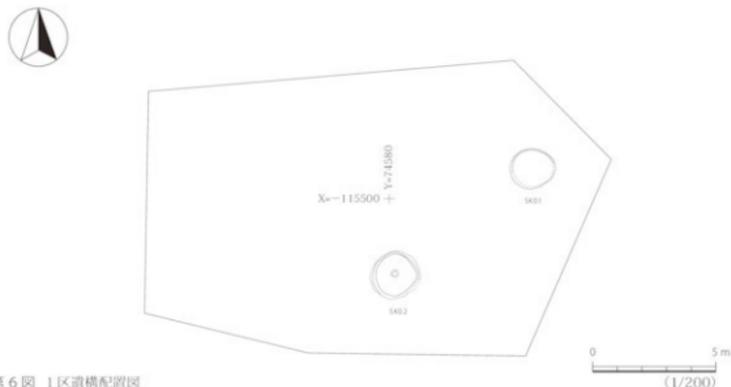
第5図 中沢遺跡調査範囲

出土遺物の水洗・注記・遺物台帳登録は野外調査と並行して実施している。石器分類の誤りは整理作業中に訂正したものがある。

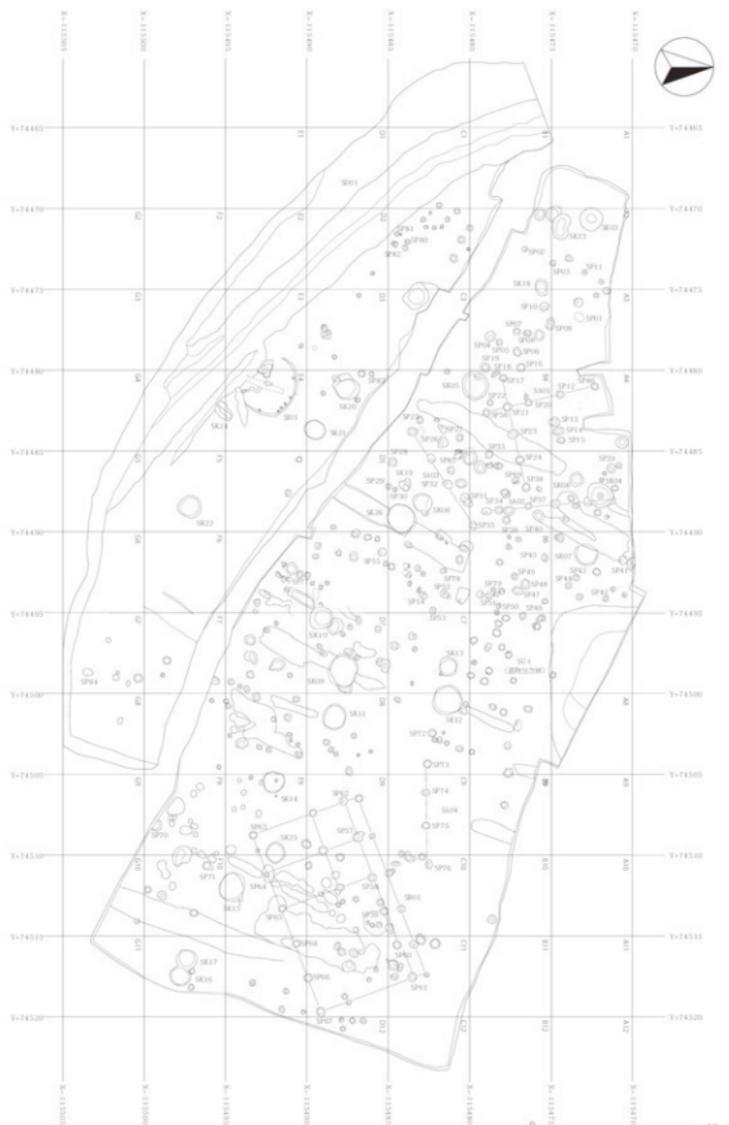
報告書掲載遺物の選択後、土器接合・復元・拓本・実測を行い、トレースはIllustrator CS6を使用した。石斧の一部・大形の石皿・磨石の一部・土偶・腕輪状土製品以外の、石器・石製品・土製品の实測・トレースは株式会社ラングに委託した。版組はIllustrator CS6を使用している。各遺物の縮尺はスケールに表記した。

遺物写真は35mmデジタル一眼レフカメラを使用した。版組はPhotoshop CS6とIllustrator CS6を併用している。

本文・遺構遺物観察表の作成後、報告書全体の編集作業は上記した各ソフトで行い、印刷所へ全てデジタルデータで入稿した。



第6図 1区遺構配置図



第7图 2区总图配置图

## IV 調査の成果

### 1 竪穴住居跡

#### 1号住居跡(SI1) (第8図・第18図～22図)

平面形 E3・E4区検出。直径推定3.4mの平面円形の住居跡である。南側3分の1は崩落によって消失していた。丘陵北側のような急傾斜ではないが、南側調査区境界と丘陵頂部の高低差は約1.5mである。SD1の掘削による影響はない。

壁 住居壁は北西側の最も深い部分で、50cmであった。炉跡中心から北壁・東壁・西壁までの距離は約1.7mで共通している。

柱 穴 P1からP6の小形の柱穴が壁際に検出された。P1は大きさ25×13cm・深さ18cm、P2は大きさ13×12cm・深さ9cm、P3は大きさ20×12cm・深さ12cm、P4は大きさ16×16cm・深さ10cm、P5は大きさ15×15cm・深さ9cm、P6は大きさ17×14cm・深さ7cmであった。P1の深度が最も大きい、他は10cm前後である。

炉 焼土の分布範囲48×35cmの地床炉である。住居床面の中央に位置している。

埋 土 住居跡の埋土は1・1'・2層である。いずれも自然堆積層であった。4層は炉の掘方の可能性もあるが、層理面の形状から判断すると木根と考えられる。4層以下は斜面の崩落に伴う堆積土であって、住居の大部分はこの堆積層を掘削して作られている。

遺物出土状況 住居の残存状態は良好ではなかったが、1・1'層から多数の遺物が出土した。1層下部の床面直上には大形の土器個体が多い。調査時に分層はしていないが、埋土の1次堆積土中に廃棄された状況を示している。6類土器の一括資料である。華燭形土器、注口土器など造形の優れた個体を含んでいる。石器・土製品の出土数は少なかったが、有縁の石皿(第22図18)・土偶の脚部(同図11)の出土があった。

### 2 土 坑

#### 1号土坑(SK1) (第9図・第23図)

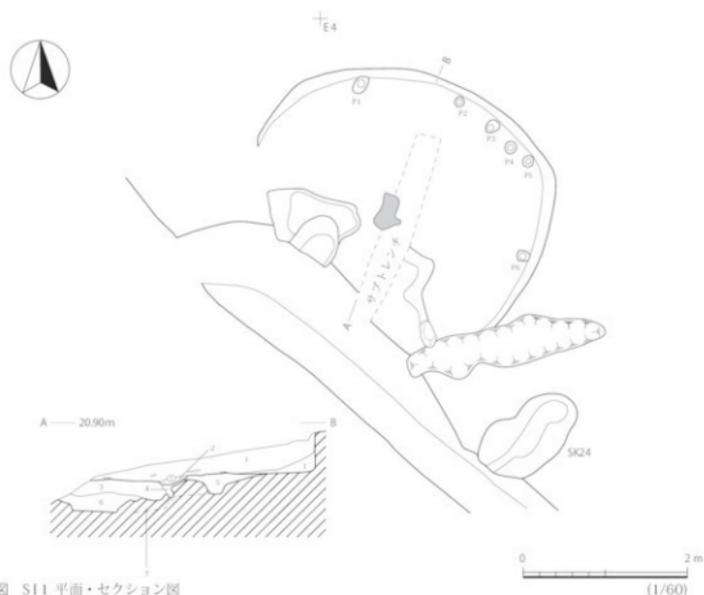
1区北東部検出。平面形は円形、断面形は円筒形である。6類土器の破片が埋土から出土した。その他、円盤状土製品が1点出土している。

## 2号土坑 (SK2) (第9図)

1区南側検出。1号土坑の南西5mに位置している。平面形は円形、断面形はフラスコ状である。土坑底にピットを持っている。現地調査時の記録にも整理作業段階の確認作業でも遺物の存在は皆無である。時期の詳細は不明。

## 3号土坑 (SK3) (第9図・第23図)

3号土坑からはすべて2区検出である。平面形は小形の円形、断面形は船底形である。6類土器が出土している。



第8図 S11 平面・セクション図

第2表 1号住居跡土層注記

層位	土色	土質	備考
1	10YR2/1 黒色	土	Rness/G2~3%, 炭化物粒1%, 土器片あり
1'		土	1層位に類似してしまり強
2	10YR3/2 黒褐色 5YR3/8 明赤褐色	粘土 粘土	10% しまりや中強
3	10YR2/1 黒色 10YR6/8 暗黄褐色	土 粘土	2~3%, Rness/G2~3% しまりや中強
4	10YR3/4 紅ぶい黄褐色 10YR6/8 暗黄褐色 10YR3/1 黒褐色	土 粘土 土	3% 2% しまりや中強
5	10YR3/4 紅ぶい黄褐色 10YR6/8 暗黄褐色 10YR3/1 黒褐色	土 粘土 土	5% 3~5% しまりや中強
6	10YR4/3 紅ぶい黄褐色 10YR6/8 暗黄褐色	土 粘土	5% しまりや中強
7	10YR3/1 黒褐色	土	3%

## 4号土坑(SK4) (第10図)

A5区検出。平面形は円形、断面形は円筒形である。深度は80cmで調査区内出土の土坑ではSK15に次ぐ深さである。土坑底にピットを持っている。遺物は縄文土器の小片が10点である。時期は縄文中期後葉から後期中葉のいずれかと思われるが詳細は不明。

## 5号土坑(SK5) (第10図・第23図)

B4・C4区検出。平面形は円形、断面形は船底形である。6類土器が出土している。

## 6号土坑(SK6) (第10図)

C5区検出。SK26に隣接する。平面形は円形、断面形は不整形である。現地調査時の記録にも整理作業段階の確認作業でも遺物の存在は皆無である。時期の詳細は不明。

## 7号土坑(SK7) (第10図)

A6区検出。平面形は円形、断面形は円筒形である。西側3分の1は近現代と思われる攪乱溝によって上端・下端とも破壊されている。遺物の出土記録はない。

## 8号土坑(SK8) (第10図)

A5区検出。平面形は楕円形、断面形は不整形である。遺物の出土記録はない。

## 9号土坑(SK9) (第11図・第23図～24図)

D7区検出。平面形は円形、断面形はフラスコ状である。埋土6・7・8・9層は水平堆積の状態を示している。1～5層はレンズ状堆積である。南東部の土坑底壁際に厚さ約20cmの貝層がある。9層堆積後に廃棄された貝・魚骨である(V 動物遺存体 参照)。土坑に廃棄された3類土器深鉢・壺・小形壺は、それぞれ北壁際・東壁際・埋土中層の現地調査時の注記があり、6～9層から出土したと考えられる。釣針軸頂部の破片は貝層中、有孔軽石製品・礫器・有縁の石皿・磨石はすべて埋土中位出土の注記がある。貝層と同時期と考えられる。

## 10号土坑(SK10) (第11図・第25図)

D6・D7区検出。平面形は円形、断面形は鍋底形である。3類土器の小破片が出土している。

## 11号土坑(SK11) (第11図・第25図)

D8区検出。平面形は円形、断面形は円筒形である。SK9に隣接している。赤彩の痕跡が底部付近に見られるミニチュア土器が下層から出土している。層位の注記がないが、3類・4類土器の破片が数点出土している。

## 12号土坑(SK12) (第11図・第25図～28図)

C7・C8区検出。平面形は円形、断面形は円筒形である。埋土中位・下位から石皿4点、大形磨石1点が出土している。土坑底から砥石1点の出土がある。他に、磨石と注記された直径4cmの礫が現地調査時に取り上げられているが、自然の円礫であった。また、現地調査時の記録にも整理作業段階の確認作業でも土器は皆無である。無縁石皿の形態から判断すると、縄文中期後葉の時期と考えられる。4点それぞれ大きさに差があるが、半月形の形状は一致している。最大の石皿と大形磨石は、石皿の幅と磨石の長さがほぼ同じである。

13号土坑(SK13) (第11図)

C7区検出。SK12に隣接する。平面形は円形、断面形は不整形である。縄文土器の小片13点の出土があるが詳細は不明である。

14号土坑(SK14) (第12図・第29図)

E9区検出。平面形は円形、断面形は円筒形である。土坑底にピットがある。ピットを土坑底に持つ土坑は本例を含めて3基である。縄文土器4類の比較的大形の破片と円盤状土製品、磨石が出土している。出土層位の記録はない。

15号土坑(SK15) (第12図・第29図)

E10・F10区検出。平面形は円形、断面形はフラスコ状である。深度は調査した土坑中最も深く85cmである。層位の注記はないが、5類土器の小片が出土している。

16号・17号土坑(SK16・17) (第12図)

F11区検出。2区東端部に位置する。平面形は円形、断面形は円筒形である。16号土坑より17号土坑が新しい。丘陵頂部にあたり標高22.44m付近である。旧地形図(第3図)では24mの記載があるので、削平を受けて土坑深は20cm前後である。2区西端SK3から南東方向へ列状に並ぶ土坑群の東端にあたる。出土遺物は16号土坑から縄文土器小片が4点、時期の詳細は不明である。

18号土坑(SK18) (第12図・第29図)

B2・B3区検出。平面形は楕円形、断面形は船底形である。深度10cmである。5類と思われる土器の小片がある。時期の詳細は不明である。

19号土坑(SK19) (第12図)

C5区検出。平面形・断面形ともに不整形である。土坑としては、地山との境界が不明瞭である。

20号土坑(SK20) (第12図・第29図)

D4区検出。平面形は円形、断面形は船底形である。1号住居跡の北側に隣接している。縄文土器6類・ミニチュア土器・土偶肩部が出土している。土偶は腕部分の欠損面に接合痕が観察できる。

21号土坑(SK21) (第13図・第30図)

D4・E4区出土。1号住居跡の北東側に隣接している。縄文土器6類・ミニチュア土器・円盤状土製品・磨石が出土している。

22号土坑(SK22) (第13図・第30図)

F5検出。2区調査区の南端に位置している。平面形は円形、断面形は船底形である。縄文土器4類・6類の小破片が出土している。

23号土坑(SK23) (第13図)

A2区検出。SK3に隣接する。平面形は楕円形、断面形は船底形である。出土遺物は無い。

24号土坑(SK24) (第13図・第30・31図)

E4・F4区検出。1号住居跡の東に隣接している。平面形は不整な楕円形、断面形は船底形である。土坑南側は斜面の崩落によって消失している。1類土器の小破片・5類土器の大形破片・円盤

状土製品が出土している。大形破片は埋土中位から出土している。

### 25号土坑(SK25) (第13図)

E9・E10区検出。平面形は円形、断面形は船底形である。出土遺物は無い。

### 26号土坑(SK26) (第13図・第31図)

C5区検出。平面形は円形、断面形はフラスコ状である。縄文土器2類と3類の小破片が出土している。

第3表 土坑観察表 深さcm

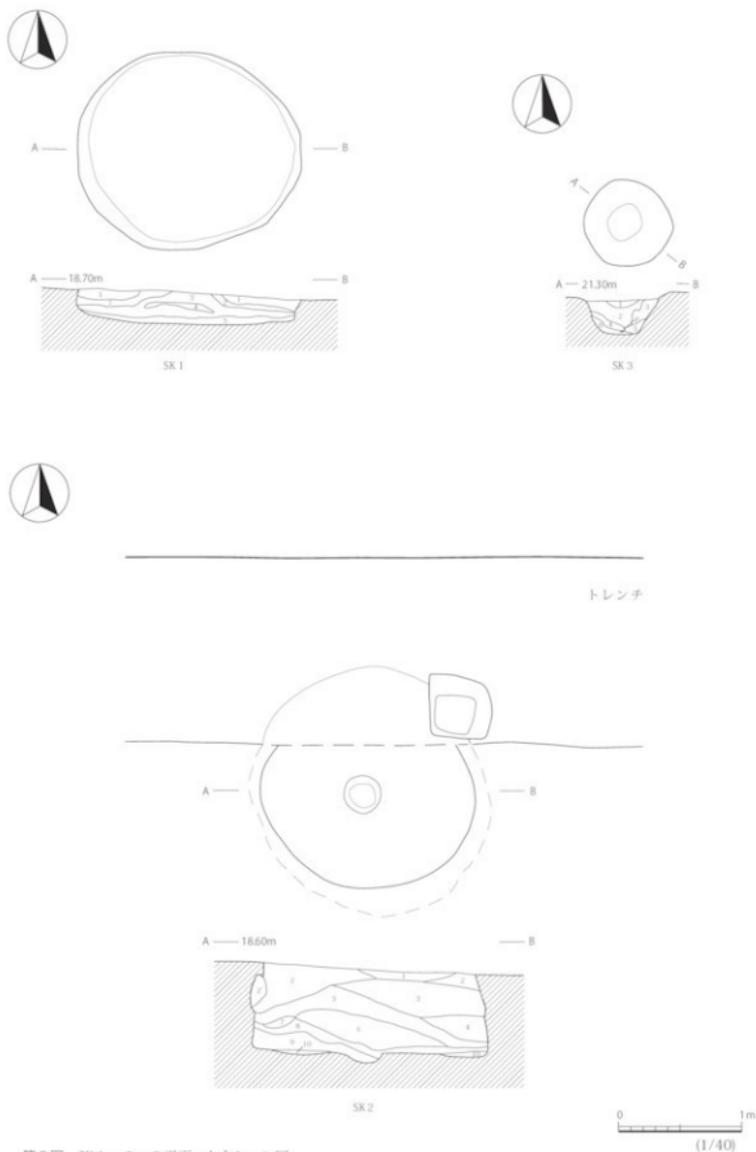
No	位置(グリッド)	上部規模(m)			底部規模(m)		平面形	断面形	層土の状況	付属施設	所収時期	その他関係
		直径	短径	深さ	直径	短径						
1	東区	1.80	1.60	29	1.66	1.52	円形	円筒形	5層構成		定ウ窯式	
2	東区	1.74	1.18	77	2.02	1.96	円形(一部欠)	フラスコ状	11層構成	ビット1基	不明	
3	A2	1.45	1.40	75	0.62	0.55	円形	舟底形	6層構成		不明	
4	A5	1.57	1.54	80	1.13	1.11	円形	円筒形	11層構成	ビット1基	不明	
5	B4, C4	1.77	1.58	30	1.48	1.27	円形	舟底形	3層構成		定ウ窯式	
6	C5	1.19	1.14	22	0.82	0.67	円形	不整形	4層構成		不明	
7	A6	1.30	1.00	43	1.24	0.86	円形(一部欠)	円筒形	4層構成		不明	
8	A5	1.35	0.96	32	0.99	0.83	楕円形	不整形	3層構成		不明	
9	D7	1.88	1.64	76	2.09	1.84	楕円形	フラスコ状	10層構成		大木9式	
10	D6, D7	1.30	1.33	49	0.98	0.90	円形	楕円形	10層構成		大木9式	
11	D8	1.58	1.42	44	1.39	1.26	円形	円筒形	9層構成		船台型式	
12	C7, C8	1.86	1.82	66	1.82	1.58	円形	円筒形	8層構成		大木9式	
13	C7	1.18	1.06	29	0.98	0.95	円形	不整形	2層構成		不明	
14	E9	1.30	1.21	75	1.32	1.09	円形	円筒形	11層構成	ビット1基	船台型式	
15	E10	1.75	1.46	85	1.72	1.42	楕円形	フラスコ状	6層構成		不明	
16	F11	1.23	1.23	18	1.08	1.03	円形	円筒形	2層構成		不明	古
17	F11	1.24	1.24	22	0.96	0.91	円形	円筒形	2層構成		不明	新
18	B2, B3	1.02	0.74	10	0.72	0.56	楕円形	舟底形	—		不明	
19	C5	0.80	0.68	38	0.34	0.28	不整形円形	不整形	—		不明	
20	D4	1.92	1.40	69	1.20	1.08	楕円形	船底形	11層構成		定ウ窯式	
21	D6, F4	1.20	1.17	35	1.22	1.14	円形	円筒形	3層構成		定ウ窯式	
22	F5	1.44	1.39	18	1.10	1.10	円形	舟底形	—		定ウ窯式	
23	A2	1.58	1.13	40	1.12	0.56	楕円形	舟底形	—		不明	
24	E4, F4	1.30	0.83	20	1.20	0.34	不整形円形	楕円形	3層構成		口筒式	
25	E9, E10	1.31	1.18	13	1.16	1.04	円形	舟底形	—		不明	
26	C5, C6	1.78	1.68	69	1.76	1.73	円形	フラスコ状	—		不明	

## 3 溝

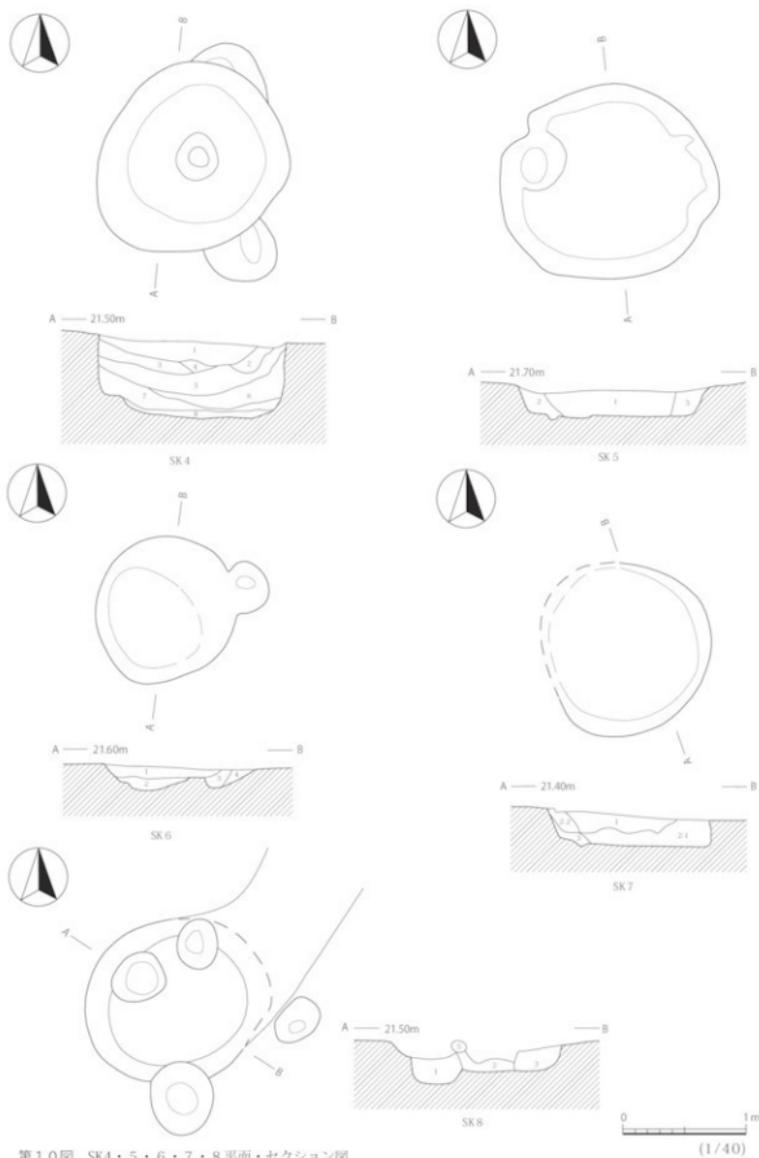
### 1号溝跡(SD1) (第14図・第31~34図)

規 模 調査区南斜面に検出。調査区内の全長は30.7mである。西端部が幅2.9m、深度1.5m。中央のセクションC-D部が幅2.86m、深度1.53m。東端部が幅2.4m、深度1.35mである。深さの基準は溝の北辺からの計測値であるが、溝のどの部分も同じ深さで掘削されている。

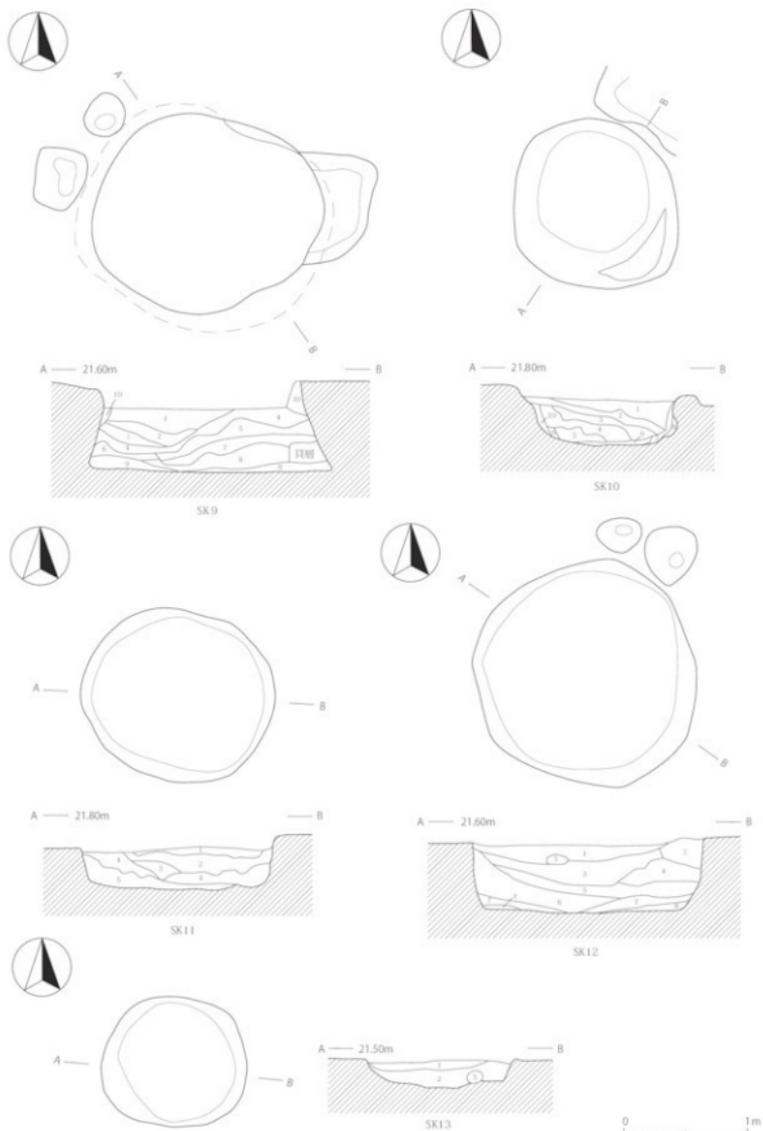
溝底の標高は西端部が19.46m、中央のセクションC-D部が18.56m、東端部が18.3mであった。東に向かって約1mの傾斜を作り出している。実際の掘削深度は各部分ともほぼ同じであるから、旧地形の傾斜を利用して掘削したことがわかる。



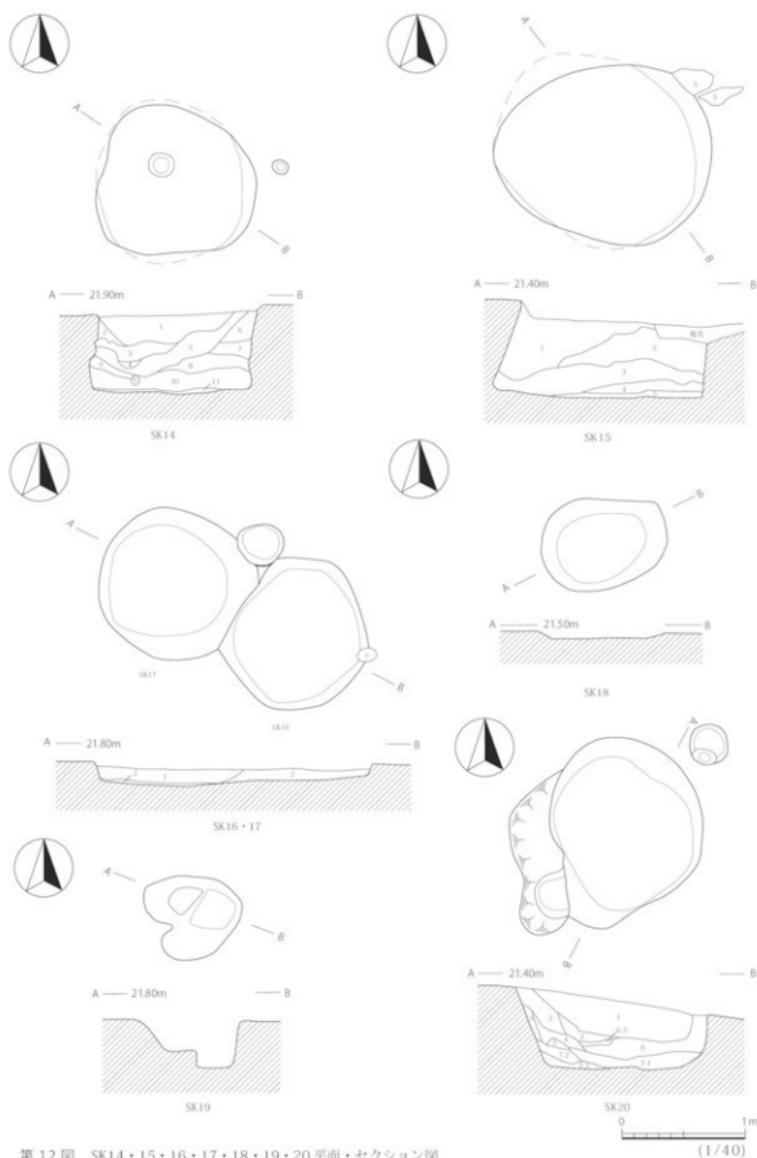
第9図 SK1・2・3平面・セクション図



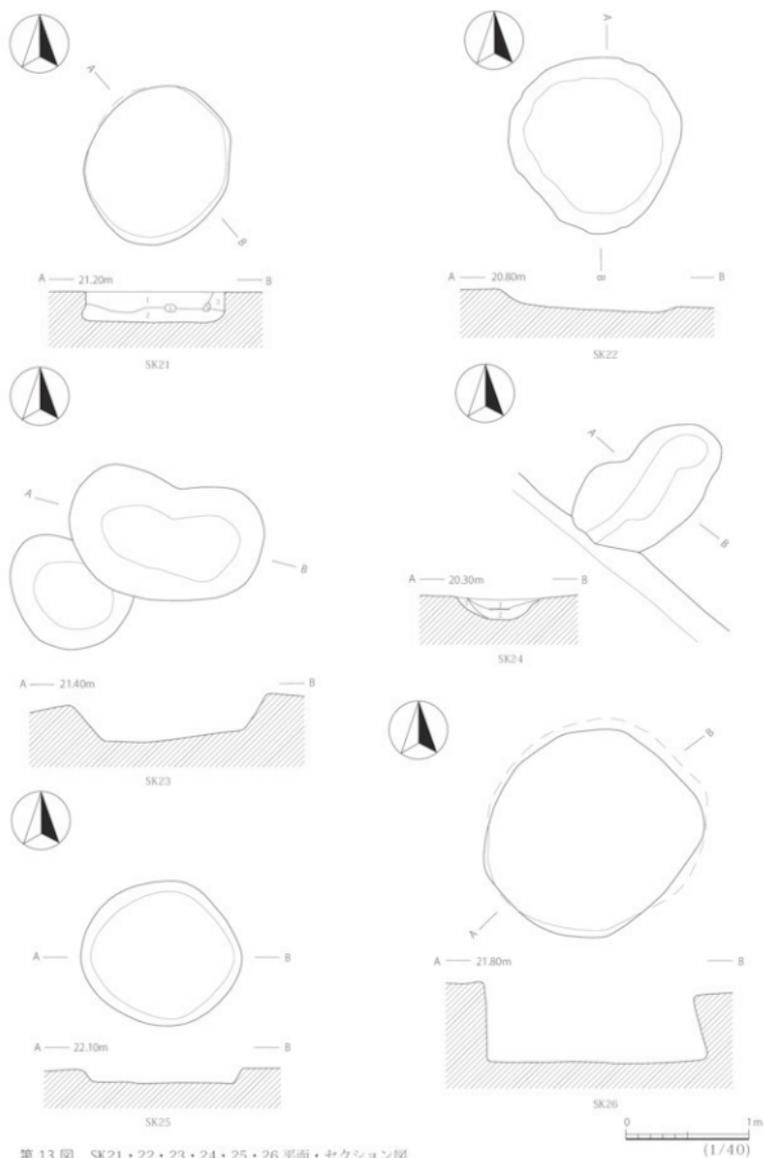
第10図 SK4・5・6・7・8平面・セクション図



第 11 図 SK 9・10・11・12・13 平面・セクション図



第 12 図 SK14・15・16・17・18・19・20 平面・セクション図

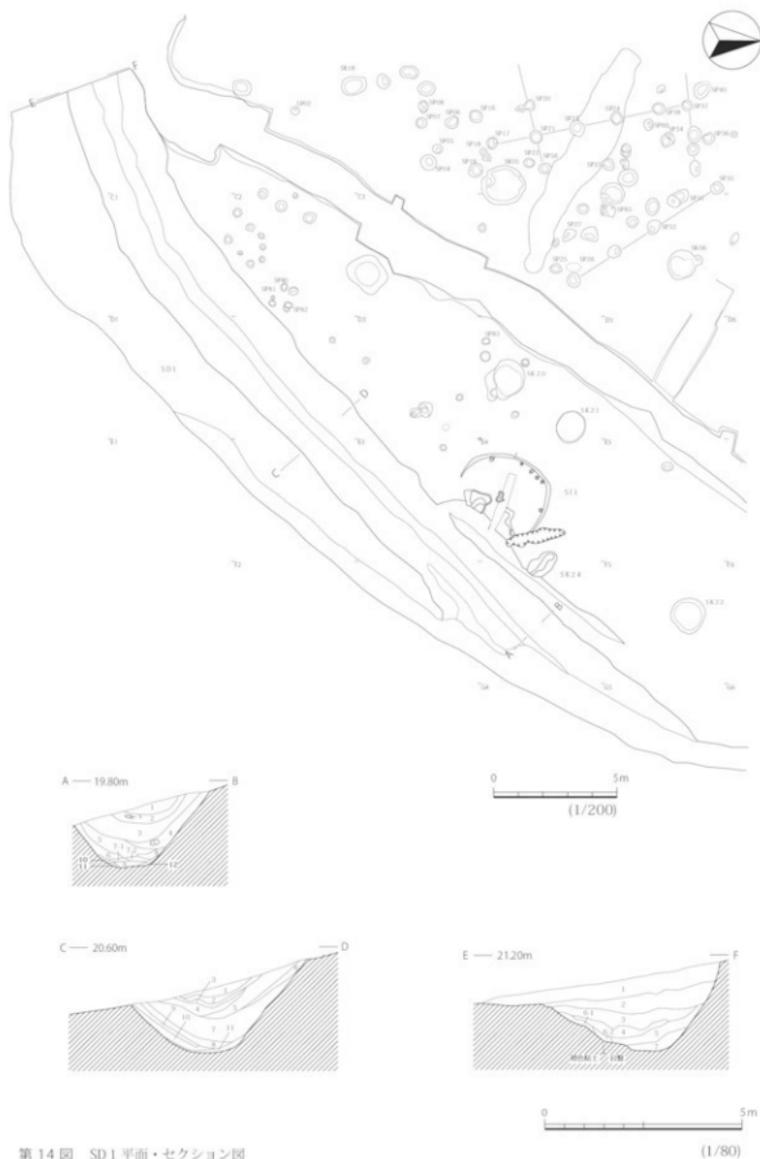


第 13 図 SK21・22・23・24・25・26 平面・セクション図

第4表 土壌土層注記

No	層位	土色	土性	備考
1	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質土	花崗岩風化土
	2	7.5YR3/3 暗褐色	砂質土	花崗岩風化土、灰白色粒子散在
	3	7.5YR5/3 にぶい褐色	砂質土	花崗岩風化土に小黑土粒少々散在
	4	7.5YR4/3 褐色	砂質土	花崗岩風化土、φ 5mm前後の黒土粒散在
	5	7.5YR3/4 暗褐色	粘土質砂	花崗岩風化土、黒土土塊散在
2	1	7.5YR2/2 黒褐色	砂質土	
	2	7.5YR5/6 明褐色	粘土	25%混入(埋埋物ほり多)
	2	7.5YR5/6 明褐色	砂質土	風化花崗岩埋埋ブロック
	3	7.5YR3/4 暗褐色	砂質土	
	4	7.5YR5/6 明褐色	粘土	一部に3層土混入(10%)
3	5	7.5YR2/4 暗褐色	砂質土	(3層に近付) 木炭粒、明黒土粒僅少混入
	6	7.5YR4/3 褐色	砂質土	木炭粒、明褐色粘土和混入割合5層より多
	7	7.5YR4/6~5/6 暗~明褐色	砂質土	地山塊
	8	7.5YR3/4~4/4 暗褐色~暗褐色	砂質シルト	埋埋物に準の崩落ブロック
	9	7.5YR5/6 明褐色	砂質シルト	翻りすぎ? 風化花崗岩埋埋
4	10			
	1	10YR3/3 暗褐色	砂質土	混土(1:1)
	1	10YR4/4 褐色	砂質土	
	1	10YR6/6 明黄褐色	砂質土	粘1%
	2	10YR4/2 にぶい黄褐色	砂質土	
5	3	10YR5/6 黄褐色	砂質土	10%(まだら状)
	4	10YR4/6 褐色	砂質土	1(中々強)
	4	10YR4/6 褐色	砂質土	炭化物1%
	5	10YR5/6 黄褐色	砂質土	(中々強)
	6	10YR4/4 褐色	砂質土	
6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質土	しまりや中強
	5-1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質土	しまりや中強
7	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質土	小ブロック2%
	5-2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	
	5-3	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質土	
	6-1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質土	
	6-2	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質土	
8	1	10YR8/2 灰白色		風化花崗岩約5%
	7	10YR3/4 暗褐色	砂質土	
	7	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質土	(ブロック) 10~15%
	8	10YR2/2 黒褐色	砂質土	炭化物粘1%
	1	10YR3/3 暗褐色	(砂質土)	炭化物粘1~2%
9	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	1	10YR3/3 暗褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
10	3	10YR3/3 暗褐色	砂質土	10%
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
	1	10YR3/3 暗褐色	砂質土	2~3%
	4	10YR7/8 黄褐色	粘土	粘1%
	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強
11	1	10YR3/1 黒褐色	砂質土	5~7%、しみ状
	2-1	10YR3/1 黒褐色	砂質土	しまりや中強
	2-2	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質粘土	5~7%、まだら状
	3	10YR3/1 黒褐色	砂質土	3%
	1	7.5YR3/1 黒褐色	砂質土	しまりや中強(〜強)
12	1	7.5YR7/8 黄褐色	粘土	小ブロック・粘7%
	2	7.5YR7/8 黄褐色	粘土	しまりや中強(〜強)
	1	10YR3/1 黒褐色	砂質土	粘1%
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	風化花崗岩約5%
	1	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂質土	
13	1	7.5YR5/1 暗灰色	砂質土	ブロック1か所あり、炭化物1%
	2	7.5YR5/1 暗灰色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	4	7.5YR3/2 黒褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	2~3%まだら状、炭化物2%
14	1	7.5YR3/2 黒褐色	砂質土	5~7%まだら状、炭化物1%
	6	7.5YR5/8		
	6	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
	7	7.5YR3/2 黒褐色	砂質土	炭化物1%
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質土	しまりや中強(〜中)
15	8	7.5YR3/2 黒褐色	砂質土	7%しみ状、炭化物5%
	9	7.5YR5/1 暗灰色	砂質土	炭化物1%
	10	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂	(風化花崗岩)
	10	7.5YR3/2 黒褐色	砂質土	2~3%
				しまりや中強

10	1	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	2	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	3	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	4	10YR7/4	にぶい黄褐色	砂質土	砂質土粘2%	しまりや中強		
	5	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	4	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	6	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
11	7	10YR8/2	灰白色		灰白色岩粉(風化花崗岩) 10~15%	しまりや中強		
	6	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	8	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質土	15%		しまりや中強	
	8	10YR7/6	明黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	1.1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	1.2	7.5YR3/2	黒褐色	砂質土		しまりや中強		
	1.2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	2~3%		しまりや中強	
	2.1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	2.2	7.5YR3/2	黒褐色	砂質土		しまりや中強		
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりや中強		
	4.1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	炭化物1%		しまりや中強	
12	2	7.5YR3/2	黒褐色		2~3%		しまりや中強	
	4.2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	3%		しまりや中強	
	5.1	7.5YR2/1	黒色				しまりや中強	
	5.2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	3~5%		しまりや中強	
	5.2	7.5YR3/2	黒褐色	砂質土			しまりや中強	
	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	1~2%		しまりや中強	
	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土			しまりあり	
	2	10YR5/4~6/4	にぶい黄褐色	砂質土			しまりあり	
	3	10YR4/4	褐色	砂質土			しまりあり	
	4	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土			しまりあり	
	5	10YR4/4~5/4	褐色	砂質土			しまりあり	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土			しまりあり	
7	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土			しまりあり		
8	10YR3/4~4/4	暗褐色~褐色	砂質土		暗褐色土小粒散在	しまりあり		
13	1	10YR3/2	黒褐色	砂質土		しまりあり		
	1	10YR4/4	褐色	砂質土	φ1mm位の境上、木炭微量、目の細小片散在		しまりあり	
14	2	10YR3/4~4/4	暗褐色~褐色		やや塊状混在、目微細片、木炭粒、繊維量あり	しまりあり		
	1	10YR2/3	黒褐色	砂	φ1~2mmの木炭粒繊維か散在、小角礫数個	しまりあり		
	2	10YR4/4	褐色	砂質土		しまりあり		
	3	10YR4/3~3/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりあり		
	4	10YR3/3	暗褐色	砂質土	下記の炭化粒子あり	しまりあり		
	5	10YR2/2	黒褐色	砂質土	φ1mm位の木炭粒微量含む	しまりあり		
	6	10YR4/4	褐色	砂質土	φ1mm位の木炭粒数個、7より厚か強い	しまりあり		
	7	10YR4/4	褐色	砂質土	φ1mm位の木炭粒数個	しまりあり		
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	φ1mm位の木炭粒数個	しまりあり		
	9	10YR3/3~3/4	暗褐色	砂質土	φ1mm位の木炭粒数個	しまりあり		
10	10YR3/3~4/3	暗褐色	砂質土	卵形あま、まじり、形状、φ1mm位の木炭粒数個	しまりあり			
11	10YR3/3	暗褐色	砂質土	φ1mm未満木炭粒数個	しまりあり			
15	0				組付による粗混	しまりあり		
	1	10YR2/2	黒褐色	砂質土	小角礫若干混入	しまりあり		
	2	10YR3/2	黒褐色	砂質土		しまりあり		
	3	10YR6/4	にぶい黄褐色	砂質土	ブロック50%混在	しまりあり		
	3	10YR4/4	褐色	砂質土		しまりあり		
16・17	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土		しまりあり		
	5	10YR2/1	黒色	砂質シルト	少しの粘りあり	しまりあり		
	1	7.5YR2/2	暗褐色	砂質土		しまりあり		
	2	7.5YR4/3	褐色	砂質土	φ1mm位の木炭粒1%未満散在	しまりあり		
	2	7.5YR3/2	黒褐色	砂質土		しまりあり		
	1	10YR2/1	黒色	粘土		粒(φ5mm前後)5%以下散在		
	1	10YR6/8	明黄褐色	粘土	粘1%、数mm~1cm小礫1%		しまりや中強	
20	2	10YR3/1	黒褐色	粘土	数mm小礫2%		しまりや中強	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土	数mm小礫10~15%		しまりや中強	
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土			しまりや中強	
	5	10YR4/4	褐色	粘土	10mm小礫3%		しまりや中強	
	6.1	10YR3/1	黒褐色	粘土	炭化物粘1%		しまりや中強	
	6.2	10YR6/8	明黄褐色	粘土			しまりや中強	
	6.3	10YR3/1	黒褐色	粘土			しまりや中強	
	6.3	10YR6/8	明黄褐色	粘土			しまりや中強	
	7.1	2.5YR3/1	暗赤灰色	粘土			しまりや中強	
	7.1	2.5YR3/6	暗赤褐色	粘土			しまりや中強	
	7.2	2.5YR4/6	赤褐色	粘土		粘5~7%、炭化物粘1%		しまりや中強
21	7.2	7.5YR4/4	褐色	粘土		炭化物粘2%	しまりや中強	
	7.3	2.5YR3/1	黒褐色	粘土			しまりや中強	
	7.3	2.5YR3/6	暗赤褐色	粘土			しまりや中強	
	7.3	2.5YR5/8	暗赤褐色	粘土		粘2%、炭化物粘かたまりあり		しまりや中強
	1	10YR2/1	黒色	粘土		炭化物粘2%、しまり強		しまりや中強
22	2	10YR2/3	黒褐色	粘土			しまり強	
	2	2.5YR5/8	暗赤褐色	粘土		粘3~5%	しまり強	
	2	7.5YR7/8	褐色	粘土		粘3~5%	しまり強	
24	3	10YR5/4	にぶい黄褐色				しまり強	
	1	10YR4/1	褐色					
	2	10YR4/1	褐色					
3	10YR7/6	明黄褐色	砂質土		地山土に似る			



第5表 1号溝跡土層注記

セクションNO	層位	土色	土性	備考		
A-B	1	10YR2/2 黒褐色				しまり層
		10YR7/6 暗黄褐色	粘土	小ブロック・粒15~20%		
	2	10YR5/3 紅い・黄褐色			(1:1)	しまり層
		10YR4/3 紅い・黄褐色				
	3	10YR7/6 暗黄褐色	粘土	小ブロック・粒5%		しまりや中層
		10YR4/3 紅い・黄褐色				
	4	10YR7/6 暗黄褐色	粘土	ブロック・粒15%		しまりや中層
		10YR2/2 黒褐色				
	5	10YR6/3 紅い・黄褐色	砂質粘土	小ブロック・粒7%		しまりや中層
		10YR7/6 暗黄褐色	粘土	小ブロック・粒7%		
	6	10YR5/3 紅い・黄褐色				しまりや中層
		10YR7/6 暗黄褐色	粘土	ブロック・粒(1:1)		
7・2	10YR5/3 紅い・黄褐色				しまりや中層	
	10YR7/6 暗黄褐色	粘土	ブロック(7:3)			
8	10YR6/4 紅い・黄褐色	砂質粘土			しまりや中層	
	10YR5/3 紅い・黄褐色		10~15%			
9	10YR2/2 黒褐色				しまり中	
	10YR7/6 暗黄褐色	粘土	小ブロック・粒20%			
10	10YR6/4 紅い・黄褐色	粘土			しまりや中層	
	10YR5/3 紅い・黄褐色		3~5%			
11	10YR7/6 暗黄褐色	砂質粘土	(砂→灰)		しまりや中層	
	10YR6/4 紅い・黄褐色	粘土				
12	10YR5/3 紅い・黄褐色			10%	しまり中	
	10YR2/1 黒色					
C-D	1	2.5YR5/8 暗赤褐色	粘土	粒1%		しまりや中層
		10YR2/1 黒色				
	2	10YR7/6 暗褐色	粘土	ブロックと粒(6:4)、粘土層中に1~2cm粒%		しまりや中層
		10YR2/1 黒色				
	3	10YR2/1 黒色			炭化物粒1%	しまりや中層(1~中)
		10YR3/2 黒褐色			炭化物粒1%	
	4	7.5YR6/8 褐色	粘土	粒		しまりや中層
		10YR7/6 暗褐色	粘土	粒3%		
	5	10YR3/2 黒褐色				しまりや中層
		10YR7/6 暗褐色	粘土	粒・小ブロック5%、炭化物粒1%、1~2cm粒%		
	6	10YR7/6 暗褐色	粘土			しまりや中層
10YR2/1 黒色				10%		
7	10YR3/2 黒褐色				しまりや中層(1~中)	
	10YR4/3 紅い・黄褐色					
8	10YR7/6 暗褐色	粘土	ブロック・粒10~15%		しまりや中層(1~中)	
	10YR2/1 黒色		粒1~2%			
9	10YR3/2 黒褐色				しまりや中層(1~中)	
	10YR7/6 暗褐色	粘土	ブロック・粒5%			
10	10YR3/1 黒褐色				しまりや中層(1~中)	
	10YR7/6 暗褐色	粘土	粒3%			
11	10YR5/4 紅い・黄褐色	砂(→砂質粘土)			しまりや中層	
	10YR2/1 黒色					
E-F	2	10YR4/2 灰黄褐色		1~3cm粒1~2%	しまりや中層	
		10YR4/2 灰黄褐色		数mm~1cm粒1~2%、しまり2<3		
	4	10YR4/1 褐色	砂質土			しまり中
		10YR6/6 暗黄褐色	砂質土	2~3%、8mm~1cm粒2%、3~4cm粒あり		
	5	10YR4/1 褐色			1~3cm粒25~30%	しまり中
		10YR4/4 褐色			(1:1)	
	6	7.5YR5/8 暗褐色	粘土			しまり中(1~や中層)
10YR4/4 褐色						
7	10YR4/4 褐色			(1:1)、1cm前後粒25%	しまり中(1~や中層)	
	10YR5/6 黄褐色	砂質土				

溝の方向は、西に向かうにしたがって北へ振れて行くが、おそらく旧地形の傾斜変換線に沿う形で掘削が進行した結果と思われる。溝中央部の真北を基準にした方向はN40°Wである。

土層と遺物出土状況 溝の堆積土は12層に分層されている。各層とも北辺と南辺から流れ込んだ状況を示しているが、南から堆積が進行していった土層ほど下位に存在している。溝の深度・幅を考慮すると中世城館の空堀と考えることができるが、土層の注記には土塁の前落を原因とする特徴を

記載した層はなかった。仮にこの溝を空堀としてとらえた場合、土塁状の構築物はなかったと考えられる。

堆積土から縄文早期～後期中葉の土器片が出土している。挿図には比較的大きな破片を掲載している。土器以外の石器・石製品・土製品の出土数も多い。土製品のなかには、腕輪形土製品が含まれていた。丘陵頂部の削平によって失われた遺構の多さを思わせる。

遺物は周囲から流れ込んだ状況を示している。たとえば遺物取上げの注記を見ると、縄文早期2類土器の出土位置は下層から上層まで様々である。縄文後期6類も同様であって下層から上層の出土位置が記録されている。

## 4 掘立柱建物跡・柵列・ピット

### 1号掘立柱建物跡 (SB1) (第15図)

2区東側において検出。一面下屋、梁行1間、桁行5間の東西棟である。桁行の方向はN70°Eである。主屋と思われる。西側は東柱があり、総柱構造になっている。梁行1間タイプと総柱タイプの複合型の建物である。

主屋の規模は梁行6m90cm、桁行11m70cm。北面の下屋柱を除くと梁行6m(約20尺)である。梁行約23尺、桁行約39尺、上屋側柱と下屋柱との間尺は約3尺である。床を張っていた部分と土間の部分の区別がある。柱穴内および建物周辺から遺物の出土はなかったが、桁行の間尺は240cm(約8尺)であるから中世建物の柱間と考えられる。また、上屋の梁行が1間であることも中世建物であることの根拠である。

### 柵列 (SA1～SA4) (第15・16図)

SB1の北側とB4・B5・C5区に柵列と思われる遺構がある。Pit間の距離は180cmから300cmで一定していない。また、SB1の建物方向と同じものはない。柱穴内から遺物の出土はなかったため時期の特定はできないが、中近世の遺構と考えられる。

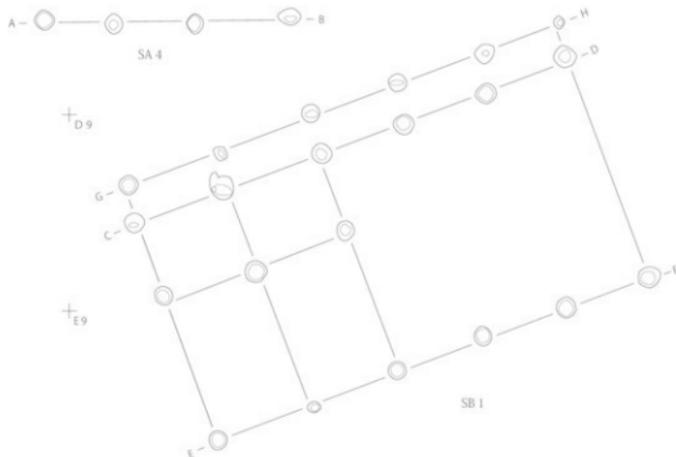
### ピット (SP1～SP86) (第39図・第6表)

2区調査区検出のピットは、埋土の特徴から現地調査の段階で3種類に分類している。大きさと深度を計測後、完掘している。埋土の特徴は、黒色・黒褐色土、黒色土と黄色土の斑状、灰褐色土である。遺物の出土があったのは、SP70・79の2基であって、凹石・磨石・礫器・石楡が出土している。

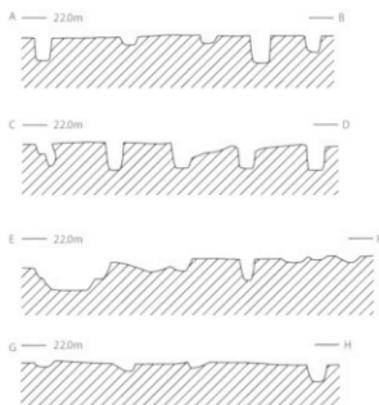
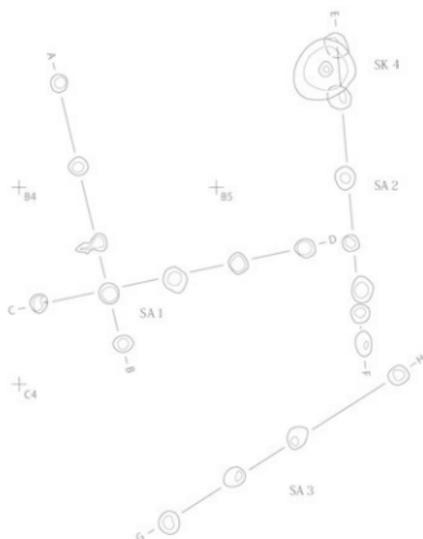


+C9

+C10



第 15 図 SB1・SA4 平面・エレベーション図



第16図 SA1・2・3平面・エレベーション図

第6表 ビット観察表

No	位置 (ワット)	検出層位	幅値 (c.m)			平面形	所感時期	備考
			直径	短径	長さ			
1	A3	地山面	70	50	—	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
2	B2	地山面	35	34	28	円	時期不明	黒色と黄色の混状
3	A2	地山面	37	35	26	円	時期不明	黒色と黄色の混状
4	B3	地山面	65	61	65	円	時期不明	黒色と黄色の混状
5	B3	地山面	40	37	32	円	時期不明	黒色と黄色の混状
6	B3	地山面	56	49	38	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
7	B3	地山面	45	42	73	円	時期不明	黒色と黄色の混状
8	B3	地山面	52	39	34	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
9	A3, B3	地山面	74	52	37	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
10	B3	地山面	58	53	41	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
11	A2	地山面	33	32	20	円	時期不明	黒色と黄色の混状
12	A4	地山面	49	48	21	円	時期不明	黒色と黄色の混状
13	A4	地山面	70	58	27	楕円	時期不明	灰褐色土
14	A4	地山面	72	48	11	楕円	時期不明	灰褐色土
15	A4	地山面	52	38	14	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
16	B3	地山面	52	50	70	円	時期不明	黒色と黄色の混状
17	B4	地山面	48	44	37	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
18	B4	地山面	60	38	22	不整形楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
19	B3, B4	地山面	56	54	18	円	時期不明	黒色と黄色の混状
20	B4	地山面	44	43	20	やや円	時期不明	黒色と黄色の混状
21	B4	地山面	54	51	71	円	時期不明	黒色と黄色の混状
22	B4	地山面	44	38	38	円	時期不明	黒色と黄色の混状
23	B4	地山面	64	60	64	やや不整形楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
24	B5	地山面	48	36	50	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
25	C4	地山面	48	38	29	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
26	C4	地山面	60	40	40	楕円	時期不明	灰褐色土
27	C4	地山面	66	42	35	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
28	C5	地山面	55	48	18	円	時期不明	黒色・黒褐色土
29	C5, D5	地山面	35	33	28	円	時期不明	黒色と黄色の混状
30	C5	地山面	28	27	19	円	時期不明	黒色と黄色の混状
31	B5	地山面	54	44	32	楕円	時期不明	灰褐色土
32	C5	地山面	60	48	36	楕円	時期不明	灰褐色土
33	B5	地山面	50	46	20	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
34	B5	地山面	64	54	46	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
35	B5	地山面	53	50	46	やや円	時期不明	黒色と黄色の混状
36	B5	地山面	50	48	40	やや円	時期不明	黒色・黒褐色土
37	B5	地山面	43	42	34	円	時期不明	黒色と黄色の混状
38	B5	地山面	53	48	68	円	時期不明	黒色と黄色の混状
39	A4	地山面	57	52	50	やや円	時期不明	黒色と黄色の混状
40	B5	地山面	80	60	40	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
41	A6	地山面	53	47	31	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
42	A6	地山面	40	32	40	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
43	A6	地山面	44	41	25	円	時期不明	黒色と黄色の混状
44	A6	地山面	40	38	24	円	時期不明	黒色と黄色の混状
45	B6	地山面	52	37	34	不整形楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
46	B6	地山面	36	34	30	円	時期不明	黒色と黄色の混状
47	B6	地山面	70	52	40	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
48	B6	地山面	58	54	41	円	時期不明	黒色と黄色の混状
49	B6	地山面	45	40	19	ほぼ円	時期不明	黒色と黄色の混状
50	B6	地山面	34	28	21	楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
51	B6	地山面	45	42	40	ほぼ円	時期不明	黒色と黄色の混状
52	C6	地山面	70	44	29	楕円	時期不明	灰褐色土
53	C6	地山面	44	35	25	楕円	時期不明	灰褐色土
54	C6	地山面	50	40	33	楕円	時期不明	灰褐色土
55	D6	地山面	49	46	48	ほぼ円	時期不明	黒色・黒褐色土
56	B4	地山面	50	42	45	ほぼ円	時期不明	黒色と黄色の混状
57	D9	地山面	60	60	37	やや円	時期不明	黒色・黒褐色土
58	D10	地山面	52	50	43	円	時期不明	黒色と黄色の混状
59	D10	地山面	53	50	39	円	時期不明	黒色・黒褐色土
60	C11	地山面	52	50	35	円	時期不明	黒色・黒褐色土
61	C11	地山面	57	55	36	円	時期不明	黒色と黄色の混状
62	D9	地山面	51	50	39	円	時期不明	灰褐色土
63	B6	地山面	47	46	46	円	時期不明	黒色と黄色の混状
64	E10	地山面	34	28	28	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
65	E10	地山面	46	44	52	円	時期不明	灰褐色土
66	D11, E11	地山面	54	50	49	円	時期不明	灰褐色土
67	D11	地山面	56	52	57	ほぼ円	時期不明	黒色・黒褐色土
68	E11	地山面	59	42	44	ほぼ円	時期不明	灰褐色土
69	B6	地山面	44	38	22	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
70	E9	地山面	72	46	21	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
71	F10	地山面	66	50	48	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
72	C8	地山面	53	51	32	ほぼ円	時期不明	灰褐色土
73	C8	地山面	50	50	33	円	時期不明	灰褐色土
74	C8	地山面	50	44	27	ほぼ円	時期不明	灰褐色土
75	C9	地山面	50	41	38	ほぼ円	時期不明	黒色と黄色の混状
76	C10	地山面	60	40	30	楕円	時期不明	灰褐色土
77	B6	地山面	47	42	27	やや円	時期不明	灰褐色土
78	C6	地山面	39	35	28	やや円	時期不明	黒色と黄色の混状
79	B6	地山面	30	30	39	円	時期不明	黒色と黄色の混状
80	C2	地山面	34	26	23	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
81	C2	地山面	29	25	5	ほぼ円	時期不明	黒色・黒褐色土
82	C2	地山面	35	24	44	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
83	D4	地山面	33	28	19	楕円	時期不明	黒色・黒褐色土
84	C7	地山面	62	44	12	楕円	時期不明	灰褐色土
85	C5	地山面	62	46	47	不整形楕円	時期不明	黒色と黄色の混状
86	A4	地山面	45	42	57	円	時期不明	黒色と黄色の混状

## 5 遺物包含層

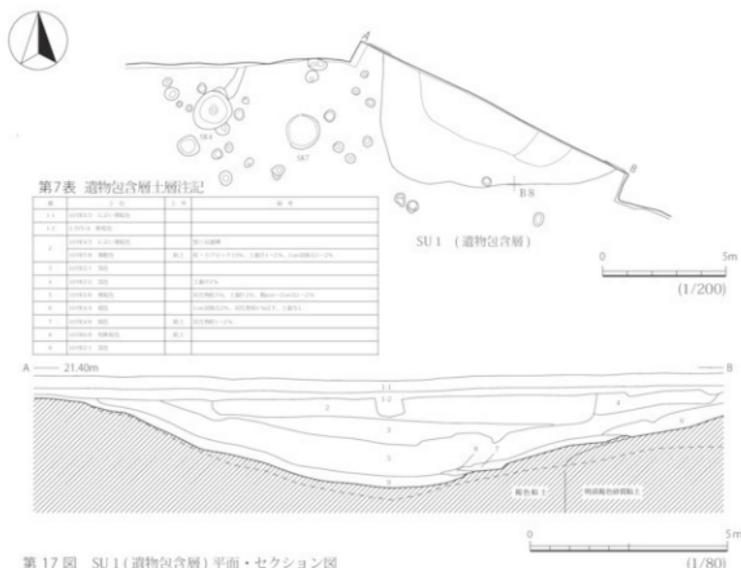
## 形状と堆積土 (SU1) (第17図)

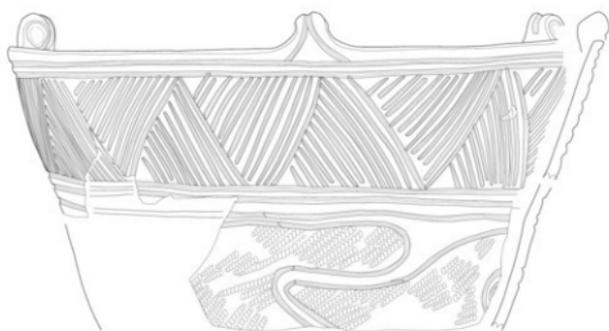
2区A7・A8区は調査区北側急傾斜地の境界に接している。斜面の崩落によって形成された谷の頂部が調査区内に検出されたが、その規模は東西方向10.3m、南北方向4.1mである。谷の方向はN30°Eである。深度は谷底部で最大2.05m、谷部傾斜の中央部で1.2mである。

谷底面の下層には厚さ20cmの黒色土(9層)が堆積している。崩落の後、草木の生育する状態が続いたようである。直上の5層は、厚さ50cm前後のしまりの強い黄褐色土である。小礫を含んでいて地山の風化花崗岩が流れ込んで堆積した層である。谷地形の埋没が進行してゆく過程で遺物包含層の形成があり、縄文早期2類土器が5層から出土している。さらに上層は再び黒色土の堆積がみられるので、縄文早期以降は浅い窪地状の形状を見せていたと考えられる。

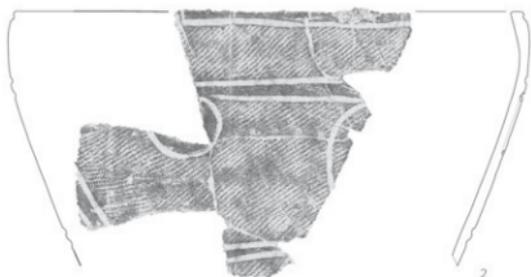
## 遺物出土状況 (SU1) (第17図・第35図~38図)

包含層出土遺物の選択作業を行ったところ、縄文早期2類土器がまとめて出土していることが判明した。出土層の記録は4・5層、5層上部、6層である。完形復元できた個体はないが、口縁部・胴部の大形破片と尖底部の破片が数個体分出土している。磨滅の痕跡はなく、埋没しつつある谷底部に廃棄した遺物である。石器・土製品の出土層位も同様であった。

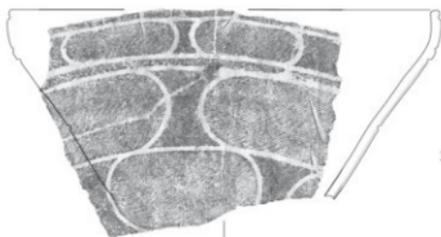




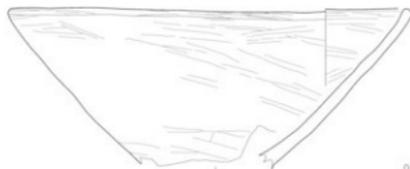
1



2



3



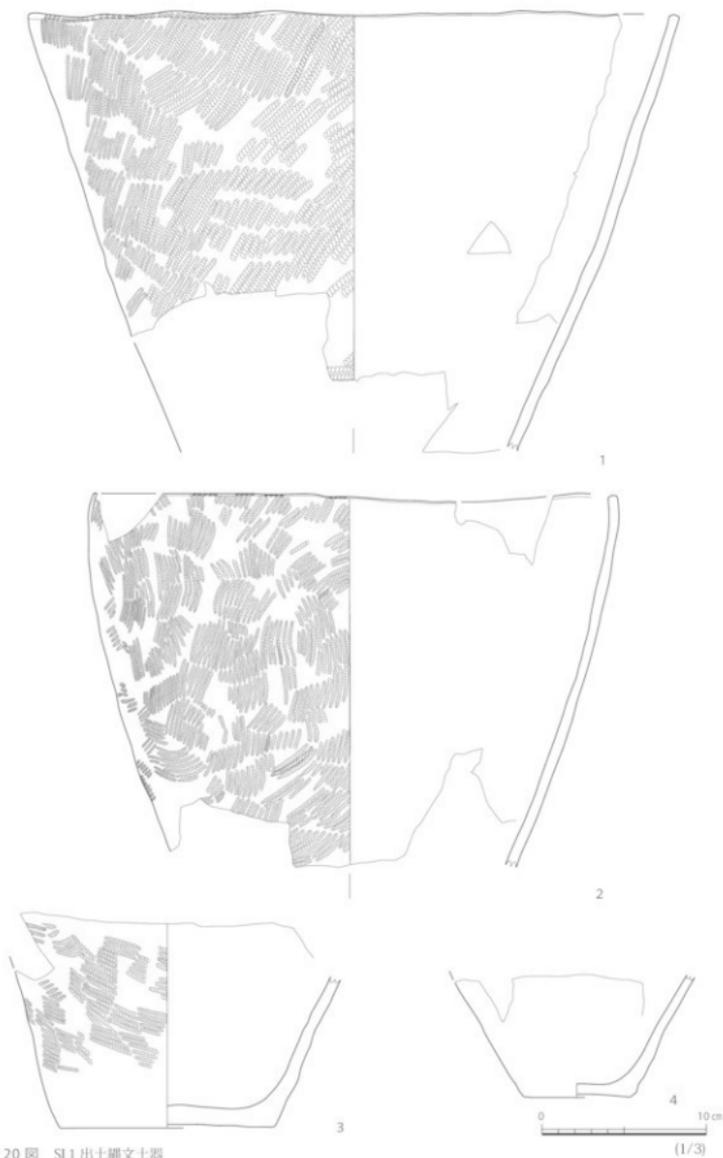
4



第 18 圖 S11 出土繩文土器



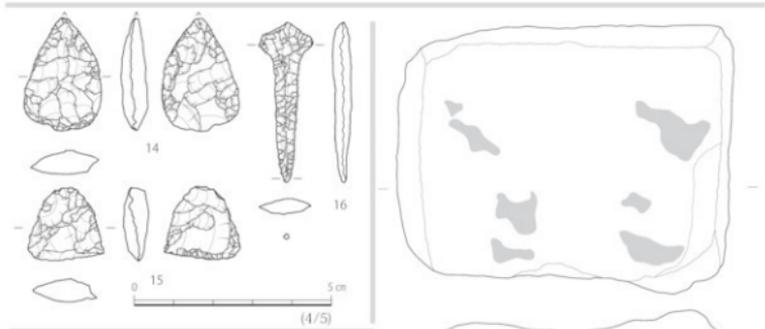
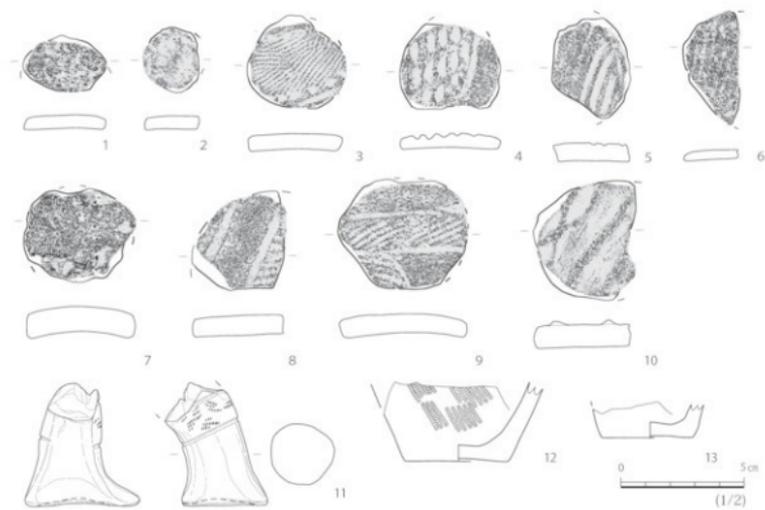
第19図 S11出土縄文土器



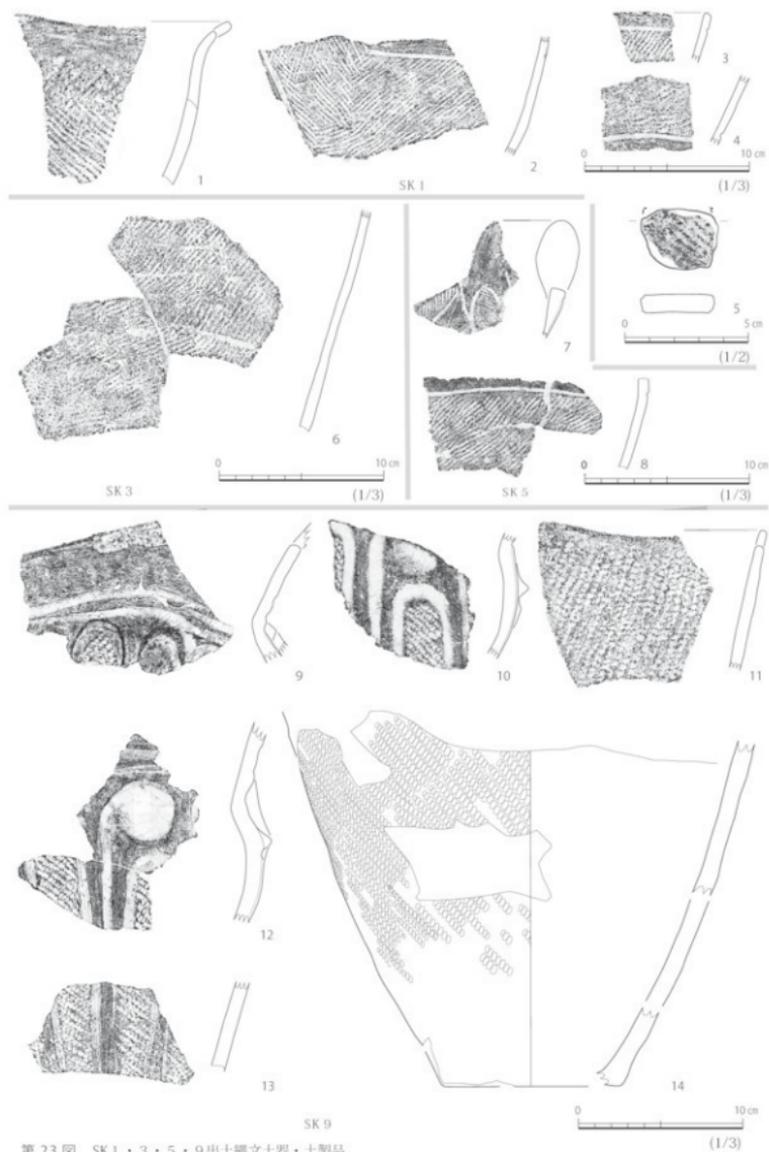
第 20 图 SI1 出土陶文土器



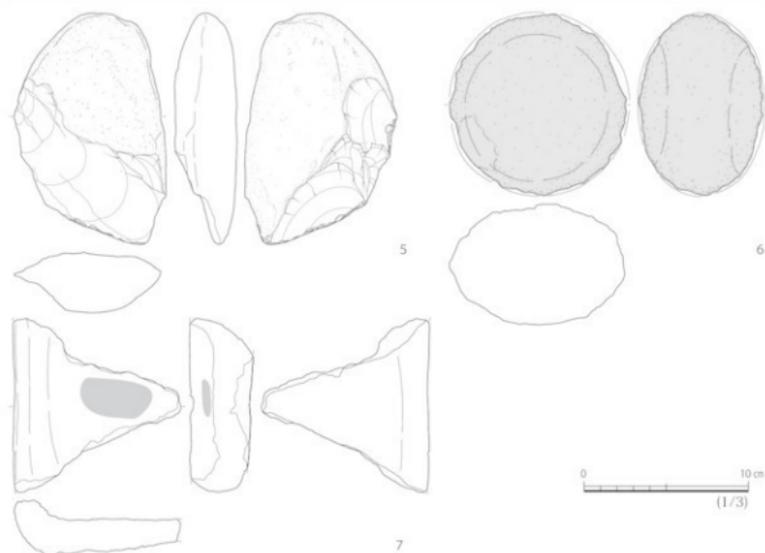
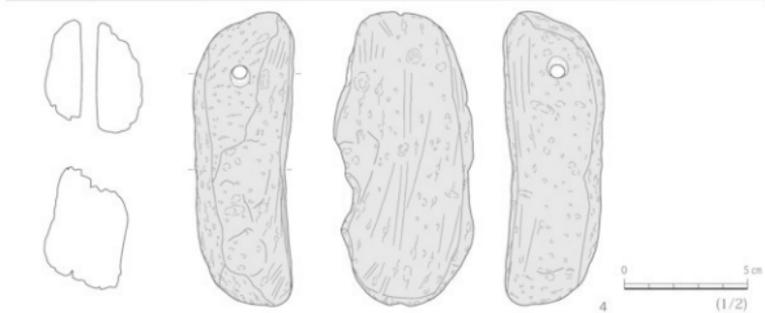
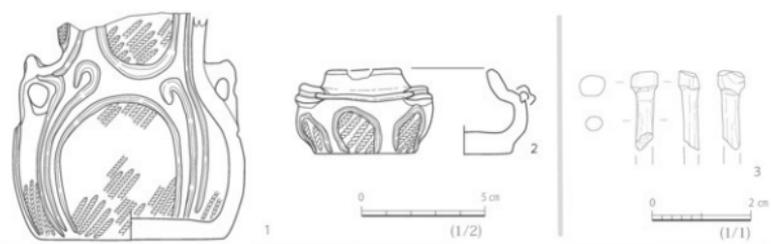
第 21 図 SI 1 出土縄文土器



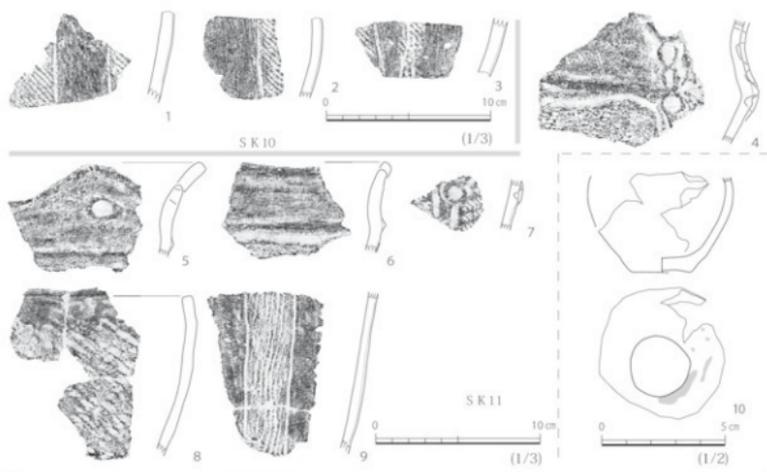
第22圖 S11出土石器・土製品



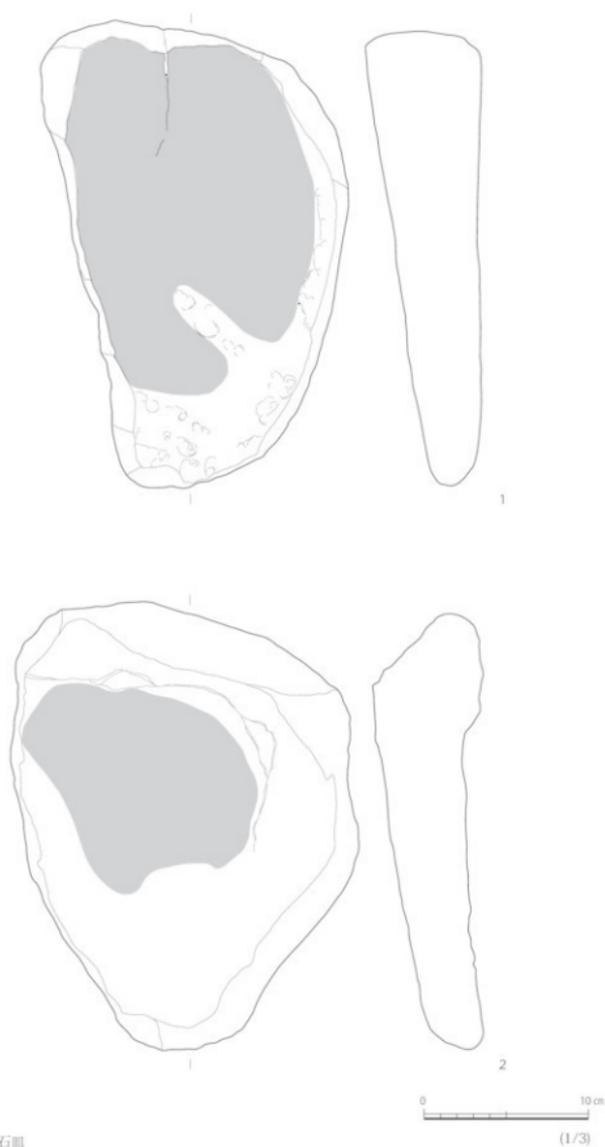
第 23 図 SK 1・3・5・9 出土縄文土器・土製品



第 24 图 SK9 出土縄文土器・石器・石製品・骨角器



第 25 図 SK10・11・12 出土縄文土器・石皿



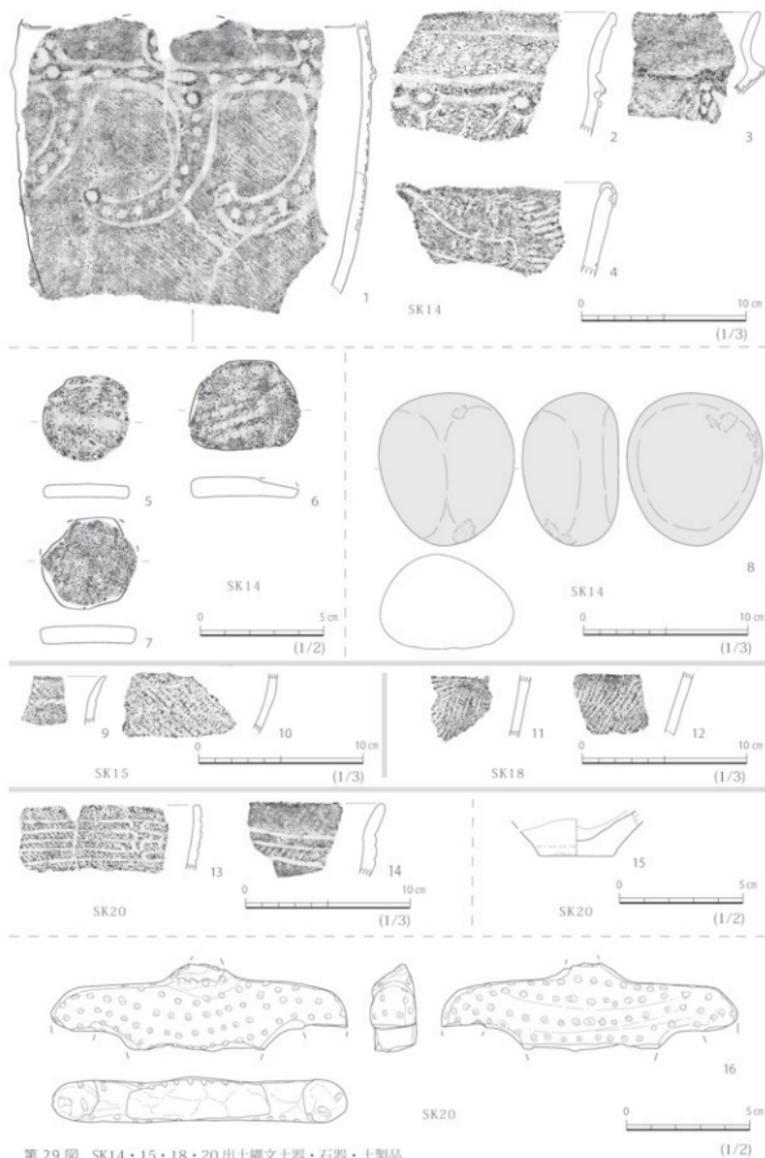
第26圖 SK12出土石皿



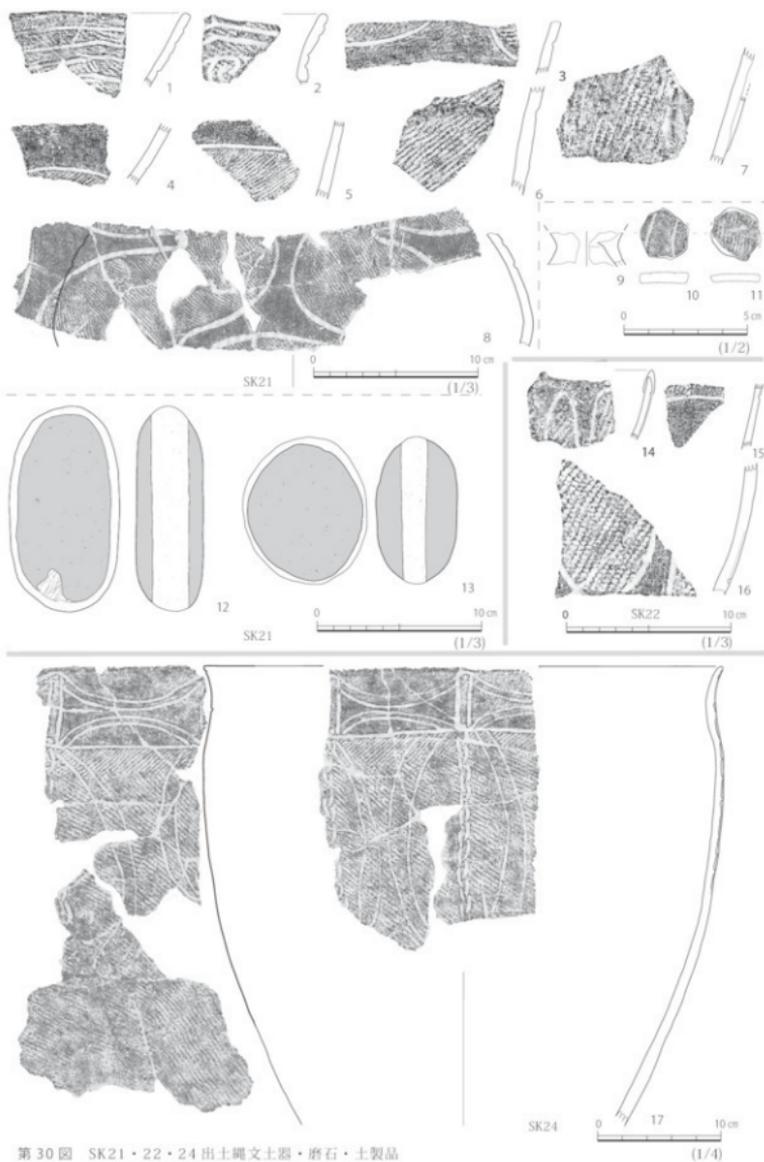
第 27 図 SK12 出土石皿・砥石



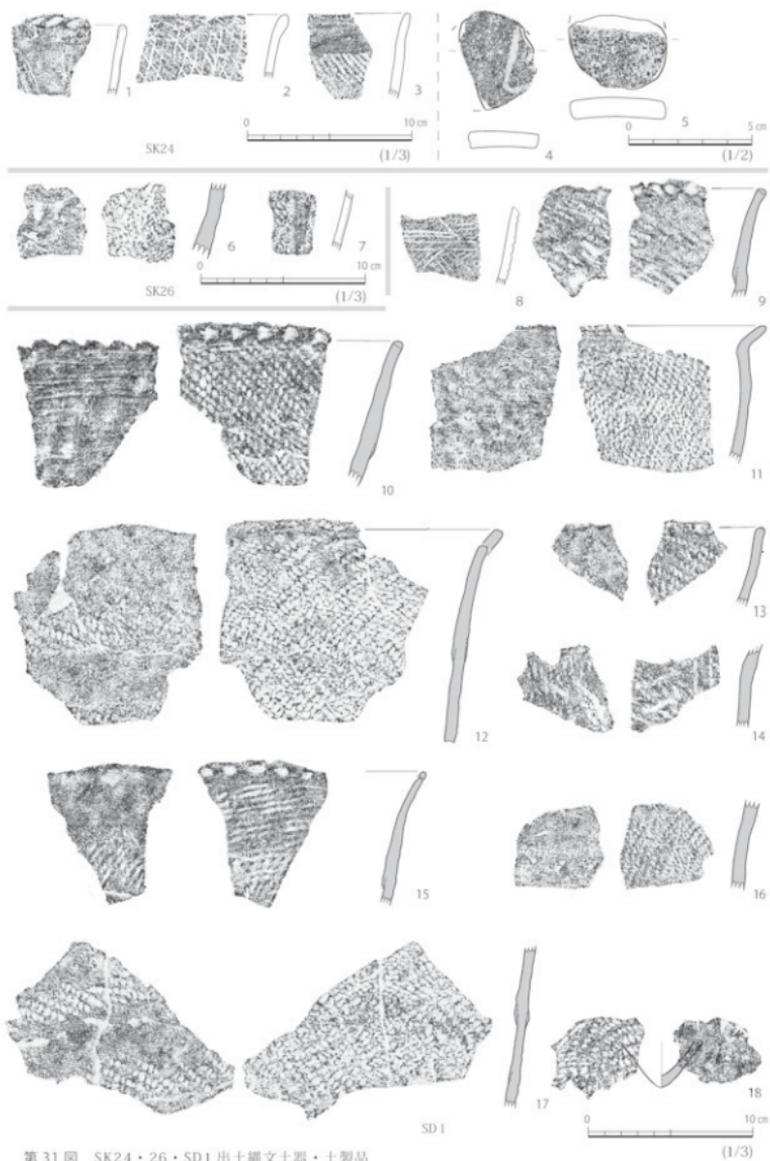
第 28 图 SK12 出土大形磨石



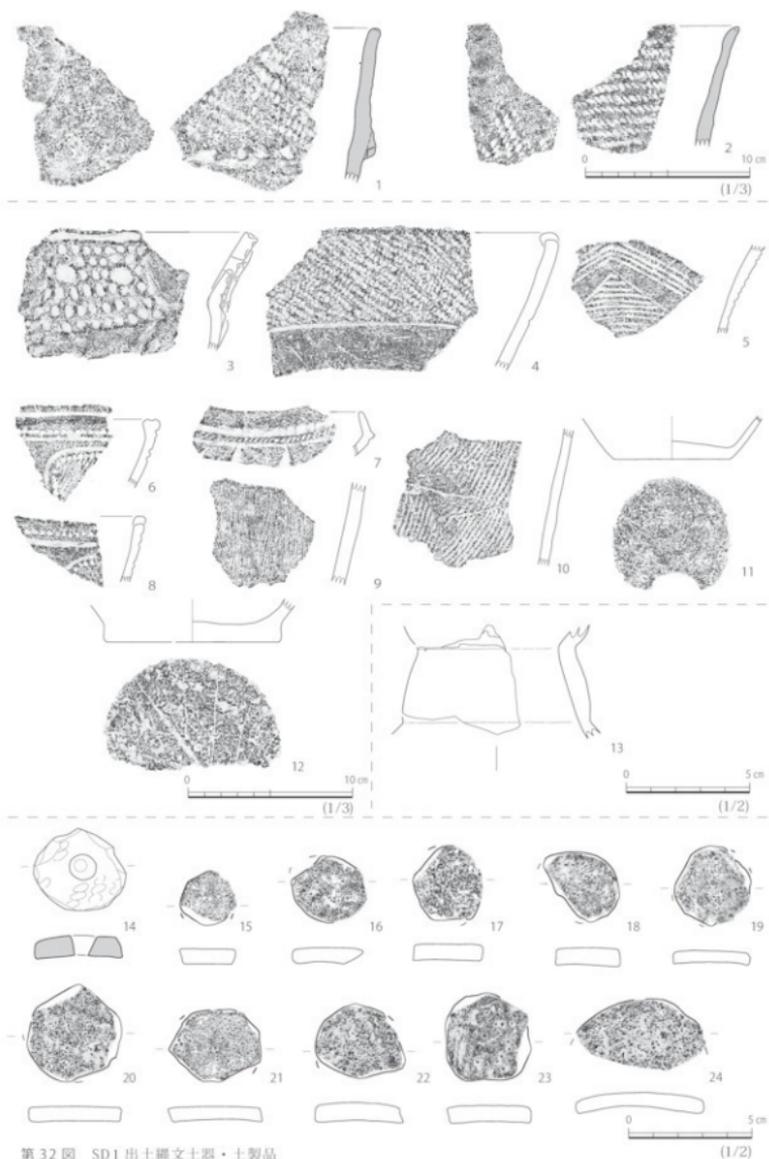
第 29 図 SK14・15・18・20 出土縄文土器・石器・土製品



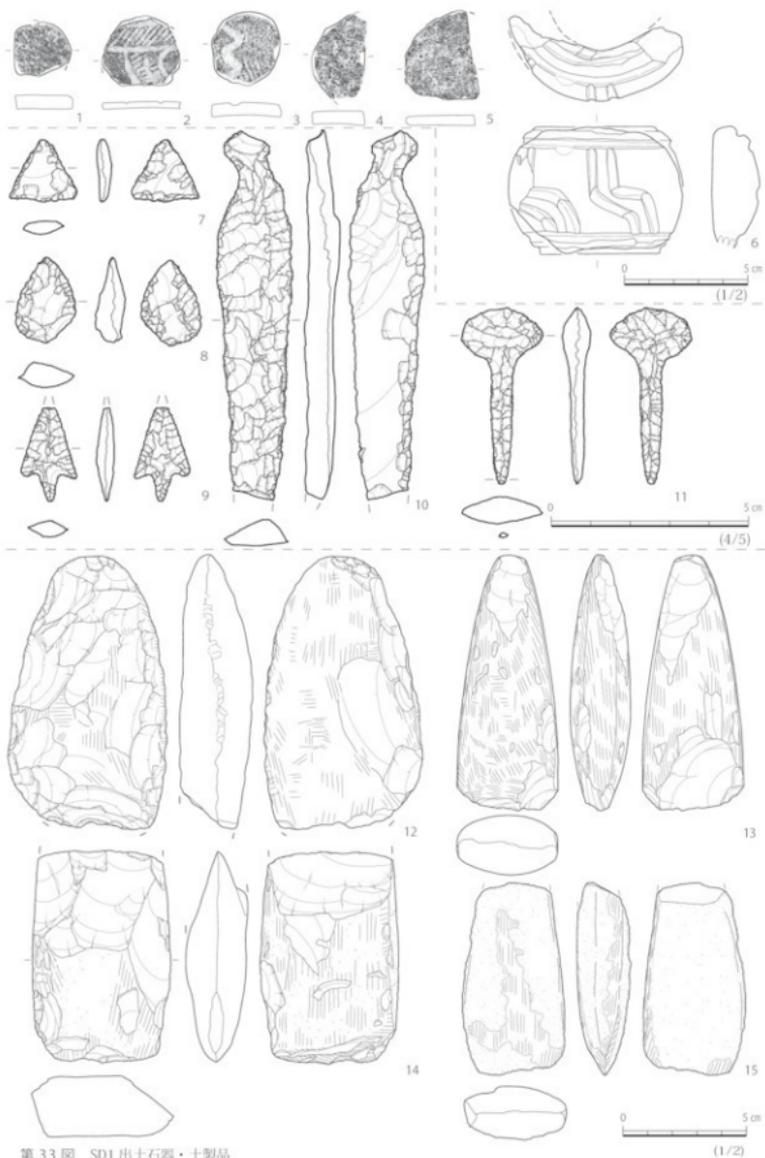
第30圖 SK21・22・24出土縄文土器・磨石・土製品



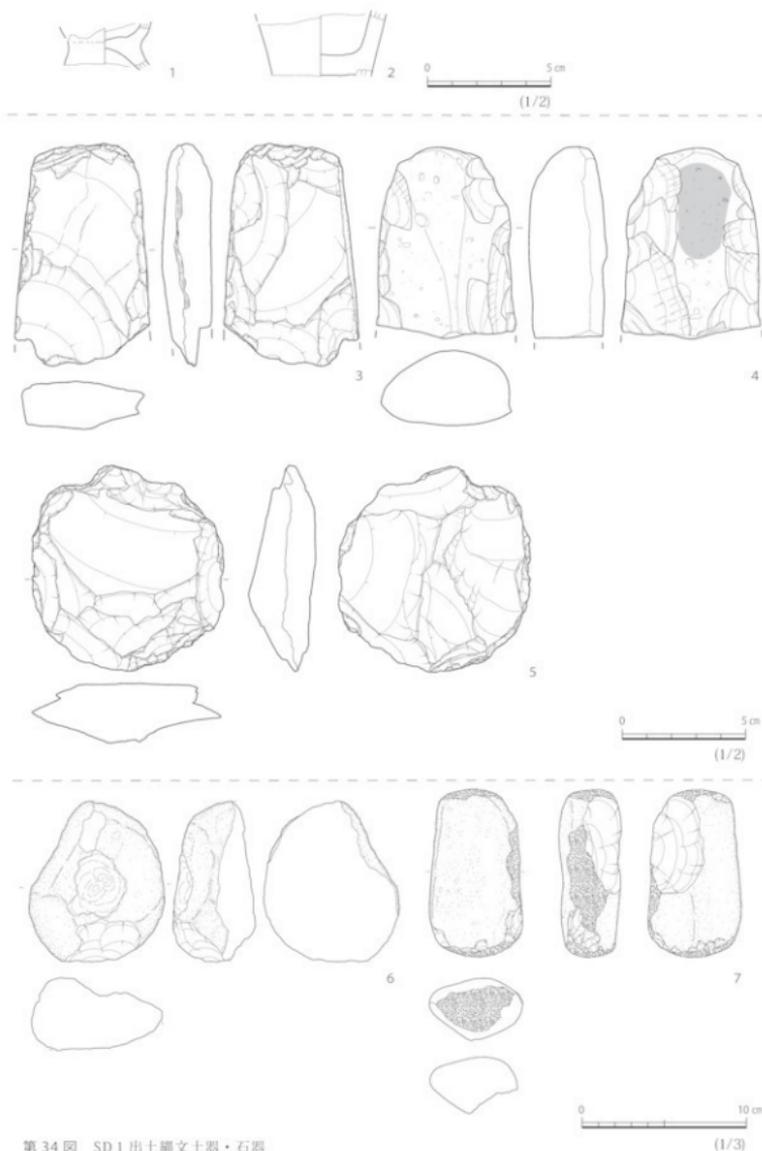
第31図 SK24・26・SD1出土縄文土器・土製品



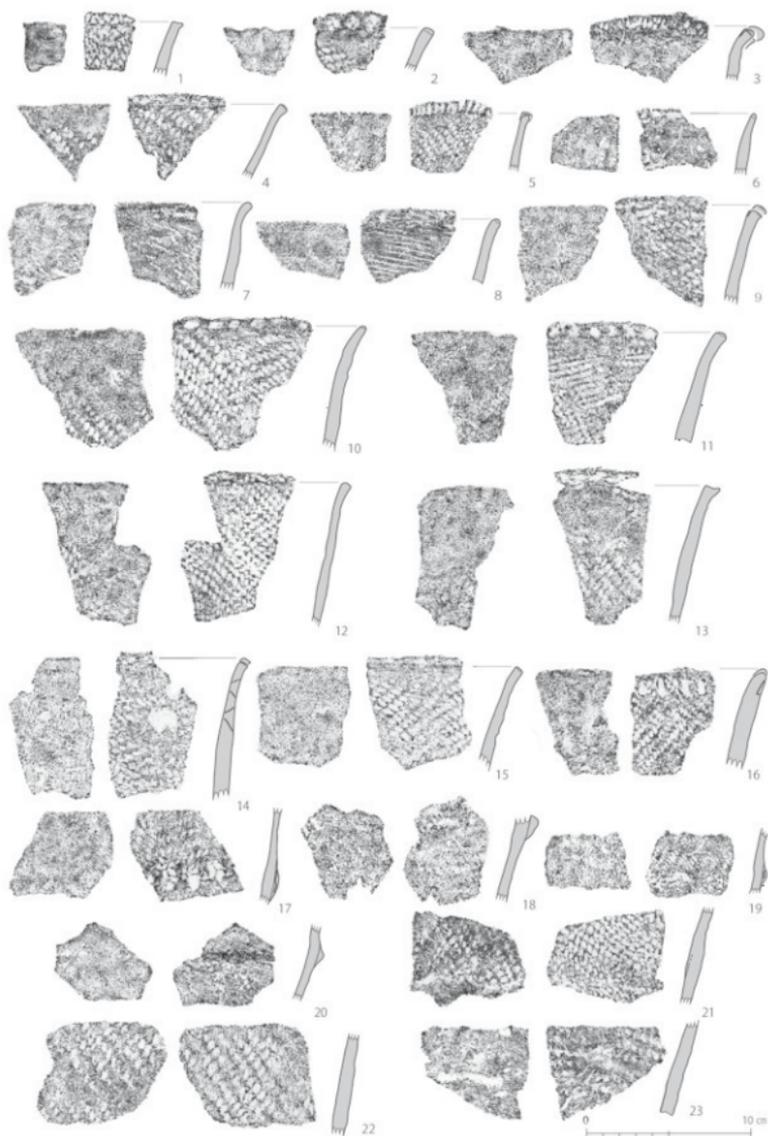
第 32 図 SD1 出土縄文土器・土製品



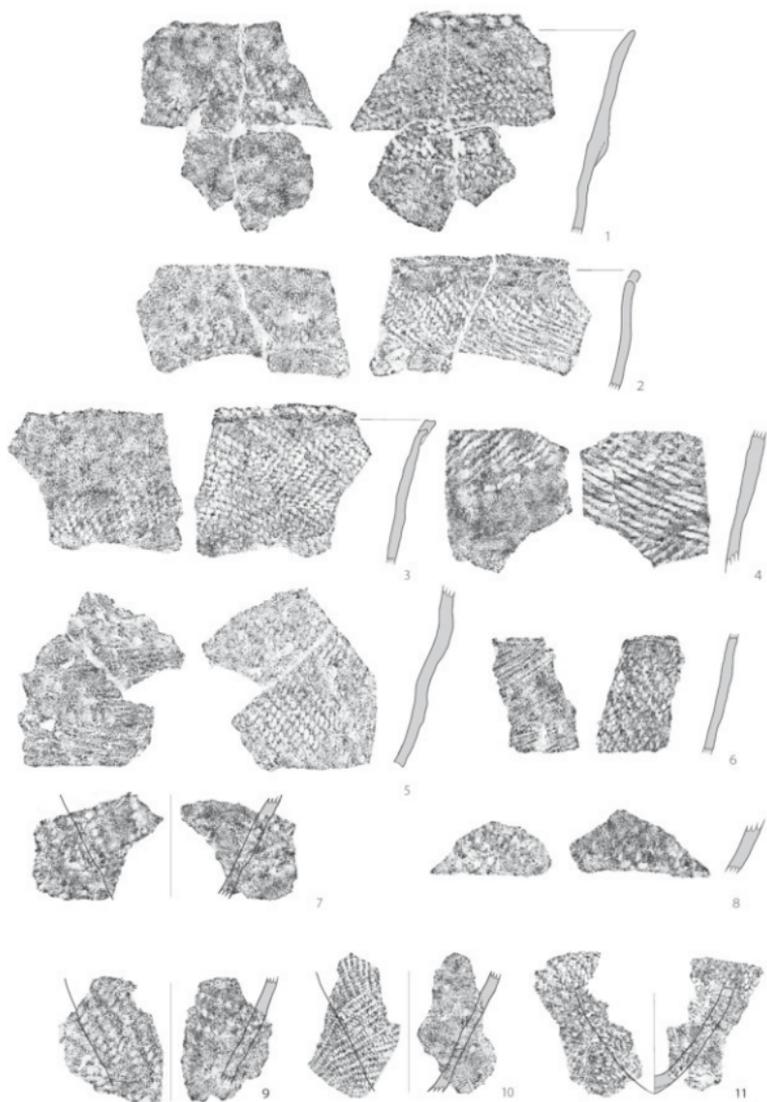
第 33 図 SD1 出土石器・土製品



第 34 图 SD1 出土绳文土器・石器



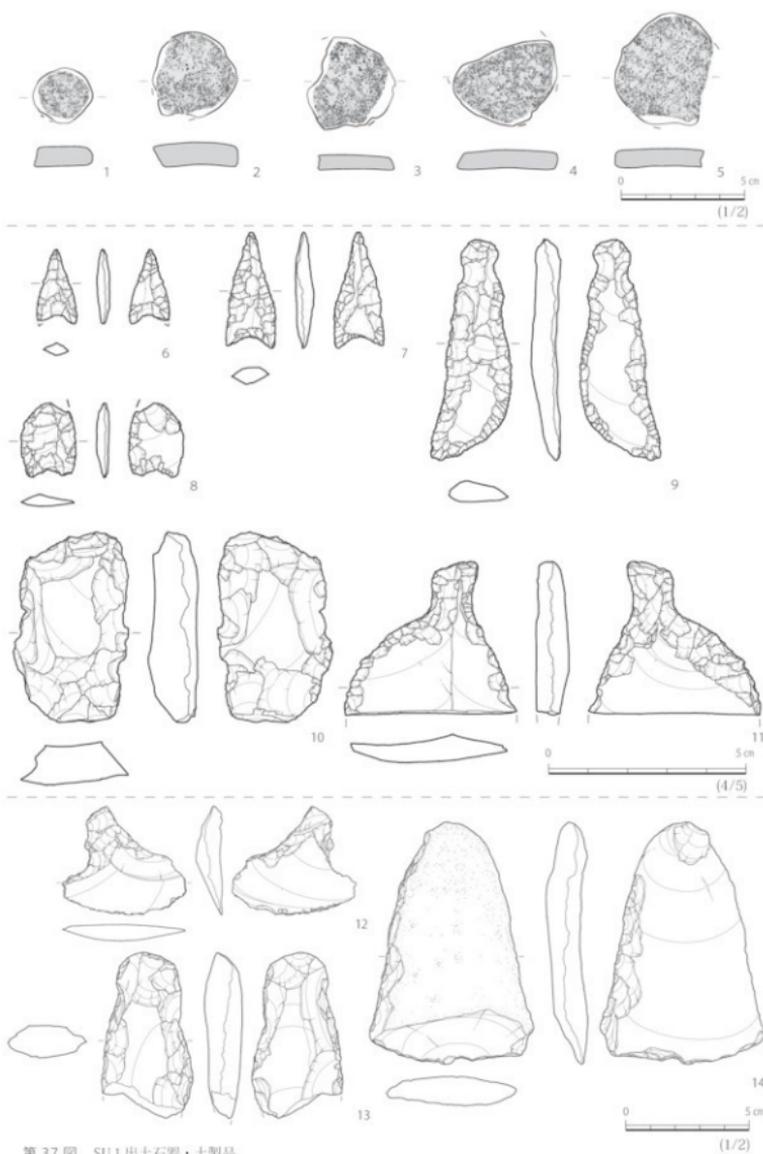
第 35 図 SU1 出土縄文土器



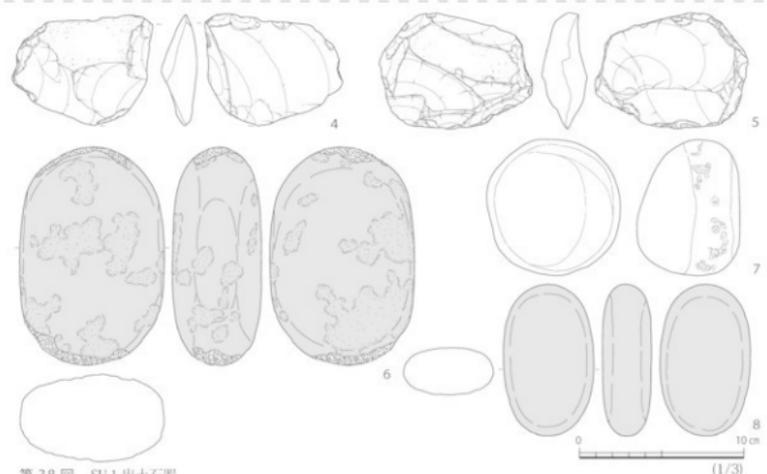
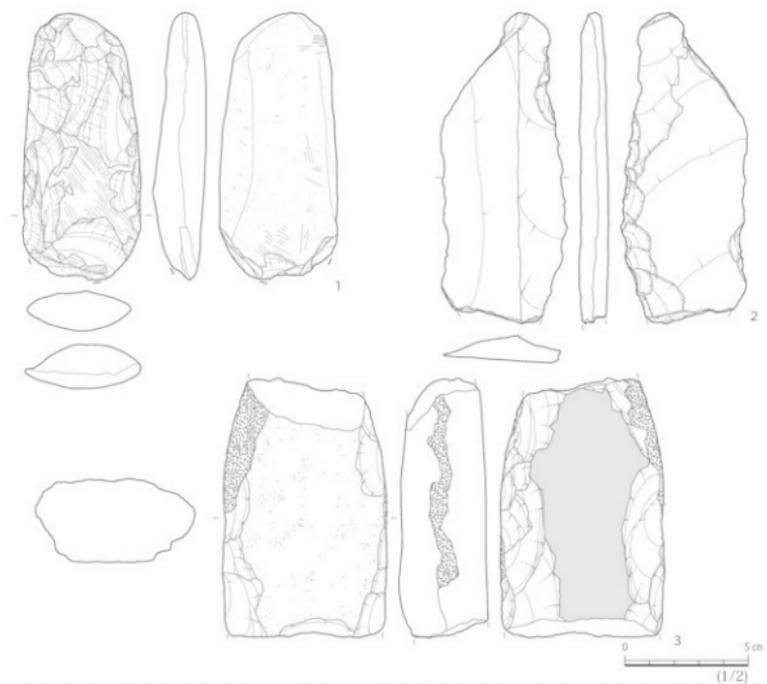
0 10 cm

(1/3)

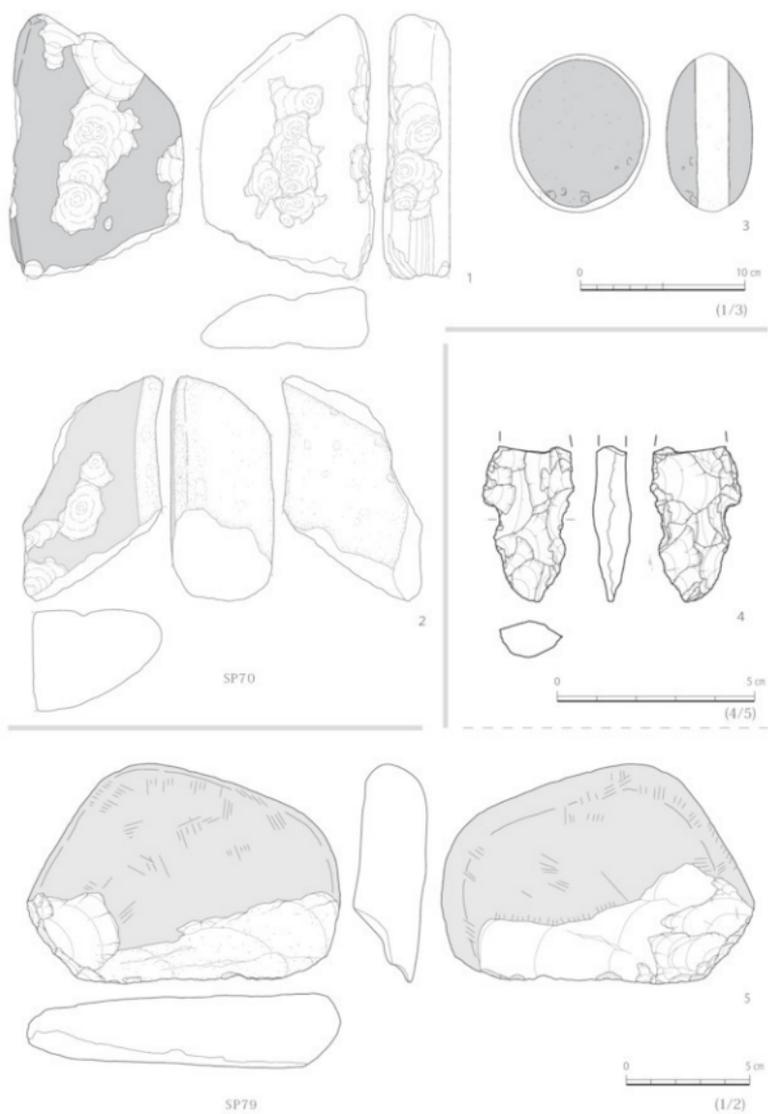
第 36 圖 SU1 出土縄文土器



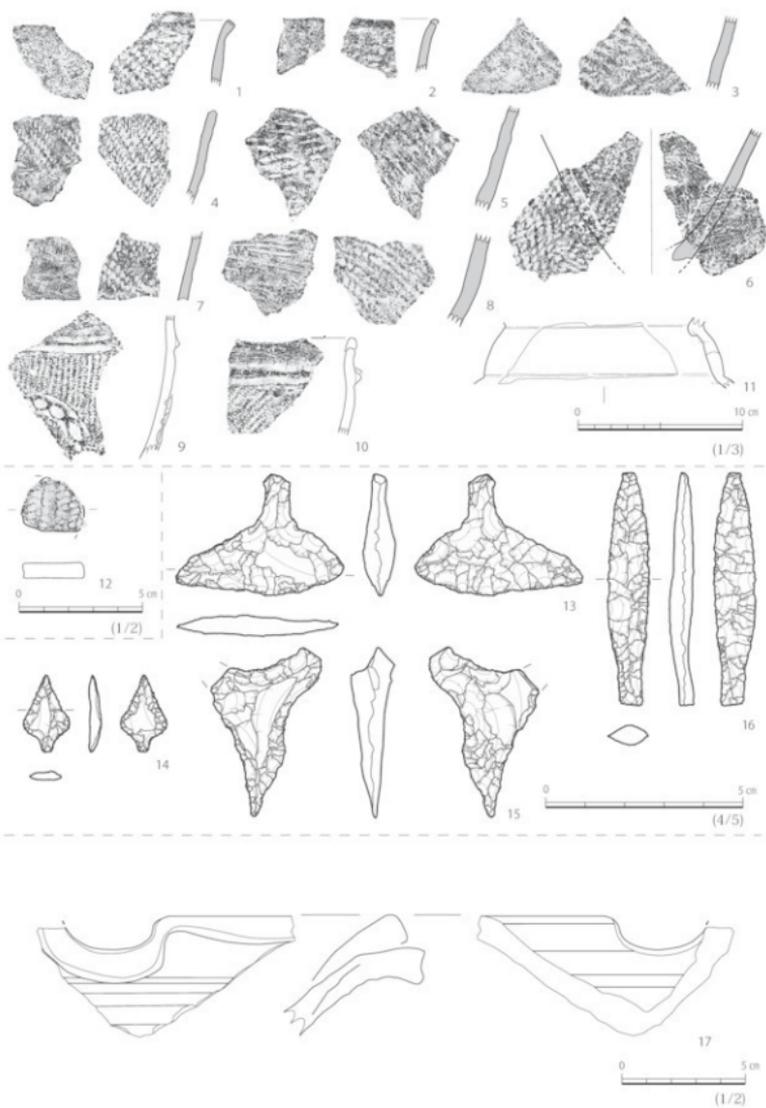
第 37 図 SU1 出土石器・土製品



第 38 圖 SU1 出土石器



第 39 図 SP70・79 出土石器



第 40 图 表土出土縄文土器・石器・土製品・片口跡

第8表 土製品観察表

調査 No	種別	出土地区・遺構	直径	短径	厚さ	重量	単位
							備考
22-1	円筒状土製品	1号住居跡	3.29	2.13	0.57	3.8	
22-2	円筒状土製品	1号住居跡	2.59	2.23	0.71	3.8	
22-3	円筒状土製品	1号住居跡	3.86	3.43	0.74	12.7	
22-4	円筒状土製品	1号住居跡	4.10	3.29	0.68	10.6	
22-5	円筒状土製品	1号住居跡	3.98	3.29	0.80	11.4	
22-6	円筒状土製品	1号住居跡	4.29	2.54	0.50	5.0	
22-7	円筒状土製品	1号住居跡	4.69	3.68	1.08	20.5	底縁出
22-8	円筒状土製品	1号住居跡	4.05	3.81	1.01	16.5	
22-9	円筒状土製品	1号住居跡	5.25	4.32	0.92	20.8	
22-10	円筒状土製品	1号住居跡	5.55	4.62	1.77	26.8	
22-11	土 偶	1号住居跡	5.7 (長さ)	3.4(幅)	4.44	50.2	住居東下部
23-5	円筒状土製品	1号土坑	3.13	2.42	0.89	6.6	
29-5	円筒状土製品	14号土坑	3.46	3.26	0.74	7.8	
29-6	円筒状土製品	14号土坑	4.47	3.57	0.97	14.2	
29-7	円筒状土製品	14号土坑	3.89	3.63	0.74	12.0	
29-16	土 偶	20号土坑	3.6 (長さ)	12.1(幅)	1.93	72.4	
30-10	円筒状土製品	21号土坑	4.02	3.84	0.84	14.3	
30-11	円筒状土製品	21号土坑	4.14	3.84	0.91	14.9	
31-4	円筒状土製品	24号土坑	4.03	2.87	0.83	10.5	
31-5	円筒状土製品	24号土坑	4.01	2.91	0.88	10.0	
32-14	有孔円筒状土製品	1号溝	3.50	3.39	0.81	10.1	西端部
32-15	円筒状土製品	1号溝	2.11	2.02	0.74	3.1	
32-16	円筒状土製品	1号溝	3.11	3.05	0.80	2.9	
32-17	円筒状土製品	1号溝	3.54	2.98	0.91	2.85	
32-18	円筒状土製品	1号溝	3.22	2.60	0.88	7.4	
32-19	円筒状土製品	1号溝	3.65	2.96	0.74	6.9	
32-20	円筒状土製品	1号溝	3.86	3.39	0.78	10.9	
32-21	円筒状土製品	1号溝	3.34	2.94	0.69	7.4	
32-22	円筒状土製品	1号溝	3.68	2.93	0.84	8.6	
32-23	円筒状土製品	1号溝	3.60	3.43	0.74	9.9	
32-24	円筒状土製品	1号溝	5.17	2.71	0.76	10.3	
33-1	円筒状土製品	1号溝	3.62	3.22	0.87	11.1	
33-2	円筒状土製品	1号溝	4.83	4.31	0.59	15.1	
33-3	円筒状土製品	1号溝	4.59	4.30	0.84	18.7	
33-4	円筒状土製品	1号溝	5.18	3.67	1.05	19.2	
33-5	円筒状土製品	1号溝	5.65	4.30	0.80	22.0	
33-6	梨輪形土製品	1号溝	7.10(長軸)	5.20(短軸)	1.94	14.4	
37-1	円筒状土製品	遺物包含層	2.34	2.11	0.76	3.4	
37-2	円筒状土製品	遺物包含層	3.72	3.33	1.04	11.3	6層
37-3	円筒状土製品	遺物包含層	3.69	3.56	0.72	8.9	6層
37-4	円筒状土製品	遺物包含層	4.23	3.03	0.87	12.1	4・5層
37-5	円筒状土製品	遺物包含層	4.60	4.31	0.94	17.1	4・5層
40-12	円筒状土製品	表 土	2.54	2.13	0.70	3.8	

第9表 石器観察表

採回No	種別	出土地区・遺構	長さ	幅	厚さ	重量	石質	単位 cm g	
									備考
22-14	石 鏃	1号住居跡	2.86	1.93	0.63	3.6	頁岩		
22-15	スケレイバー	1号住居跡	1.83	1.89	0.62	1.7	珸質頁岩		
22-16	石 鏃	1号住居跡	4.07	1.36	0.47	1.2	頁岩		床検出
22-17	鏃 器	1号住居跡	13.9	3.58	2.38	155.0	凝灰岩		床検出
22-18	石 鏃	1号住居跡	20.6	15.6	6.82	3900	花崗岩		
22-19	鏃 器	1号住居跡	8.91	13.6	2.63	3960	黒色頁岩		
24-4	有孔群石製品	9号土坑	11.79	5.21	3.92	34.0	浮岩		埋土中位
24-5	鏃 器	9号土坑	12.57	10.8	3.63	468	粗粒砂岩		埋土中位
24-6	磨 石	9号土坑	10.93	10.59	7.25	1162.0	花崗岩		埋土中位
24-7	石 鏃	9号土坑	10.53	10.06	3.97	209.0	凝灰岩		埋土中位
25-11	石 鏃	12号土坑	27.9	34.8	6.3	8000	花崗岩		
26-1	石 鏃	12号土坑	29.3	16.9	7.57	5300	花崗岩		埋土中位
26-2	石 鏃	12号土坑	27.9	20.6	6.65	4600	花崗岩		埋土中位
27-1	石 鏃	12号土坑	49.0	28.8	11.3	19100	花崗岩		西層埋土下位
27-2	砥 石	12号土坑	16.2	17.4	9.03	3400	粗粒砂岩		土坑底
28	大形 磨 石	12号土坑	32.1	14.1	10.5	9600	花崗岩		埋土上位
29-8	磨 石	14号土坑	9.08	8.2	5.8	647	花崗岩		
30-12	磨 石	21号土坑	12.5	6.63	4.18	567	花崗岩		
30-13	磨 石	21号土坑	9.06	7.62	4.96	5.07	花崗岩		
33-7	石 鏃	1号溝	1.58	1.71	0.36	3.0	珸質頁岩		中央土層
33-8	石鏃未成品	1号溝	2.17	1.50	0.71	1.8	珸質頁岩		
33-9	石 鏃	1号溝	2.39	1.40	0.45	0.8	珸質頁岩		中央中層
33-10	石 鏃	1号溝	9.42	1.91	0.76	12.8	頁岩		東側
33-11	石 鏃	1号溝	4.49	2.04	0.7	2.3	珸岩		中央中層
33-12	局部磨製石斧	1号溝	11.09	6.34	2.73	2630	砂質凝灰岩		中央黒色土
33-13	磨 製 石 斧	1号溝	10.41	4.08	2.40	135.0	凝灰岩		サブトレンチ
33-14	局部磨製石斧	1号溝	8.51	5.71	2.49	182.0	凝灰岩		西側延長中層
33-15	磨 製 石 斧	1号溝	7.78	4.08	2.10	105	閃緑岩		中央中層
34-3	打 製 石 斧	1号溝	9.15	5.37	1.96	129	凝灰質砂岩		西側土層
34-4	打 製 石 斧	1号溝	7.74	5.64	3.31	195.0	安山岩		西側土層
34-5	鏃 器	1号溝	8.37	7.91	2.49	172.0	凝灰質砂岩		西側土層
34-6	凹 石	1号溝	9.98	8.10	4.79	365.0	粗粒砂岩		中央中層
34-7	砥 石	1号溝	10.26	5.66	3.54	323	閃緑岩		中央土層
37-6	石 鏃	遺物包含層	1.90	1.0	0.35	0.3	頁岩		黒色土上層
37-7	石 鏃	遺物包含層	2.94	1.25	0.45	1.1	頁岩		4・5層
37-8	石 鏃	遺物包含層	1.40	1.89	0.32	0.8	頁岩		5層上部
37-9	石 鏃	遺物包含層	5.63	1.96	0.62	6.3	頁岩		5層
37-10	スケレイバー	遺物包含層	2.86	4.89	1.25	19.0	頁岩		ベルト溝跡
37-11	石 鏃	遺物包含層	3.85	4.34	7.6	10.7	頁岩		5層上部
37-12	スケレイバー	遺物包含層	6.19	5.35	1.22	25.3	頁岩		4・5層
37-13	小形打製石斧	遺物包含層	6.76	3.63	1.49	39.4	凝灰質砂岩		検出面1段下位
37-14	打 製 石 斧	遺物包含層	9.73	6.63	1.48	104.0	凝灰質砂岩		検出面1段下位
38-1	局部磨製石斧	遺物包含層	10.7	4.86	2.20	130.0	中粒砂岩		西平黒色土
38-2	スケレイバー	遺物包含層	4.93	12.41	1.04	84.8	粗粒砂岩		検出面1段下位
38-3	磨製石斧未成品	遺物包含層	10.53	6.66	3.55	449.0	閃緑岩		3層
38-4	鏃 器	遺物包含層	7.95	7.47	2.28	128.0	凝灰質砂岩		
38-5	鏃 器	遺物包含層	9.37	6.78	2.83	201.0	中粒砂岩		
38-6	砥 石	遺物包含層	13.36	8.78	5.36	1017.0	花崗岩		磨石兼用
38-7	砥 石	遺物包含層	8.21	8.41	6.33	632.0	花崗岩		4・5層
38-8	磨 石	遺物包含層	9.30	5.51	2.96	261.0	玄武岩		5層
39-1	凹 石	SP70	16.20	10.36	4.10	756.0	粗粒砂岩		
39-2	凹 石	SP70	14.20	8.47	6.12	695.0	粗粒砂岩		

39-3	磨石	SP7D	9.48	8.45	5.26	625.0	花崗岩	
39-4	石楯	SP79	3.93	2.27	0.95	7.6	頁岩	
39-5	磨器	SP7b	8.90	12.64	2.88	416.0	粗粒砂岩	
40-13	石筥	表土	3.05	4.02	0.76	5.7	頁岩	
40-14	石鉄	表採	1.95	1.17	0.27	0.3	チャート	
40-15	石蓋	不明	4.34	2.80	1.07	6.6	頁岩	
40-16	石楯	表土	5.92	1.05	0.58	3.1	頁岩	

第10表 縄文土器観察表

単位 cm ( )内推定値

調査 No	分類	出土地区・遺構	口径	胴部径	底径	器高	文様・特徴
18-1	6類 a	1号住居跡	37.0			18.4	筒形状 沈線・コ字文・LR横回転
18-2	6類 b	1号住居跡	(36.0)			15.6	円文・LR横回転
18-3	6類 b	1号住居跡	(26.2)			11.8	楕円形区画文・LR横回転
18-4	6類 d	1号住居跡	24.3			9.7	表・裏面に磨き痕
19-3	6類 g	1号住居跡		14.5	4.8	12.7	人形文・RL横、縦、斜回転
19-4	6類 e	1号住居跡	26.9		10.5	41.7	口縁部目帯・人形文・RL横、斜回転
19-5	6類 f	1号住居跡	8.9	11.8	5.4	14.9	口縁部沈線・楕円形貼付3単位
20-1	6類 a	1号住居跡	39.4			26.8	LR横回転
20-2	6類 a	1号住居跡	31.6			22.9	LR横、斜回転
23-14	3類 a	9号土坑			11.2	22.8	RL横回転
24-1	3類 g	9号土坑		14.2	11.3	14.2	2個一對 把手・RL縦回転
24-2	3類 g	9号土坑	4.4	7.2	6.3	5.2	胴部に 3個の横位貫通孔・L縦回転
25-10	4類	11号土坑			2.3	4.1	ミニチュア土器・底部付近赤彩残存部あり
30-17	5類 a	24号土坑	(31.6)	(31.9)		27.8	口縁 8単位の対向弧線文・縦位沈線・LR横、縦回転
32-13	6類 f	1号溝		11.2		5.3	凸面体・内外面磨き
40-11	6類 f	西区田耕作土	(14.4)			4.6	凸面体・内外面磨き

## V 動物遺存体

### 1 分析資料

中沢遺跡では、プラスチック土坑のSK9底部壁際より貝層が検出されている。貝層にかく乱はみられず、縄文時代中期後葉の土器である大木9式が共存していた。これらは全て回収されたのち、5mm、2mm、1mmメッシュのフルイを使用した水洗選別が行われている。そのうち5mm、2mmメッシュで回収された資料については、奈良文化財研究所へ移送される以前の段階で、小礫、炭化物、貝類、骨などに分類する作業が完了している。

本稿で分析するのは、5mm、2mmメッシュより回収された動物遺存体と、1mmメッシュより回収された未分類の資料になる。なお分析期間の都合上、1mmメッシュから回収されたものは資料を選定している。移送された1mmメッシュ回収の資料には、破碎した貝類が主体となるもの(2袋、2,283.74g)と、小礫が主体となるもの(5袋、6,211.09g)の2種類がみられた。そのため、それぞれ1袋を選定し分析対象とした。なお、1mmメッシュで分析した資料(1,978.68g)は、重量(質量)比で全体量(8,494.83g)の23.29%(貝類主体が48.17%、小礫主体が14.14%)となる。

### 2 分析方法

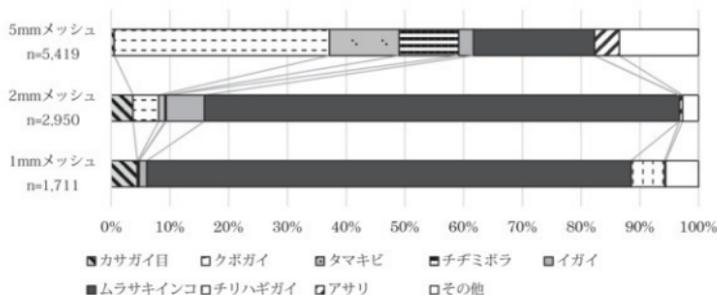
貝類、魚類、哺乳類など分類群ごとに選別を行ったあと、それぞれの同定基準を満たす資料について同定と集計を行った。多板綱は殻板が1/2以上残存するもの、腹足綱は原則として殻頂部(種によっては殻口部)を含み1/2以上が残存するもの、二枚貝綱は原則として殻頂部が残存するものを同定した。顎脚綱、軟甲綱、ウニ綱は破片全てを同定、計上した。軟骨魚綱、硬骨魚綱、両生綱、鳥綱、哺乳綱は原則として関節部が残存するものを同定した。動物の同定基準については、熊谷(2001)および小井川・岡村編(1986・1987)を参考としている。同定に際しては、奈良文化財研究所環境考古学研究所蔵の標本を用いた。また一部の貝類は、岩手県陸前高田市立博物館熊谷賢氏からご指導いただいた。なお、動物遺存体の写真撮影は、奈良文化財研究所の中村一郎、飯田ゆりあが行った。

### 3 同定結果

分析の結果、多板綱1分類群74点、腹足綱26分類群4,151点、二枚貝綱17分類群11,622点、顎脚綱3分類群16,362点、軟甲綱1分類群33点、ウニ綱1分類群1,051点、軟骨魚綱1分類群6点、硬骨魚綱15分類群471点、両生綱1分類群1点、鳥綱1分類群1点、哺乳綱1分類群7点の、68分類群33,770点が同定された。1mmメッシュよりえられたフジツボ亜目の微小な殻板破片を除けば、同定可能破片数(NISP)の約80%が貝類であり、貝層は貝類の採集活動が強く反映されていると考えられる。

同定された貝類のうち、最も多いのはムラサキインコである。クボガイがそれに次ぎ、タマキビ、

第41図 メッシュ別貝類組成 (MNI)



チヂミボラ、イガイ、アサリも450点以上同定できた。陸産貝はほとんどみられなかったが、これは遺構の性格や堆積環境、土壌などが影響しているものと考えられる。

貝類の同定結果をメッシュ別に集計し、最小個体数(MNI)を用いて組成表を作成した(第41図)。組成によれば、5mmメッシュではクボガイが最も多く、ムラサキインコ、タマキビ、チヂミボラが続いた。2mm、1mmではムラサキインコが卓越しており、カサガイ目やチリハギガイも5%程度みられた。

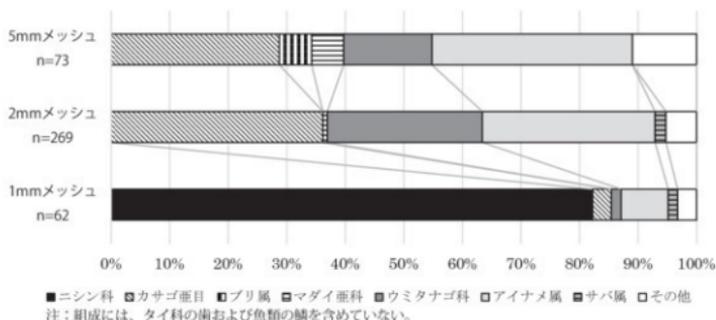
主要貝類であるムラサキインコ、クボガイ、タマキビ、チヂミボラはいずれも岩礁域に生息していることから(戸羽2009)、現在でも遺跡近辺で発達する広田湾岩礁域での採貝活動が中心であったと考えられる。一方アサリ、ヒメシラトリガイ、シオサザミ科(イソシジミ *Nuttallia japonica*、エゾイソシジミ *Nuttallia ezonis* などを含む)を対象とする砂浜部での採貝活動も行われてはいたものの、全体からすると低調であるといえる。

なおチリハギガイや小型のカサガイ目については、熊谷賢氏が指摘するように(熊谷2001)、ムラサキインコの足糸に付着した個体が持ち込まれたものと推測される。ただしムラサキインコの個体数に比して少量であることから、足糸の処理などによる影響が考えられる。

魚類は、5mm、2mmメッシュ共にアイナメ属、カサゴ亜目、ウミタナゴ科が多数同定されており、NISPを用いて作成した組成表でも大半を占めている(第42図)。アイナメ属、カサゴ亜目は岩礁域を、ウミタナゴ科は藻場を好み、いずれも周年生息する魚類であることが知られる(陸前高田市史編集委員会編1994)。遺跡近辺の岩礁域において、安定的に獲得可能な海産資源として、盛んに利用されたと考えられる。なお現在でもこれらを狙った釣り漁が盛んであることから(酒井1986)、貝層に相伴した釣針との関連性が推察される。

5mmメッシュからは、標本との比較で体長約60cm程度と推定されるブリ属の歯骨が3点同定されており、中沢遺跡における大型魚を対象とした漁撈を示す資料であるといえる。また2mmメッシュからは、1点ではあるもののタラ科の前上顎骨も同定されている。タラ科は現在、岩手県近

第42図 メッシュ別魚類組成 (NISP)



海では3種(マダラ、スケトウダラ、コマイ)が知られ、いずれも成魚は冷水を好み水深100m以深に生息する。そのうちマダラとコマイは産卵のため冬季に沿岸浅瀬へ移ることから(上田ほか2003)、冬季特有の漁撈活動を示しえる資料であると考えられる。

1mmメッシュではニシン科の椎骨が多数えられた。ニシン科椎骨の中には第一椎骨もみられたため標本との比較を行ったところ、サッパであると同定された。ニシン科の多くは回遊を行うが、サッパのように大規模回遊は行わず、内湾を中心として生息するものもある(マリンピア松島水族館編1993)。貝層からえられたニシン科が全てサッパであるとは判断しがたいが、いずれにせよ沿岸近くを回遊するニシン科もまた、積極的に利用されていたと推察される。

哺乳類はニホンジカの角破片のみが同定されたが、同定できなかったものの骨幹部破片も検出していることから、角のみが廃棄されているわけではない。狩猟に伴うものである可能性は高いが、量的にみて極めて低調な利用であるといえる。鳥類も同様にその利用は低調であると考えられる。十脚目、フジツボ亜目、ウニ綱は岩礁域を中心とした獲得が考えられる。その他両生類として無尾目の椎骨が1点えられているが、人為的な廃棄物か否か判断が難しい。

以上の同定結果と組成の検討から、中期後葉(大木9式期)における中沢遺跡の動物利用は、近隣の岩礁域で周年の獲得が可能な動物が中心であったと考えられる。中でもムラサキイノコなどの岩礁性貝類は盛んに採集されていた。魚類もアイナメ属、カサゴ亜目、ウミタナゴ科といった岩礁を好むものを主に獲っていたが、ニシン科のような沿岸性回遊魚や、体長60cm程度のブリ属、冬季に浅瀬に移動するタラ科など、貝類と比較して利用対象には多様性があった。哺乳類、鳥類などを対象とした狩猟の痕跡は乏しく、活動は低調であったと考えられる。

#### 4 中沢浜貝塚との比較

最後に、中沢遺跡の分析結果を踏まえて、隣接する中沢浜貝塚との比較を行い、どのような差異が見られるかを検討した。具体的な比較対象としたのは、2001年に報告された縄文時代中期末葉で

ある、大木 10 式期主体の動物遺存体である（佐藤ほか 1999、熊谷 2001）。

まず全体の傾向を比較すると、中沢遺跡ではほとんどみられなかった哺乳類が、中沢浜貝塚では四肢骨を中心に多数みられる点が指摘できる。また中沢浜貝塚では、魚類も数多くの分類群と部位骨が同定されている。そのため両遺跡では、貝層に含まれる骨片数に大きな違いがあると考えられる。

次に個別の内容について比較を行う。貝類は、出土した貝種の大半が両遺跡で共通している。貝類組成も類似しており、中沢浜貝塚でもムラサキイソコを中心とした岩礁性貝類が主体を占めている。しかし中沢浜貝塚から微小な陸産貝が多数出土しており、中沢遺跡と様相が異なる。

魚類では、両遺跡ともにアイナメ属、カサゴ亜目、ウミタナゴ科が多数みられるなど、岩礁域や藻場で獲得可能な魚類が主体を占める点は共通している。ただし中沢浜貝塚では、中沢遺跡ではわずかであったサバ属が多数みられるほか、ブリ属の出土点数も多い。一方で、1mm メッシュからえられたニシン科の NISP は、中沢浜貝塚が 30 点なのに対して中沢遺跡が 51 点であり、全量が分析されていないにもかかわらず中沢遺跡の方が多い。

そのほかにも、中沢浜貝塚では十脚目の出土が 2 点と少ない点などに差異が見出せる。

以上の結果から、中沢遺跡と中沢浜貝塚では、利用している動物の種類と傾向が類似している一方で、いくつかの異なる点が指摘できる。こうした差異は、三陸沿岸域における中期後葉から末葉へという変遷を考える上で、動物利用の観点から指摘すべき点であると思われる。ただし中沢遺跡と中沢浜貝塚では、遺構の性格、堆積環境、サンプルサイズなどに大きな違いがあるため、比較の結果については慎重な検討が要されるとともに、当該期における複数事例の比較から研究が進められることが望まれる。

第11表 中沢園師 動物道行(本一覧)

軟体動物門 Mollusca
多板綱 Polyplacophora
新ヒザラガイ目 Neoloricata
腹足綱 Gastropoda
カサガイ目 Patellogastropoda spp.
ユキノカサガイ <i>Niveotectura pallida</i>
ミミガイ科 Haliotidae sp.
サルアワビ <i>Tigalina (Scelidotoma) gigas</i>
ニシキウス科 Trochidae spp.
クボガイ <i>Chlorostoma lischkei</i>
コシダカガンガラ <i>Omphalus rusticus</i>
イシダタミ <i>Monodonta labio form confuse</i>
クロツケガイ <i>Monodonta neritoides</i>
エビスガイ <i>Galtestoma unicum</i>
サザエ科 Turbinidae sp.
スガイ <i>Turbo (Lunella) coronatus coreensis</i>
タマキビ科 Littorinidae sp.
タマキビ <i>Littorina (Littorina) brevicula</i>
クロタマキビ <i>Littorina (Neritina) sibirica</i>
オオヘビガイ <i>Serpulorbis imbricatus</i>
ヤツシロガイ <i>Tonna luteostoma</i>
アッキガイ科 Muricoidae sp.
ヒレガイ <i>Cerastostoma burnetti</i>
オウウヨウラク <i>Cerastostoma inornatus</i>
エソウヨウラク <i>Cerastostoma inornatus endermonis</i>
チヂミボラ <i>Nucella lima</i>
レイシガイ <i>Thais (Reishia) bronni</i>
イボシ <i>Thais (Reishia) clavigera</i>
フトコロガイ科 Columbellidae sp.
ムシロガイ科 Nassariidae sp.
二枚貝綱 Bivalvia
コベルトフネガイ <i>Arca buccardi</i>
カリガネエガイ <i>Berthia (Sivigayara) virescens</i>
イガイ科 Mytilidae spp.
イガイ <i>Mytilus coruscus</i>
ムラサキエンコ <i>Septifer virgatus</i>
アズマニシキ <i>Chlamys (Azumapecten) furrei/japonensis</i>
マガキ <i>Gastrea gigas</i>
チリビガイ <i>Lesaea urdidate</i>
ミルケイ <i>Tresus keenei</i>
ニッコウガイ科 Tellinidae sp.
ヒメシラトリ <i>Macoma incognita</i>
シラトリモドキ <i>Heteromacoma irus</i>
シオサザナミ科 Psammobidae sp.
マルスダレガイ科 Veneridae sp.
オニアサリ <i>Protothaca jacoensis</i>
ヌノメアサリ <i>protothaca euglypta</i>
アサリ <i>Ruditapes philippinarum</i>
オノノガイ <i>Mya arenaria onogai</i>

節足動物門 Arthropoda
顎脚綱 Maxillopoda
フジツボ亜目 Balanomorpha spp.
チシマフジツボ <i>Semibalanus cariosus</i>
アカフジツボ <i>Megabalanus rosa</i>
軟甲綱 Malacostraca
十脚目 Decapoda sp.
棘皮動物門 Echinodermata
ウニ綱 Echinoidea sp.
脊椎動物門 Vertebrata
軟骨魚綱 Chondrichthyes
エイ上目 Batoidimorpha sp.
硬骨魚綱 Osteichthyes
ニシン科 Clupeidae sp.
サッパ <i>Sardinella zunasi</i>
カタクチイワシ <i>Engraulis japonicus</i>
タラ科 Gadidae sp.
サヨリ属 <i>Hyporhamphus</i> sp.
カサゴ亜目 Scorpaenoidae spp.
スズキ属 <i>Lateolabrax</i> sp.
ブリ属 <i>Seriola</i> sp.
タイ科 Sparidae spp.
マダイ亜科 Pagrinae sp.
ウミタナゴ科 Embiotocidae sp.
アイナメ属 <i>Hexagrammos</i> sp.
サハ属 <i>Scomber</i> sp.
マグロ属 <i>Thunnus</i> sp.
ヒラメ科 Paralichthidae sp.
両生綱 Amphibia
無足目 Anura sp.
鳥綱 Aves
哺乳綱 Mammalia
ニホンジカ <i>Cervus Nippon</i>

(注1) リストの作成に際しては、西村三郎編 1995 『原色検索 日本海産動物類群 1』(II) 保育社、興谷書局 2000 『日本近海産貝類図鑑 Marine Mollusks in Japan』東海大学出版会、戸羽 雅雄 2009 『岩手の海産貝類』、中坊徹次 2013 『日本産魚類検索 全種の同定 第三版 I・II・III』東海大学出版会、中坊徹次・平嶋義宏 2015 『日本産魚類全種の学名 語源と解説』東海大学出版部、千石正一・近田野・松井正文・仲谷一弘編 1996 『日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類 軟骨魚類』平凡社、阿部永 2008 『日本の哺乳類図鑑 2 版』東海大学出版会、日本鳥学会 2012 『日本鳥類目録 改訂第7版』を参照している。

第12表 メッシュ別サンプル重量 (質量)

5mmメッシュ回収重量	
種別	重量(g)
貝類	9861.46
鳥類	30.61
哺乳類	0.35
フジツボ葉目	4.56
ウニ綱	0.09
十脚目	2.54
小糠	19.15
炭化物	3.12
土器片	76.59
その他	3.32
合計	10090.43
動物遺存体合計	9988.23

2mmメッシュ回収重量	
種別	重量(g)
貝類	3202.29
鳥類	43.03
哺乳類	0.12
フジツボ葉目	83.85
十脚目	1.70
ウニ綱	0.91
哺乳目	1.01
小糠	195.17
チップ	0.36
炭化物	7.78
土器片	4.34
その他	1.43
合計	3542.26
動物遺存体合計	3333.18

1mmメッシュ回収重量 (貝類主体のもの、1袋)	
種別	重量(g)
貝類	963.43
鳥類	6.14
フジツボ葉目	7.52
十脚目	0.04
ウニ綱	1.13
小糠	119.12
炭化物	2.10
土器片	0.17
その他	0.59
合計	1100.24
動物遺存体合計	978.26

1mmメッシュ回収重量 (小糠主体のもの、1袋)	
種別	重量(g)
貝類	233.06
鳥類	6.55
フジツボ葉目	26.78
十脚目	0.01
ウニ綱	1.81
小糠	609.57
その他	0.66
合計	878.44
動物遺存体合計	268.21

未分析1mmメッシュ回収重量	
種別	重量(g)
貝類主体の貝殻袋(1袋)	1183.50
小糠主体の貝殻袋(4袋)	5332.65

第13表 メッシュ別同定結果 (魚類以外)

	分類群	5mm	2mm	1mm(貝類 主体)計	1mm(小糠 主体)計	合計
多脚綱	蟹ヒザラガイ目	13	40	0	0	54
	合計					54
二枚貝綱	カサガイ目	29	109	35	41	214
	ユキノカサガイ	16	6	0	0	22
	ザルアブダ	2	0	0	0	2
	瓦ガイ目	6	4	0	0	10
	ニホンウズドコ	85	5	18	17	125
	カボガイ	1984	129	1	0	2114
	コシダカカシガラ	101	5	0	0	106
	インゴケ目	61	0	0	0	61
	クロツケガイ	2	0	0	0	2
	エドスガイ	2	0	0	0	2
	ササエ目	0	6	0	0	6
	スガイ	9	0	0	0	9
	スガイのウツ	3	0	3	0	13
	タマキビ目	7	0	6	0	13
	タマキビ	650	31	0	4	685
	クロタマキビ	15	10	0	0	25
	オオヘビガイ	1	0	0	0	1
	ヤツシロガイ	破片あり	0	0	0	破片あり
	アキガイ目	2	0	0	0	2
	ヒレガイ	26	0	0	0	26
	オウソウクラ	35	0	0	0	35
	エノヨウクラ	2	0	0	0	2
	ナマシロフ	349	6	1	0	356
	ヒレシロガイ	21	0	0	0	21
	イボシシ	32	0	0	0	32
ホトコガイ目	0	4	0	0	4	
ムシロガイ目	0	1	0	0	1	
不明腹足綱	0	5	17	29	36	
合計					4148	
陸産貝	不明	0	1	0	2	3
	合計					3
二枚貝綱	ツバヒトツバガイ	1/0	19/0	0	0	19/21
	カガキガイ	19/16	0	0	0	19/16
	イガイ目	0/1	1/0	0	0	1/1
	イガイ	106/136	192/191	8/7	14/11	322/345
	ムラサキキンコ	1108/1119	2376/2366	777/732	597/633	4866/4850
	アズマニシキ	9/7	0/1	0	0	9/8
	マダキ	3/1	4/3	0	0/1	7/3
	チリハギガイ	0	0	19/25	62/72	81/97
	ヒルガイ	1/1	0	0	0	1/1
	ニクコガイ目	1/9	2/9	0	0	3/18
	ヒメシロガイ	79/58	0	0	0	79/58
	シシノリギキ	35/26	0	0	0	35/26
	シロサザガイ目	118/114	7/11	1/0	0	126/125
	マルスダレガイ目	0	2/2	0	0	2/2
	オニサザ	0/2	0	0	0	0/2
	ヌメアザ	1/0	0	0	0	1/0
	アナリ	227/220	18/14	0/2	0/1	243/237
	オオノガイ	12/3	3/3	0	0	15/3
	不明二枚貝綱	0	2/1	2/0	1/2	5/3
	合計					9111/5811
腹足綱	フジツボ葉目類片	341	2028	2354	11396	16361
	アカツツボ(殻)類片類	1	0	0	0	1
合計					16362	
軟甲綱	土器貝類類	2	20	2	1	33
	合計					33
ウニ綱	ウニ綱類片	0	98	124	344	566
	ウニ綱類片	0	1	0	0	1
	ウニ綱類片	0	2	3	3	10
	ウニ綱類片	0	2	352	120	474
	合計					1051
両生綱	無足目類片	0	1	0	0	1
	合計					1
鳥綱	不明足指中足骨	1/0	0	0	0	1/0
	合計					1/0
哺乳綱	ニホンシカ角破片	4	3	0	0	7
	合計					7

注: 左右のあるものについては"/"で表している。

※1: 1mmメッシュで回収された遺物は、貝類が主体となった袋と小糠が主体となった袋とに分かれた。

ここではそれぞれ一袋を分析し、分けて結果を提示している。

※2: シシノリフジツボはフジツボ葉目に多数含まれるため種名には記載したが、点数は数えていないため、本リストには計上していない。



## VI 総 括

### 縄文時代早期の遺物

中沢遺跡の1号溝及び遺物包含層から早期沈線文土器と繊維を混入した表裏縄文土器が出土した。沈線文土器は24号土坑埋土(第31図1)と1号溝埋土中層(第31図8)から各1点のみの出土であったが、遺跡の上限年代の資料である。田戸下層式に近似した沈線文土器(飯塚正浩 2008)と思われる、住田町蛇王洞洞穴第VI層出土土器(岸沢長介・林謙作 1967)とともに、気仙地方に人が居住を開始した時期を示している。

繊維を混入した表裏縄文施文の土器は主に遺物包含層4・5層から出土したが、中世に掘削されたと考えられる1号溝埋土中からも200点近い出土点数があり(第15表)、近現代の掘削によって失われた遺構の存在を思わせる。

外傾する口縁部に砲弾型の尖底部が付く器形は、大船渡市間谷洞窟出土土器と同一である(後藤勝彦他 1968、及川 洵 1978)。口辺から頸部に粘土帯の貼付がある例がみられる。多くの個体で緩やかな波状口縁が認められる。また、1例ではあるが片口状口縁の個体がある(第35図3)。

口唇部には外側竹管による斜位の刻み目(第31図9・15、第35図10・15)、竹管刺突(第31図10)、細かな刻み目(第31図13、第35図5)を持つ例とRLの押圧縄文(第35図2・11・14、第36図1)、RL縄文の回転施文(第35図3・13、第36図3)、LRの押圧縄文(第35図12)、LR縄文の回転施文(第35図1)がある。稀な例だが単軸絡条体第1類の押圧がある(第35図8)。他個体には口唇への施文はない。

土器表面にはRL縄文の横位・縦位回転があり、裏面にはRL縄文の横位・縦位回転と指頭圧痕(及川 洵 1972)がある個体が多い。少数だが、表面裏面LR(第31図15、第35図12)、表面LR・裏面指頭圧痕(第35図1・16・17)の個体もある。また、各1例のみだが、表面単軸絡条体第1類R、裏面指頭圧痕(第35図8)と表面Lの横位・縦位施文、裏面L・指頭圧痕(第36図4)そして表面前々段多条RL、裏面前々段多条RLと指頭圧痕の個体(第32図2)がある。なお、縄文条痕の個体は第36図6の1点のみであった。

口縁部の文様施文は少なく、わずかに2例のみであった。第31図14は表面に縦位の側面圧痕Lと結節回転Lがあり、裏面には結節回転Lが施文されている。第35図16は外側竹管の縦刺突が口縁上端に沿って並んでいる。また、他の個体は胎土中に石英・長石の白色粒子が多くふくまれる共通点があるが、本例は透明な石英粒子が多く、胎土の特徴は異なっている。一方、口辺から頸部の内外面には低い粘土帯の貼付がみられるが、この低隆帯上に原体の押圧がある個体がある。第32図1はRLの押圧、第35図17はLRの押圧、同図19はコの字状のLRの押圧、第36図1にはRLの断続的な回転痕がある。いずれも器面への回転施文原体と同一の原体を使用している。

上記の土器個体は口縁部の文様施文が少なく、また、表面・裏面へ縄文施文が顕著な点で共通点が多い。蛇王洞洞穴第1層(芹沢 林前掲)、関谷洞窟7・8層(後藤 及川前掲)出土土器群と同時期と考えられ、素山上層式(伊東信雄 1940・1952)に並行すると思われる(相原淳一 1990・林 謙作 1990)。市内の過去の調査では早期貝殻沈線文から表裏縄文施文土器の出土例は、小友町上の坊・竹駒町相川 I・広田町中沢浜貝塚貝層下の破片資料が知られている。

#### 縄文時代中期の遺構と遺物

縄文前期から中期中葉の遺構・遺物の出土は皆無であったが、再び居住の痕跡が認められるのは中期後葉である。9号土坑からは大木9式前半(丹羽 茂 1989)の土器のみが出土している。廃棄された貝層が検出され、動物遺存体が3万点以上同定された(V章参照)。釣針軸頂部の出土もあった。土器には小形壺が2点含まれていたが、特に第24図2は有孔短頸壺の小形土器である。

大木9式と考えられる土坑は他に10号土坑、12号土坑がある。12号土坑から土器の出土は無かったが、無縁石皿のみであったので中期後葉の時期と判断した。9号土坑とともに廃棄行為の特殊性が窺える。

#### 縄文時代後期の遺構と遺物

大木10式及び後期初頭に位置づけられる上野平段階(鈴木克彦 2004)の遺構・遺物は出土していない。上野平段階に続く門前式段階の土器は表土出土の第40図9・10がある。遺構に伴う本段階の土器はなかった。観音堂式段階(鈴木前掲)の個体は14号土坑(第29図)の土器があり、1は旗掛文の系列と考えられる。11号土坑の第25図9(大木9式)を除いた破片も同段階である。他に第30図16の小片も該当すると思われる。24号土坑出土の大形破片(第30図17)は貝鳥式段階(鈴木前掲)と考えられる。胴部の縦位楕円形沈線が多条化していないので宮戸1b式段階には至らないと思われる。口縁部の対向する弧線と縦位沈線は、立石遺跡(中村良幸 1979)のⅢ層に類似の個体がある。以後、料内A・B式(鈴木克彦 2001)段階の土器はないが、宝ヶ峯式段階(伊東信雄 1952、齋藤報恩会 1991、鈴木克彦 2003)には1号住居跡の一括資料がある。第19図4華燭土器(鈴木克彦 2004)の円環状突起は本段階の特徴を示している。同図5の注口土器は大湯型(鈴木克彦 2007)であり、第21図3・4とともに十腰内系土器の搬入を示している。他に本段階の土器は1・5・20・21・22号土坑から出土の破片資料がある。

土器以外の遺物には1号溝出土の腕輪形土製品が注意されよう。吉田分類のIa類に相当する(吉田泰幸 2008)。市内では川内遺跡(国生尚 1984)からⅡ類と判断できる例が出土している。中核的な集落からの出土が多く、隣接する中沢浜貝塚との関連性があるように思われる。

#### 中世の遺構と遺物

1号掘立柱建物跡に伴う遺物はなかったが、表土出土の片口鉢を14世紀の製品と判断した(飯村均 1995)。建物の構造も中世の遺構として問題はないと思われる(中尾七重 2012)。





## 引用・参考文献

- 相澤新一 1990 「東北地方における縄文時代早期後期から前期前期にかけての土器編年」 考古学雑誌76巻1号
- 飯村 均 1995 「東北遺跡」 掲載 中世の土器・陶磁器 中世土器研究会
- 伊藤信雄 1940 宮城県塩田郡不動堂村奥山稲垣遺跡報告 奥宮資料研究部
- 伊藤信雄 1952 「古代史」 宮城歴史1 宮城県
- 岩手県教育委員会 1998 岩手の旧暦 岩手県文化財調査報告第102集
- 上山吉幸 他編 2003 「東北のまかなたち」 北海道新聞社
- 及川 尚 1972 「成形方法を示す早期縄文土器の一例」 考古学雑誌57巻3号
- 及川 尚 金子昌浩 他 1974 門前田原 岩前南田市教育委員会
- 及川 尚 1978 門前田原 「大森遺址第1巻」 大森遺址
- 小石野哲彦 1987 「岩手の赤土式土器編年試論」 岩手県の博物館研究報告第5号
- 熊谷 賢 2001 中津堅山塚1997-1号内器・自然遺物編 岩前南田市教育委員会
- 熊谷常正 1983 「岩手県における縄文時代前期土器の成立」 岩手県の博物館研究報告第1号
- 熊谷常正 1986 「門前式土器の検討」 岩手県の博物館研究報告第4号
- 熊谷常正 1989 「岩手県の早期後平から前期前期の土器類について」 第4回縄文文化検討会シンポジウム
- 熊谷常正 2008 「縄文系前文系土器（東北地方）」 掲載 縄文土器 同研究会
- 小中田和夫 岡村道雄編 1986・1987 「聖武天皇V・VI 宮城野原遺跡の宮室（貝塚内陸部地区）の調査・研究」 東北歴史資料編
- 岡村 尚 1984 中内遺跡発掘調査報告書 岩手県埋文センター文化財報告書82集
- 後藤清彦 他 1968 門前田原 大森南田市教育委員会
- 西條雅雄会 1991 宝ヶ塚
- 酒井敬一 1986 「海三跡の定約状」 法政時報
- 長藤正彦 2003 中内遺跡発掘調査報告書 岩前南田市教育委員会
- 長藤正彦 熊谷 賢 岡村和也 1999 中津堅山塚1997-遺構・土器・土製品・石編年 岩前南田市教育委員会
- 鈴木克彦 2001 「岩手県の後期前期土器の編年」 岩手考古学第13号
- 鈴木克彦 2001 北日本の縄文後期土器編年の研究 藤山園
- 鈴木克彦 2003 「宝ヶ塚式土器の研究」 縄文時代14号
- 鈴木克彦 2004 「早縄土器」 縄文時代15号
- 鈴木克彦 2004 「門前式土器編年の編年学的研究」 考古学雑誌88巻4号
- 鈴木克彦 2007 江上土器の集落研究 藤山園
- 丹生良介 林 謙作 1967 「岩手県史（土器編年）」 江上土器の遺跡 日本考古学協会
- 戸田雅雄 2009 岩手の縄文土器
- 中塚七重 2012 「古瀬部遺跡の中世期の柱建物について」 文化学園大学紀要 服飾学・造形学研究43集
- 中津川幸 1979 立石遺跡 大沼町教育委員会
- 丹羽 茂 1989 中津堅大式土器様式 縄文土器大塚1 小学館
- 林 謙作 1990 「奥山土器式の再検討」 伊藤信雄先生追悼 考古学古代史研究
- マリンピア松島水族館編 1993 「宮城の魚」 河北新報社
- 吉田泰幸 2008 「縄文時代における土器編年の研究」 古代文化59巻4号
- 吉田義明 1960 門前田原 盛年村史蹟
- 岩前南田市編年委員会編 1994 岩前南田市史第一巻自然編
- 熊谷常正 2008 「貝塚・縄文系土器」 掲載 縄文土器 同研究会

# 圖 版



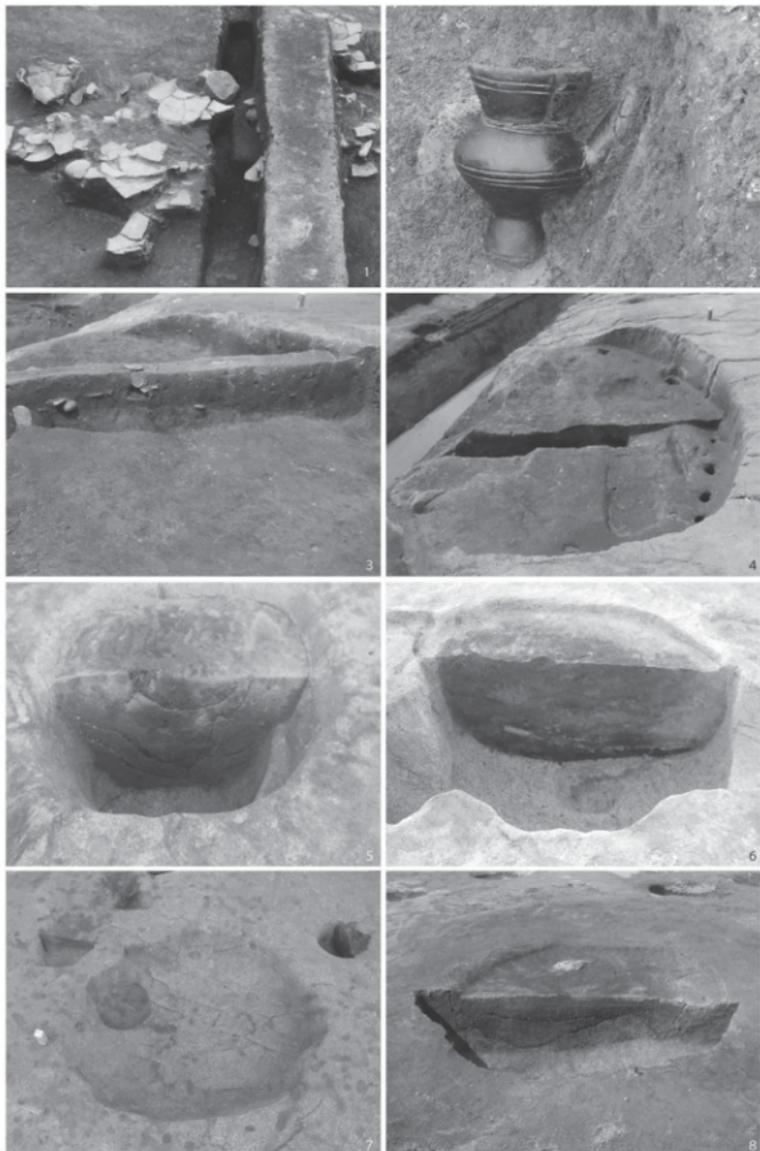
(1) 中沢遺跡と中沢浜貝塚（北より）

平成26年3月25日

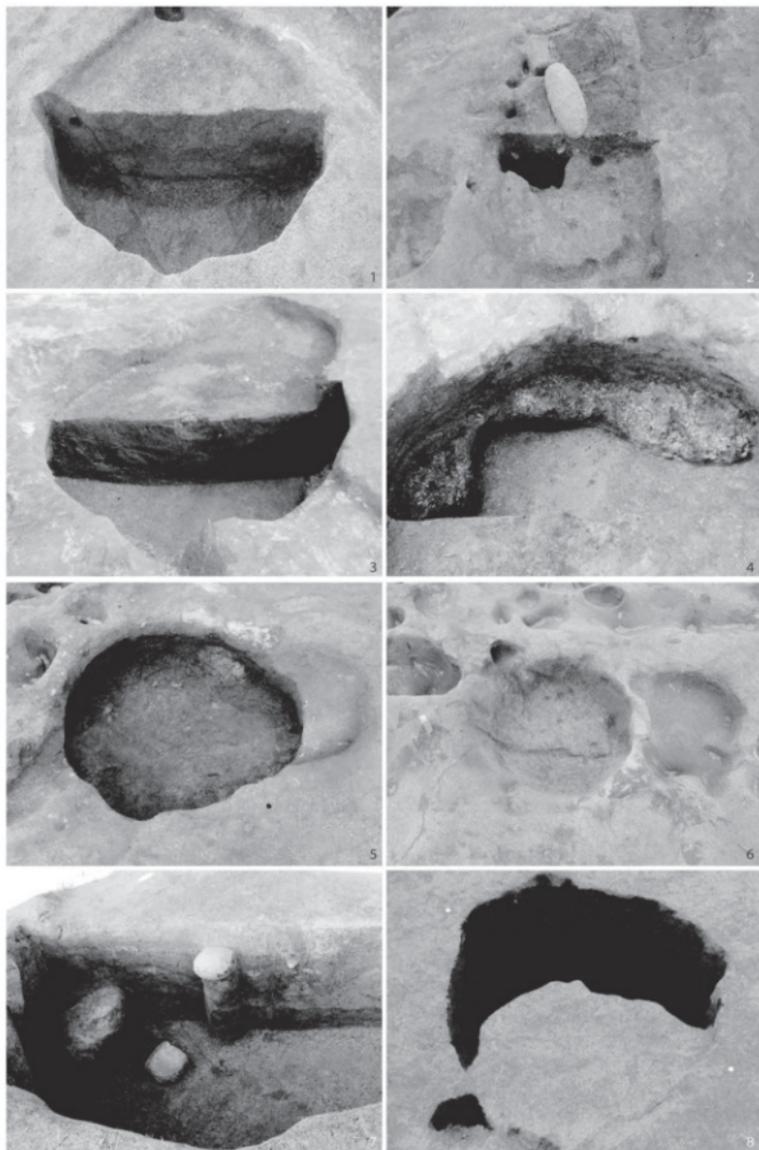


(2) 中沢遺跡全景（西より）

平成26年3月25日

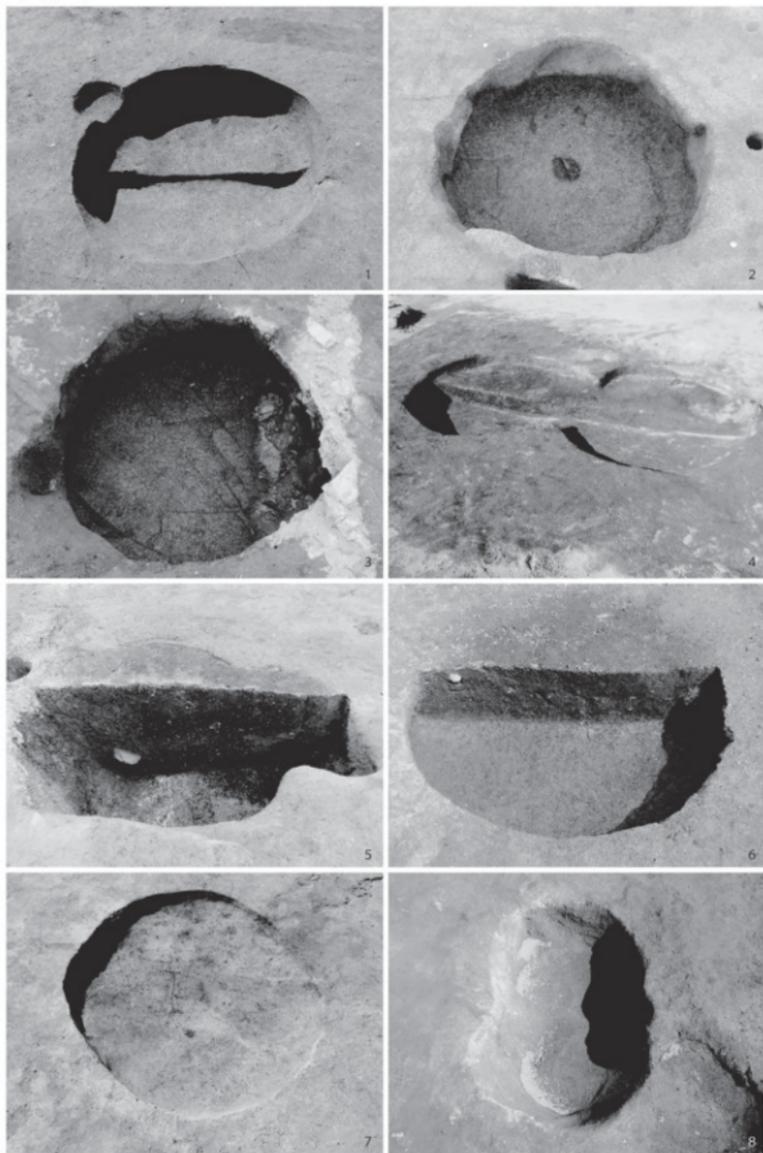


1 SI1 遺物出土状況・2 SI1 遺物出土状況・3 SI1 上層・4 SI1 全景・5 SK1 上層・6 SK4 上層・7 SK5 全景・8 SK6 上層

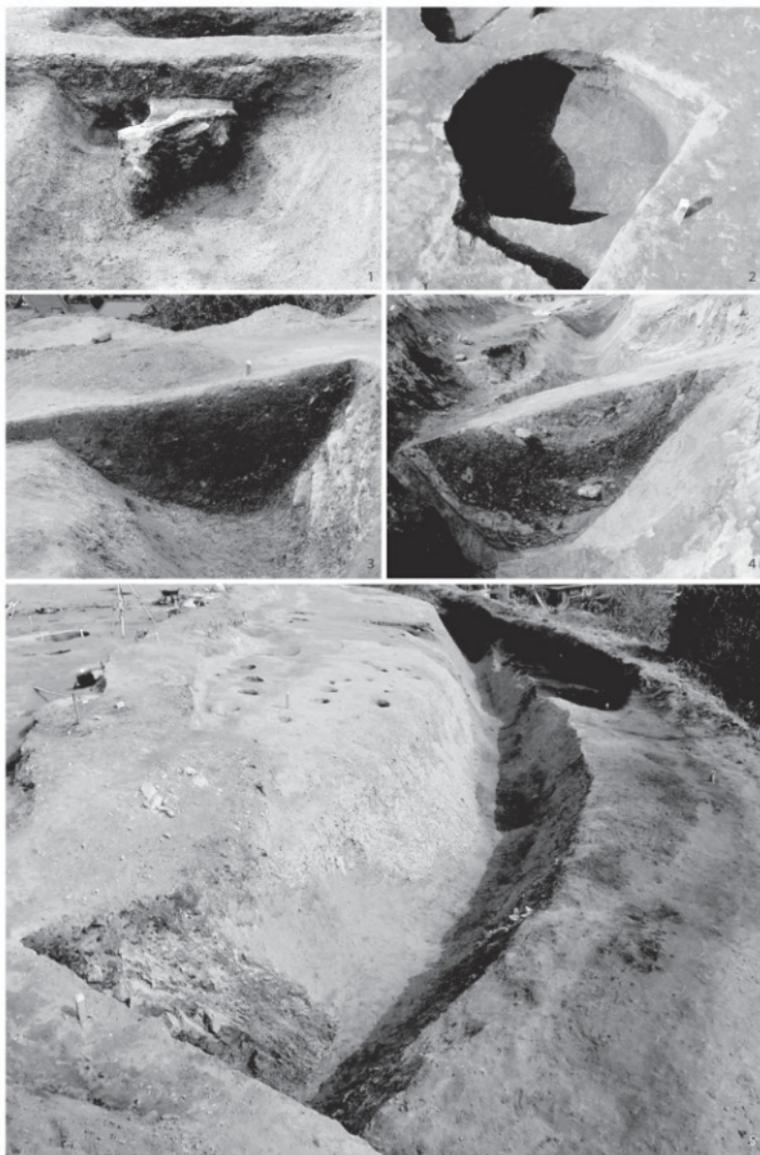


1 SK7 上層・2 SK8 上層・3 SK9 上層・4 SK9 貝層・5 SK9 全層・6 SK10 全層・7 SK12 上層・8 SK12 全層

图版 4



1 SK13 全照 · 2 SK14 全照 · 3 SK15 全照 · 4 SK16.17 全照 · 5 SK20 全照 · 6 SK21 全照 · 7 SK22 全照 · 8 SK23 全照



1 SK24 遺物・2 SK26 全景・3 SD1 西端土層・4 SD1 東端土層・5 SD1 全景 (西より)



(1) SB1北西部(西より)



(2) SU1土層断面(南より)



SI I 出土繩文土器



SI 出土繩文土器



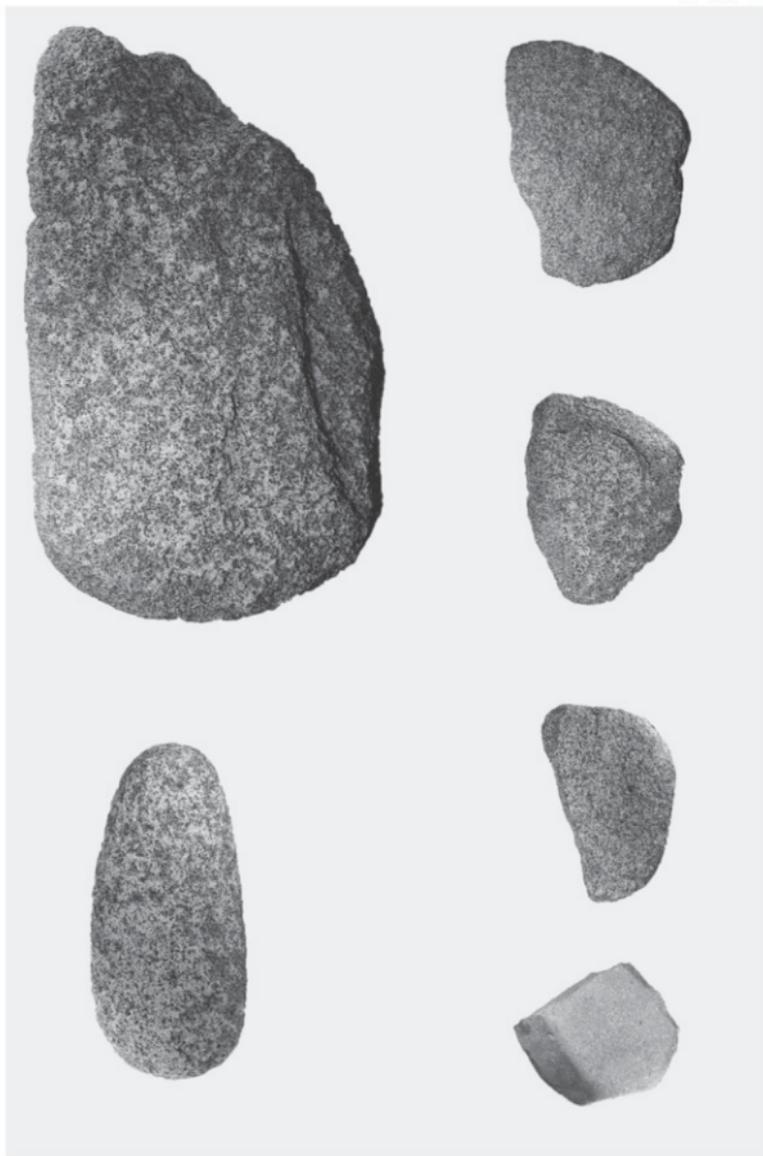
(1) SI1出土石器・土製品



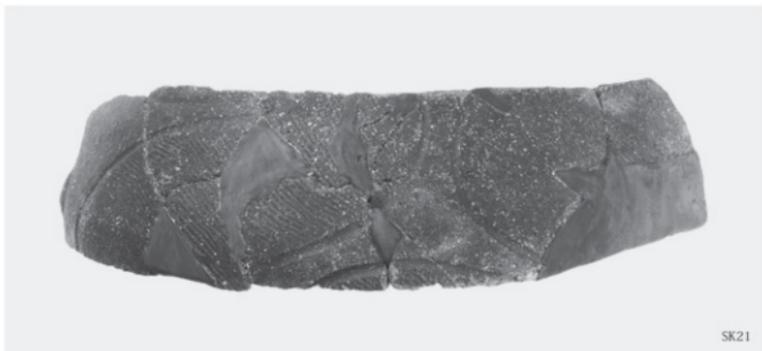
(2) SK9出土縄文土器



SK9 出土縄文土器・石器・釣針



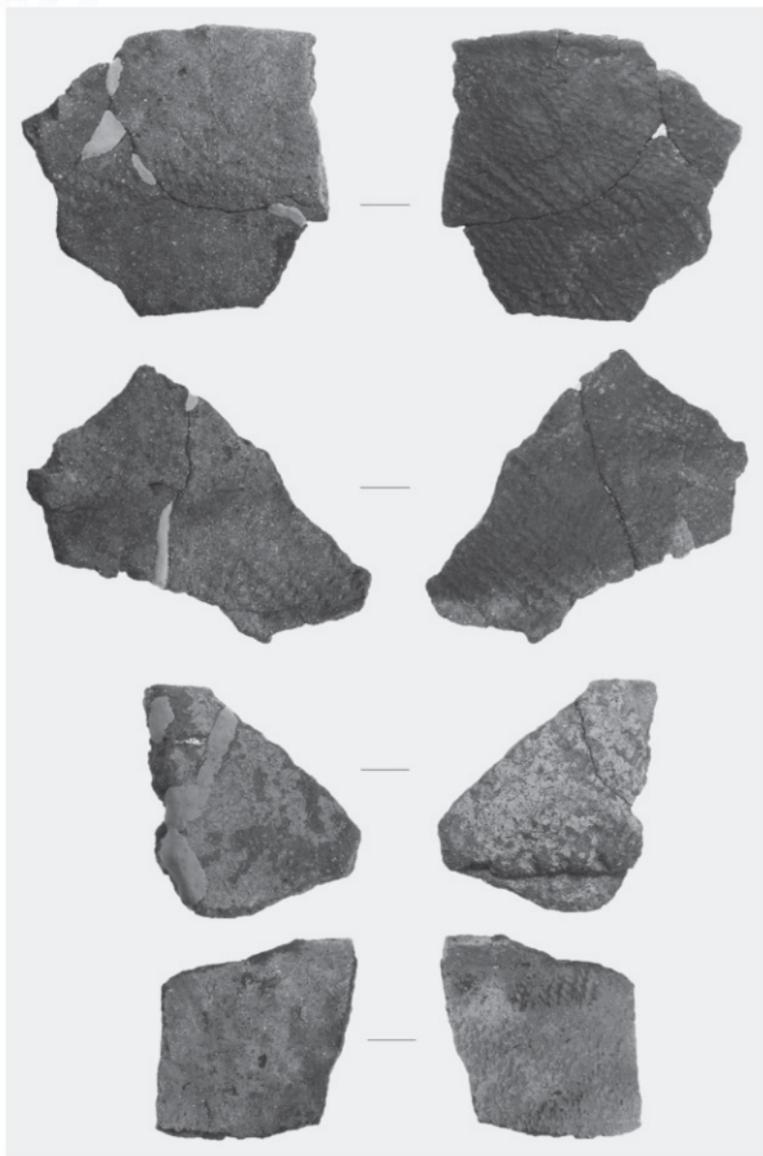
SK12 出土石皿・磨石・砥石



SK14・SK20・SK21 出土縄文土器・土製品・土偶



SK24 出土繩文土器



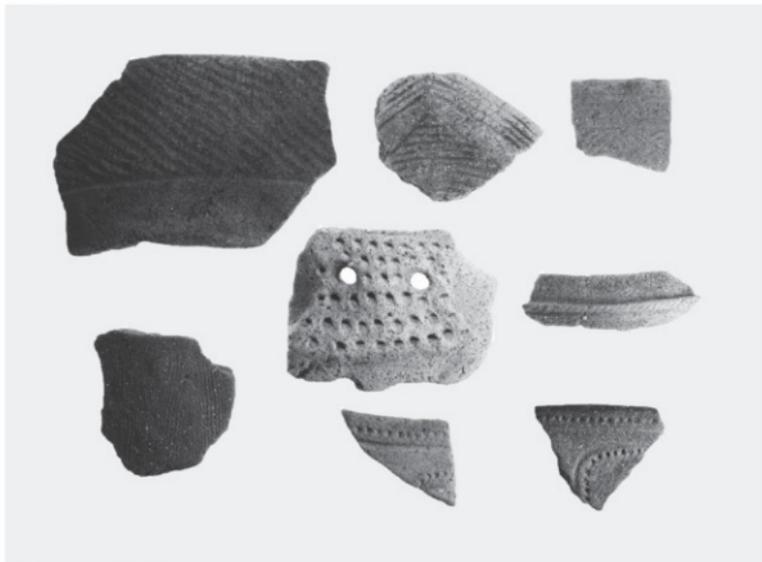
SD 1 出土繩文土器



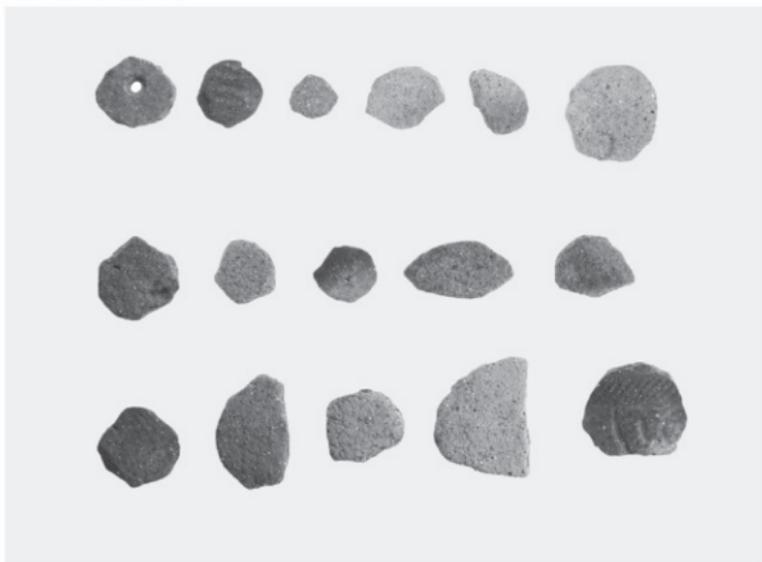
(1) SD1 出土绳纹土器(表)



(2) SD1 出土绳纹土器(里)



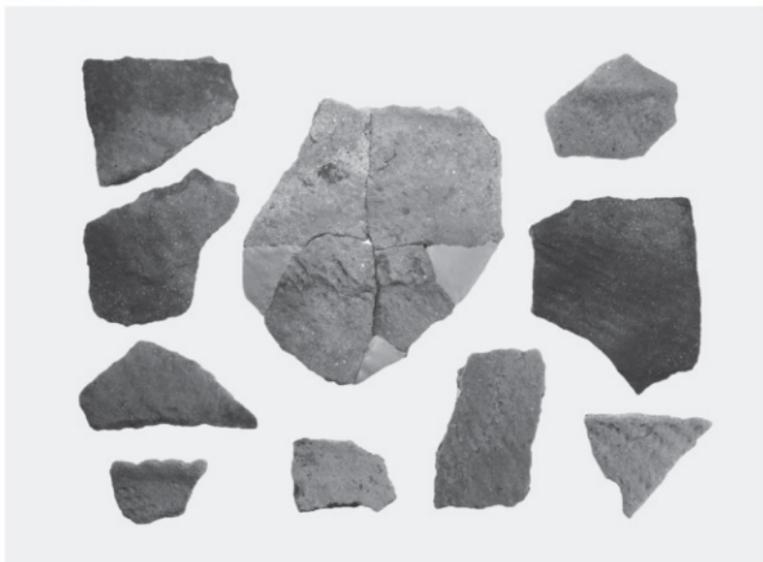
(1) SD1 出土繩文土器



(2) SD1 出土土製品



SD 1 出土石器・腕輪形土製品



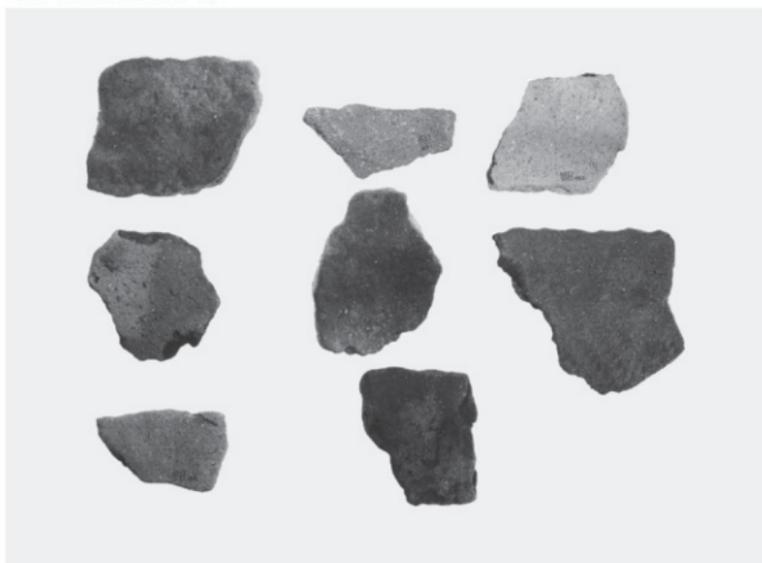
(1) SU1 出土繩文土器 (表)



(2) SU1 出土繩文土器 (裏)



(1) SU1出土繩文土器(表)



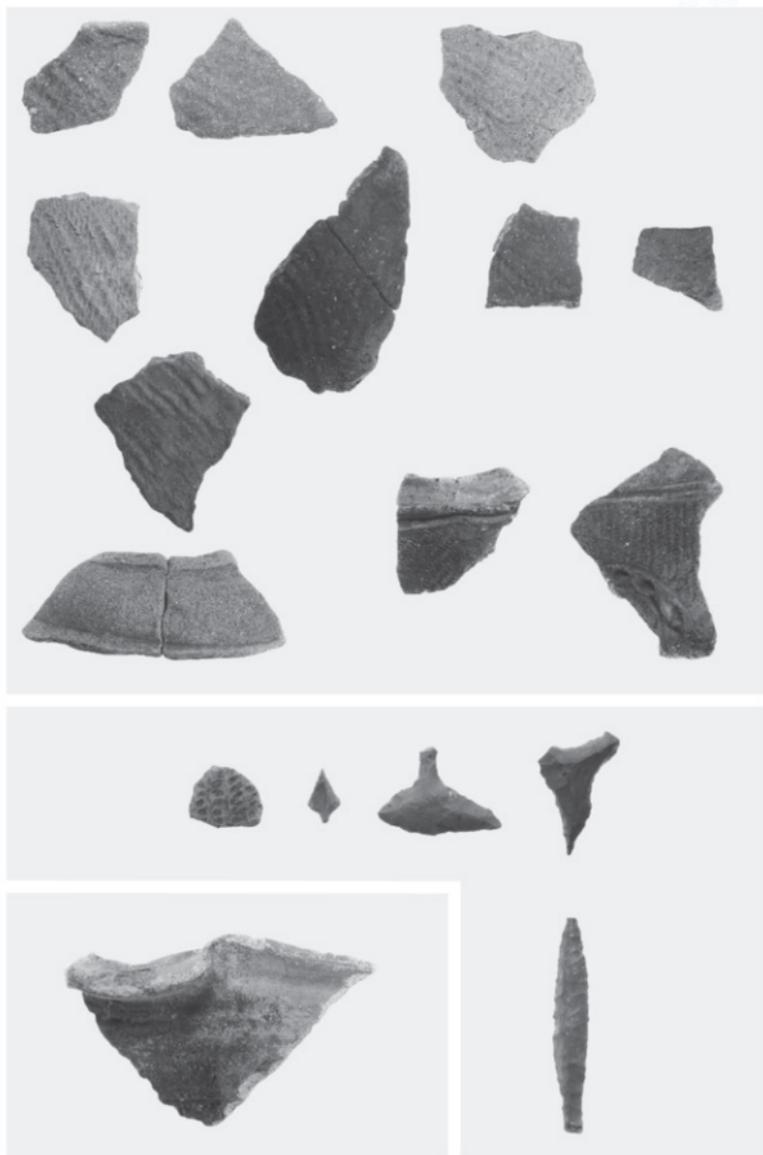
(2) SU1出土繩文土器(裏)



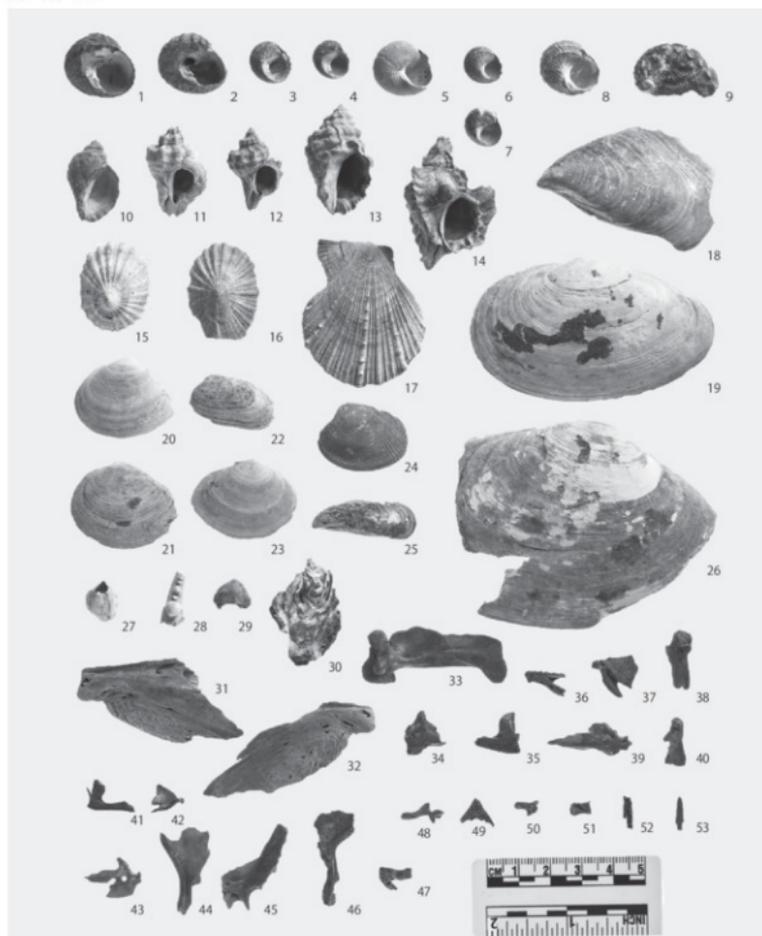
(1) SU1 出土石器



(2) SU1 出土石器



表土出土の縄文土器・土製品・石器・中世片口鉢



SK9動物遺存体

1.クボガイ 2.コシダカガンガラ 3.インダタミ 4.クロツケガイ 5.エビスガイ 6.タマキビ 7.クロタマキビ 8.スガイ 9.ミミガイ科  
 10.チヂミボラ 11.オウウヨウラク 12.エゾヨウラク 13.イボニシ 14.ヒレガイ 15.ユキノカサガイ 16.サルアワビ 17.アズマニシ  
 キ 18.イガイ 19.オオノガイ 20.ヒメシラトリ 21.シラトリモドキ 22.カリガネエガイ 23.シオサザナミ科 24.アサリ 25.ムラサ  
 キインコ 26.ミルクイ 27.アカフジツボ 28.十脚目 29.新ヒザラガイ目 30.マガキ

31~32.ブリ属両骨 33~34.マダイ亜科 (33.上上顎骨 34.角骨) 35.スズキ属前上顎骨 36~40.アイナメ属 (36.両骨 37.方骨 38.間腮  
 蓋骨 39.角骨 40.上舌骨) 41~45.カサゴ亜目 (41.前上顎骨 42.方骨 43.角骨 44.腹蓋骨 45.前腮蓋骨) 46~49.ウミナゴ科 (46.  
 腹蓋骨 47.両骨 48.上上顎骨 49.下顎蓋骨) 50~51.サハ属 (50.上上顎骨 51.腹椎) 52.タラ科前上顎骨 53.エイ上目尾棘

## 報告書抄録

ふりがな	なかざわいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	中沢遺跡発掘調査報告書						
シリーズ名	陸前高田市文化財調査報告						
シリーズ番号	第31集						
編著者名	佐藤典邦 松崎哲也 山崎 健 山田凜太郎						
編集機関	陸前高田市教育委員会						
所在地	〒029-2292 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL:0192-54-2111						
発行年月日	2017年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コ ー 下		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		
なかざわいせき 中沢遺跡	NAKAZAWA ISHIBAKI 岩手県陸前高田市 鳴石字大木9式発掘地 広田町字中沢7-7 ・78他	03210	NF88-1278	38° 57' 23"	141° 41' 34"	2013年 12月5日～12月26日 2014年 1月7日～3月31日	1637.47 m <sup>2</sup>
調査原因	防災集団移転促進事業（泊地区）に伴う事前発掘調査						
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
中沢遺跡	散布地	縄文時代 中世	竪穴住居跡 1棟 土 坑 26基 掘立柱建物跡 1棟 棚 列 4基 溝 1条 ピット 86個 遺物包含層 1カ所	縄文時代早期表裏縄文 ・中期大木9式・後期 宝ヶ塚式土器	縄文早期後葉の土器資料が 纏まって出土している。 縄文中期後葉の上坑に貝層 が残存していた。 中世の掘立柱建物跡と空堀 と考えられる溝が検出され ている。		

陸前高田市文化財調査報告 第31集

---

---

中沢遺跡発掘調査報告書

印刷 平成29年3月24日

発行 平成29年3月31日

編集・発行 陸前高田市教育委員会

〒029-2292 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5

TEL:0192-54-2111

印刷 有限会社 第一印刷

〒029-2203 岩手県陸前高田市竹駒町字相川1-1

TEL:0192-55-5155

---

---